# 財団法人八尾市文化財調査研究会報告45

Ⅰ　東郷遺跡（第25次調査）

Ⅱ　宮町遺跡（第1次調査）

1995年3月

財団法人　八尾市文化財調査研究会

# 財団法人八尾市文化財調査研究会報告45

Ⅰ　束郷遺跡（第25次調査）

Ⅱ　宮町遺跡（第1次調査）

1995年3月

財団法人　八尾市文化財調査研究会

# はしがき

八尾市の位置する河内平野は、古来より幾度となく旧大和川の氾濫を受けながら、その自然環境のもと、豊かな土壌に育まれてきた地域であります。この平野部には古来より先人達が生活するうえで築いてきた貴重な文化遺産が数多く埋蔵されております。また同市の東部に連なる信貴生駒山系の西麓部にも平野部と同様、数多くの文化遺産が埋蔵されています。

近年八尾市では、大小様々な分野での都市開発事業が進められるようになり、21世紀に向け近代都市へと大きく変貌しようとしております。しかし、こうした都市開発は便利さや豊かさを与えてくれる反面、先人達の数々の足跡である文化遺産を破壊する危険な面を持っています。確かに一部の遺跡では整備され保存・保護されているとはいえ、そのほとんどは痕跡を止めず消滅していきます。そこで、私共では「開発の波」に呑まれ、失われていく貴重な文化遺産を後世の人々へ伝承することが責務であると認識し、破壊される遺跡については発掘調査を実施して記録保存に努めております。

今回、昭和62年度に実施しました東郷遺跡（第25次）と平成３年度に実施しました宮町遺跡（第１次）の調査、整理が完了しましたので報告書を刊行する運びとなりました。本書が学術研究及び本市の地域史の資料として、さらに文化財保護への啓発普及に活用して頂ければ幸いであります。

末筆となりましたが、調査においてご協力いただきました関係各位の皆様方に深くお礼申し上げますとともに、今後ともより一層のご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。

1995年３月

財団法人　八尾市文化財調査研究会
理事長　木　山　丈　司

# 序

1．本書は財団法人八尾市文化財調査研究会が昭和62年度と平成３年度に実施した発掘調査成果報告を収録したもので、内業整理及び本書作成業務は各現場終了後に着手し、平成７年１月をもって終了した。

1．本書に収録した報告は、下記のとおりである。

1．本書掲載の地図は、大阪府八尾市市役所発行の2,500分の1（昭和61年８月）、八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布図』（平成５年10月１日改訂）をもとに作成した。

1．本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海水面である。

1．本書で用いた方位は磁北及び国土座標の真北を示している。

1．遺構は下記の略号で表した。

溝－ＳＤ　井戸－ＳＥ　土坑－ＳＫ　小穴－ＳＰ　不明遺構－ＳＸ

1．遺物実測図は、断面の表示によって次のように分類した。

弥生土器・土師器・瓦器・瓦・埴輪・石製－白、須恵器・陶磁器－黒、木製品－斜線。

1．各調査に際して発掘調査、写真・実測図の他にカラースライドも多数作成している。市民の方々が、広く利用されることを希望する。

# 目　　次

はしがき

序

目次

八尾市埋蔵文化財分布図

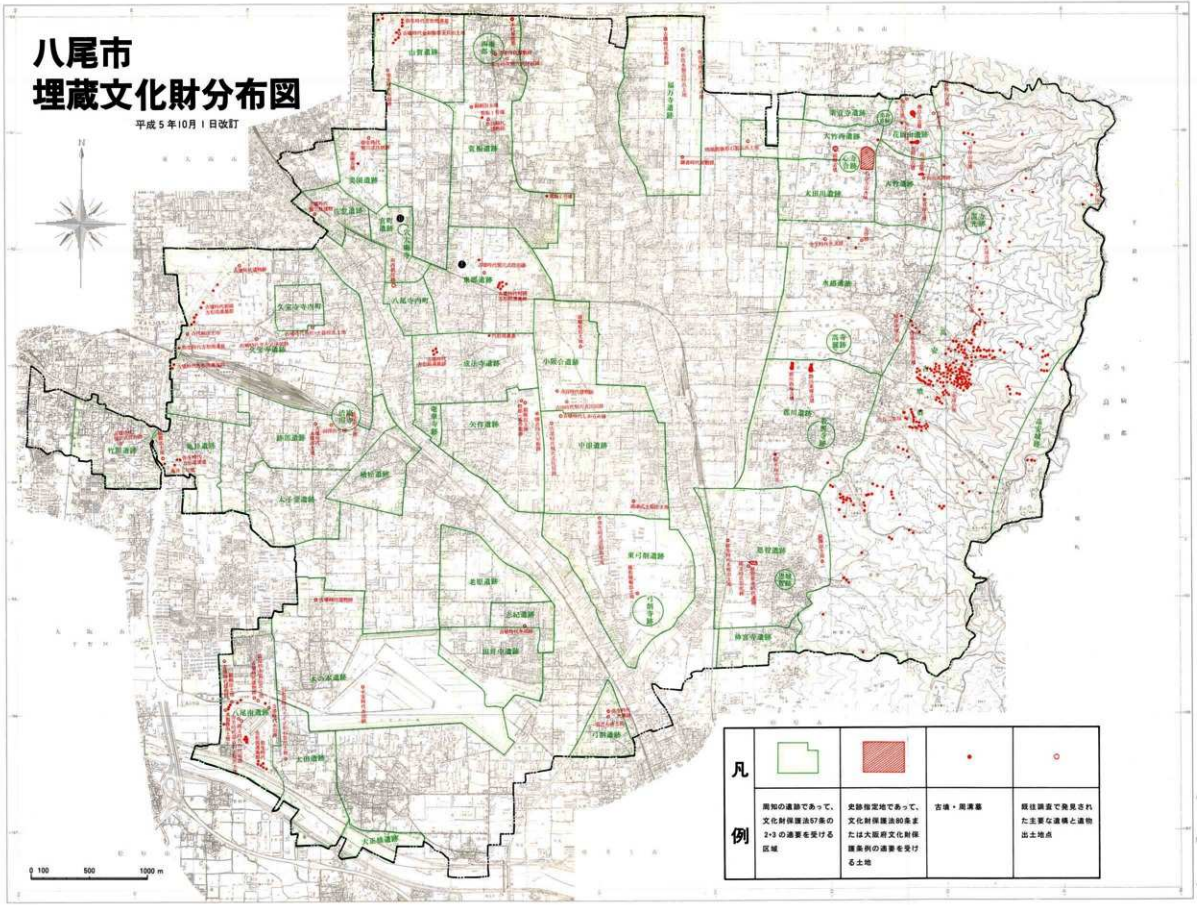
Ⅰ　東郷遺跡第25次調査（TG87－25）…… 1

Ⅱ　宮町遺跡第１次調査（MM91－1）……49

報告書抄録

# 八尾市
# 埋蔵文化財分布図

平成５年10月１日改訂



# Ⅰ　東郷遺跡第25次調査（TG87－25）

# 例　　言

1．本書は八尾市北本町２丁目240．241．242で実施した遊戯場等建設事業に伴う発掘調査の報告である。

1．本書で報告する東郷遺跡第25次調査（遺跡略号ＴＧ87－25）の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第46号　昭和62年６月８日）に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が小倉幸太郎・古岡九一から委託を受けて実施したものである。

1．現地調査は昭和62年７月20日から同年９月17日にかけて、西村公助を担当者として実施した。調査面積約900㎡を測る。なお調査には岡田聖一、小林智恵、橋田洋子、山口ひろみ、山内千恵子が参加した。

1．内業整理は、現地調査終了後実施し平成７年１月に完了した。

1．本書作成に関わる業務は、遺物復元－西村（公）・中西明美・西村和子、遺物実測－高橋尚子・中西・西村（和）・石原好恵、図面レイアウト・トレース－西村（公）・中西・西村（和）・能勢尚樹、遺物写真撮影－西村（公）が行なった。

1．付章「東郷遺跡出土土器の砂礫」については大阪府八尾市立曙川小学校教諭奥田尚氏に依頼した。

1．本書の執筆および編集は西村（公）が行なった。

# 本　文　目　次

第１章　調査に至る経過……1
第２章　地理　歴史的環境……5
第３章　調査概要……6
　第１節．調査の方法と経過……6
　第２節．基本層序……7
　第３節．検出遺構・出土遺物……11
　　１）第１面……11
　　２）第２面……19
第４章　出土遺物観察表……37
第５章　まとめ……43
付章　「東郷遺跡出土土器の砂礫」……45

# 挿　図　目　次


第1図　調査地周辺図…… 2
第2図　調査区設定図…… 4
第3図　基本層序図…… 9・10
第4図　第5層（1）出土遺物実測図 ……12
第5図　SE-106 平断面図 ……12
第6図　SE-106（2～5）出土遺物実測図 ……12
第7図　SE-107 平断面図 ……13
第8図　SE-107（6）出土遺物実測図 ……13
第9図　第6層（7・8）出土遺物実測図……14
第10図　畦畔101（9）出土遺物実測図……15
第11図　畦畔101～畦畔104 断面図 ……16
第12図　第8層（10～12）出土遺物実測図……16
第13図　第1面 平面実測図 ……17・18
第14図　SE-201 平断面図 ……19
第15図　SE-201（13～16）出土遺物実測図 ……20
第16図　SE-202 平断面図 ……20
第17図　SE-202（17～31）出土遺物実測図 ……22
第18図　SD-214［第1区］平断面図 ……26
第19図　SD-214［第1区］（32～42）出土遺物実測図 ……27
第20図　SD-214［第2区］平断面図 ……28
第21図　SD-214［第2区］（43～60）出土遺物実測図 ……29
第22図　SD-220 平断面図 ……30
第23図　SD-220（61～82）出土遺物実測図 ……31
第24図　畦畔201・畦畔202 断面図 ……34
第25図　第2面 平面実測図 ……35・36


# 表　目　次


第1表　東郷遺跡発掘調査一覧表…… 3

第2表　第1面 水田一覧表 ……15
第3表　第1面 畦畔一覧表 ……15
第4表　第2面 小穴（SP）一覧表 ……24
第5表　第2面 水田一覧表 ……33
第6表　第2面 畦畔一覧表 ……33

# 写　真　目　次

写真1　調査地周辺（南から） …… 1
写真2　調査状況（南から） …… 1
写真3　SE-106 遺物出土状況（東から） ……13
写真4　SE-106 完掘状況（東から） ……13
写真5　第1面 調査状況［第1区］（南から） ……15
写真6　SE-201 遺物出土状況（南から） ……19
写真7　SE-202 遺物出土状況（西から） ……21
写真8　SE-202 完掘状況（西から） ……21
写真9　SD-214［第1区］遺物出土状況（西から） ……27
写真10　SD-214［第2区］遺物出土状況（東から） ……27
写真11　SD-220 遺物出土状況（北から） ……32
写真12　第2面 調査状況［第2区］（北から） ……34

# 図　版　目　次

図版一　第1区 第1面全景（北から）
　　第2区 第1面全景（北から）
図版二　第1区 第2面全景（北から）
　　第2区 第2面全景（北から）
図版三　SE-106（2）SE-201（13～16）出土遺物
図版四　SE-202（17～19・22・23・29・30）出土遺物
図版五　SD-214（32～34・37・38・43・45・54～56）出土遺物
図版六　SD-220（61～63・65～70・74・75・82）出土遺物

# 第1章　調査に至る経過

東郷遺跡は大阪府八尾市のほぼ中央部に位置しており、現在の行政区画では本町1丁目・7丁目、東本町1丁目～5丁目、北本町2丁目、光町1丁目・2丁目、桜ヶ丘1丁目～4丁目、荘内町1丁目・2丁目一帯の東西約1.1㎞、南北約0.9㎞の範囲にある。

当遺跡の発見の経緯は、東本町2丁目（光明寺裏付近）で昭和46年4月に水道工事が行なわれ、掘削の際に地表下1.5ｍで墨書人面土器等が出土し、遺跡が存在していることが確認されたことによる。

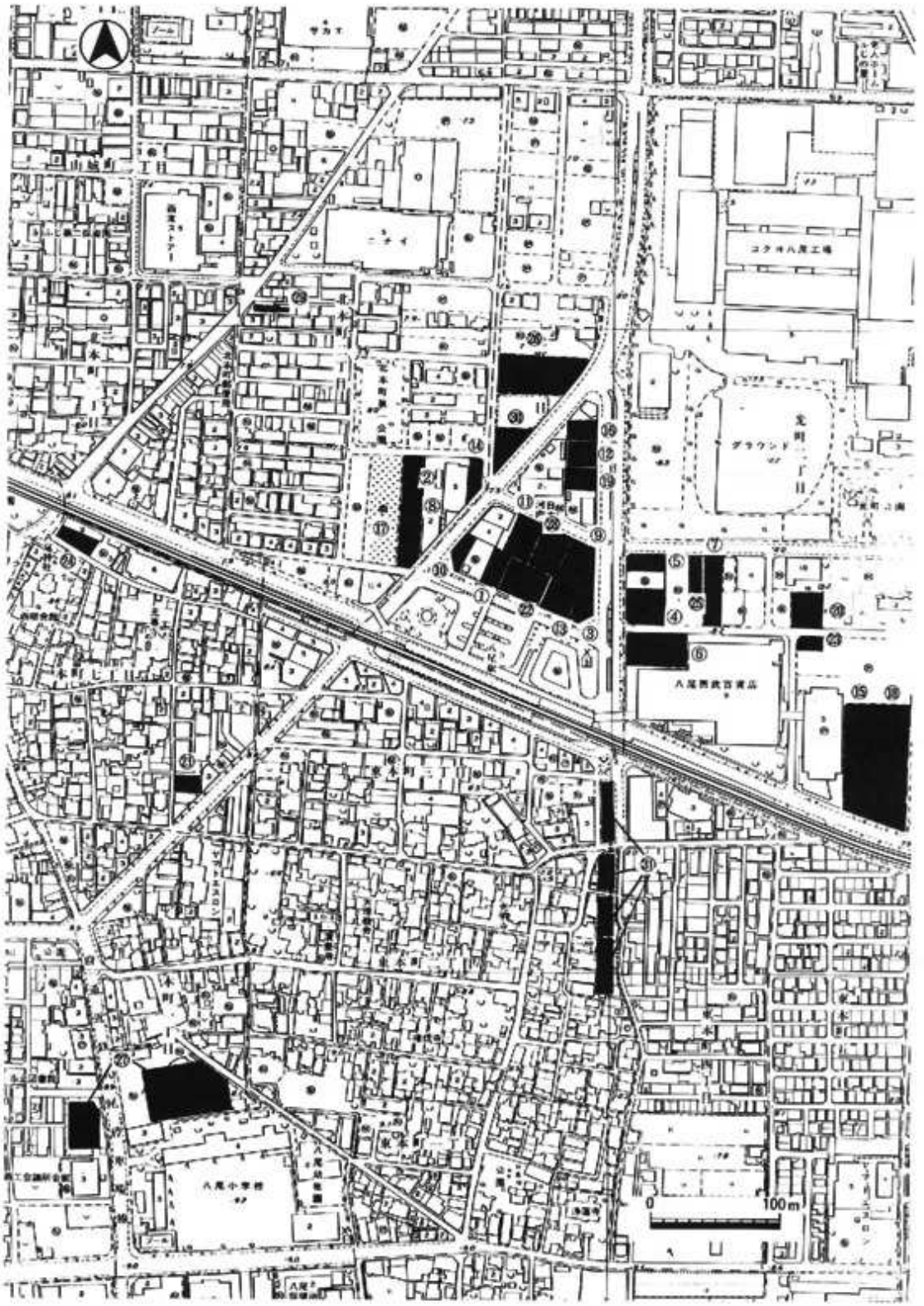
この掘削工事以降、近鉄大阪線高架工事や下水道工事等で若干の遺物包含層の存在が確認されているが、遺跡の実体は明らかにされていなかった。しかし、近鉄八尾駅が高架工事に伴って現在の位置に移された後、特に昭和50年代後半以降から、近鉄八尾駅前周辺（主に北側）では、ビル建設等の開発に伴う工事が多く行なわれるようになった。この工事に伴う発掘調査を、平成6年12月までに、八尾市教育委員会と当調査研究会によって計48件行なっている（第1表と第1図参照）。また当遺跡内では大阪府教育委員会も数件の調査を行なっている。それらの発掘調査の結果、弥生時代から近代に至る遺構および遺物が検出されており、特に古墳時代前期の集落が近鉄八尾駅前北側一帯に存在していたことが明確になっている等、遺跡の実体が解明されつつある現状である。

写真1　調査地周辺（南から）

写真2　調査状況（南から）

このような情勢下、小倉幸太郎氏、吉岡九一氏から北本町2丁目240. 241. 242において遊戯場等のビル建設の計画書が八尾市教育委員会文化財課に提出された。

同文化財課では、計画地が東郷遺跡の遺跡範囲内にあり、計画地の東隣で発掘調査を実施した第4次調査と第12




第1図　調査地周辺図

| 地図番号 | 略号 | 次 | 年度 | 調査期間 | 面積 | 調査原因 | 住所 | 機関 | 参考文献 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | TG80-01 | 1 | S55 | S560110~0121 | 48 | 店舗付共同住宅 | 桜ヶ丘3丁目8 1，8 9 | 市教委 | 市教委 八尾市文化財発掘調査報告6 | |
| | TG81-02 | 2 | S56 | S560415 | 9 | 店舗付住宅 | 桜ヶ丘3丁目7，8－1 | 市教委 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告2 | |
| ① | TG81-03 | 3 | S56 | S560413~0415 | 64 | 貸ビル | 光町1丁目69－2 | 市教委 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告2 | |
| ② | TG81-04 | 4 | S56 | S560513~0526 | 125 | 貸ビル | 北本町2丁目145－19 | 市教委 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告2 | |
| ③ | TG81-05 | 5 | S56 | S560608~0707 | 156 | 貸ビル | 光町1丁目86 | 市教委 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告2 | |
| | TG81-06 | 6 | S56 | S560728~0808 | 40 | 社会保険事務所庁舎 | 桜ヶ丘2丁目9他 | 市教委 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告2 | |
| | TG81-07 | 7 | S56 | S560821~1031 | 200 | 社屋建設 | 桜ヶ丘3丁目 | 市教委 | | |
| ④ | TG81-08 | 8 | S56 | S561015~1204 | 560 | 貸ビル | 光町2丁目156 | 市教委 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告2 | |
| ⑤ | TG81-09 | 9 | S56 | S561204~1223 | 210 | 貸ビル | 光町1丁目47 | 市教委 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告2 | |
| ⑥ | TG81-10 | 10 | S56 | S570301~0312 | 621 | 貸ビル | 光町2丁目17 | 市教委 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告2 | |
| ⑦ | TG82-11 | 11 | S57 | S570508~0610 | 500 | 共同住宅 | 光町2丁目 | 市教委 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告17 | |
| ⑧ | TG82-12 | 12 | S57 | S570805~0827 | 200 | 貸ビル | 北本町2丁目133 1・2 134－3 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告17 | |
| | TG82-13 | 13 | S57 | S570916~1012 | 300 | 共同住宅 | 桜ヶ丘3丁目32－3 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告17 | |
| ⑨ | TG82-14 | 14 | S57 | S580318~0411 | 480 | 店舗 | 光町1丁目72 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告17 | |
| ⑩ | TG83-15 | 15 | S58 | S580613~0625 | 300 | 貸ビル | 光町1丁目136 2 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告17 | |
| ⑪ | TG83-16 | 16 | S58 | S580801~0813 | 200 | 貸ビル | 光町1丁目69－2 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告17 | |
| ⑫ | TG83-17 | 17 | S58 | S581124~1215 | 480 | 貸ビル | 光町1丁目47－1他 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告6 | |
| ⑬ | TG83-18 | 18 | S58 | S590301~0410 | 546 | 店舗住宅 | 光町1丁目19－3 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告17 | |
| ⑭ | TG85-19 | 19 | S60 | S600401~0427 | 207 | ビル建設 | 北本町2丁目232 | 市教委 | 市教委 八尾市文化財調査報告12 | |
| ⑮ | TG85-20 | 20 | S60 | S601009~S610310 | 1,665 | 文化会館建設 | 光町2丁目40他 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告13 | |
| ⑯ | TG86-21 | 21 | S61 | S611028~1115 | 80 | 病院建設 | 光町1丁目43・44 | 市教委 | 市教委 八尾市文化財調査報告13 | |
| | TG86-22 | 22 | S61 | S611215~1227 | 90 | 店舗建設 | 桜ヶ丘1丁目25・26 | 市教委 | 市教委 八尾市文化財調査報告15 | |
| | TG86-23 | 23 | S61 | S620216~0318 | 598 | 共同住宅 | 荘内町1丁目地内 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告29 | |
| | TG87-24 | 24 | S62 | S620408~0423 | 258 | 共同住宅 | 桜ヶ丘3丁目124－1 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告29 | |
| ⑰ | TG87-25 | 25 | S62 | S620720~0917 | 900 | 共同住宅 | 北本町2丁目240~242 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告16 | 今回の調査 |
| | TG87-26 | 26 | S62 | S620616~0729 | 49 | 日本電信電話会社 | 荘内町1丁目28~31 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告16 | |
| ⑱ | TG87-27 | 27 | S62 | S630123~0106 | 321.25 | 文化会館建設 | 光町1丁目40 | 市教委 | 市教委 八尾市文化財調査報告18 | |
| ⑲ | TG88-28 | 28 | S63 | S630726~0811 | 86 | ビル建設 | 光町1丁目47 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告25 | |
| ⑳ | TG88-29 | 29 | S63 | H010306~0325 | 220 | 共同住宅 | 光町2丁目28 1 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告25 | |
| ㉑ | TG89-30 | 30 | H01 | H010417~0428 | 85 | 共同住宅 | 本町7丁目39－1 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告28 | |
| ㉒ | TG89-31 | 31 | H01 | H010508~0708 | 660 | 事務所建設 | 光町1丁目61 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告28 | |
| ㉓ | TG89-32 | 32 | H01 | H010925~1007 | 130 | 共同住宅 | 光町2丁目59 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告28 | |
| | TG90-33 | 33 | H02 | H020510~0604 | 300 | 共同住宅 | 桜ヶ丘1丁目39 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告41 | |
| ㉔ | TG90-34 | 34 | H02 | H030108~0123 | 240 | 共同住宅 | 本町7丁目89－2番地他8筆 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会平成2年度事業報告 | |
| ㉕ | TG90-35 | 35 | H02 | H030304~0319 | 140 | 共同住宅 | 光町2丁目19 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告41 | |
| ㉖ | TG91-36 | 36 | H03 | H030530~0618 | 580 | 自動車展示場 | 光町1丁目37番地 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会平成3年度事業報告 | |
| ㉗ | TG91-37 | 37 | H03 | H030601~0930 | 3,477 | 市役所建て替え | 本町1丁目91・2丁目114 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会平成3年度事業報告 | |
| | TG91-38 | 38 | H03 | H040219~0220 | 9 | 防火水槽 | 光町2丁目5番地 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告34 | |
| | TG92-39 | 39 | H04 | H041028~1107 | 50 | 公共下水道第3工区 | 荘内町2丁目地内 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会報告30 | |
| ㉘ | TG93-40 | 40 | H05 | H050603~0628 | 352 | 共同住宅 | 光町1丁目51番地・52番地 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会平成5年度事業報告 | |
| ㉙ | TG93-41 | 41 | H05 | H050830~0906 | 120 | 共同住宅 | 北本町2丁目43－1の一部，43 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会平成5年度事業報告 | |
| | TG93-42 | 42 | H05 | H051201~1213 | 208 | 共同住宅 | 荘内町2丁目15・16・17・18 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会平成5年度事業報告 | |
| | TG93-43 | 43 | H05 | H051213~1227 | 306 | 共同住宅 | 荘内町1丁目38－10 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会平成5年度事業報告 | |
| ㉚ | TG93-44 | 44 | H05 | H060110~0309 | 370 | ホテル等建設 | 光町1丁目39・40・41 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会平成5年度事業報告 | |
| | TG93-45 | 45 | H05 | H060316~0401 | 200 | 共同住宅 | 桜ヶ丘3丁目45番地・49番地 | 研究会 | ㈶八尾市文化財調査研究会平成5年度事業報告 | |
| ㉛ | TG93-46 | 46 | H06 | H060718~0927 | 1,600 | 道路築造 | 東本町1丁目~4丁目地内 | 研究会 | | |
| | TG93-47 | 47 | H06 | H060901~0903 | 760 | 共同住宅 | 桜ヶ丘1丁目34，37番地 | 研究会 | | |
| | TG93-48 | 48 | H06 | H061024~1214 | 630 | 共同住宅 | 桜ヶ丘1丁目23，24番地 | 研究会 | | |

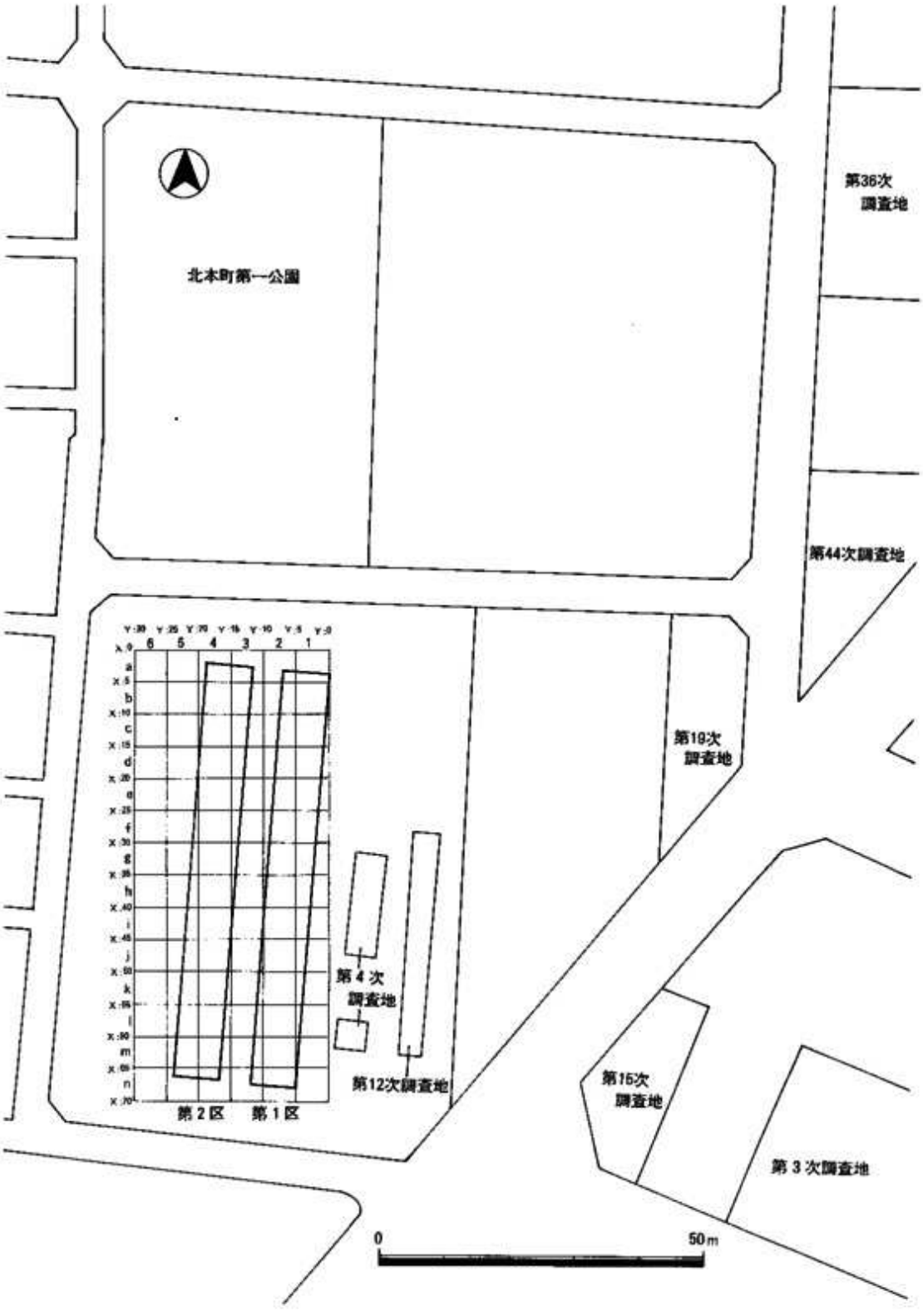
○番号は、第1図調査地周辺図に位置を掲載した

市教委＝八尾市教育委員会
研究会＝財団法人 八尾市文化財調査研究会

**第1表 東郷遺跡発掘調査一覧表**

次調査では、古墳時代の遺構および包含層を確認していることから、当計画地でも埋蔵文化財があると予想され、発掘調査が必要であると判断した。同文化財課は発掘調査が必要である旨を事業者に通知し、建設工事により遺構の破壊が予想される部分を対象に発掘調査を実施することが両者で合意された。

上記のことにより、当調査研究会へ発掘調査が依頼されたものである。今回の調査地は、近鉄八尾駅の北西側約50ｍに位置し、東郷遺跡推定範囲内の西部にあたる。調査は遊戯場等のビル建設に伴うもので、当調査研究会が東郷遺跡内で実施した第25次調査（遺跡略号ＴＧ87－25）である。


北本町第一公園
第36次
調査地
第44次調査地
第18次
調査地
第4次
調査地
第12次調査地
第15次
調査地
第3次調査地
第2区
第1区
0
50m

第2図　調査区設定図

# 第2章　地理　歴史的環境

東郷遺跡は、現在の行政区画では八尾市の中央部の本町1丁目・7丁目、東本町1丁目～5丁目、北本町2丁目、光町1丁目・2丁目、桜ヶ丘1丁目～4丁目、荘内町1丁目・2丁目一帯に所在している。

当遺跡は大阪府八尾市のほぼ中央部に位置しており、旧大和川本流であった長瀬川と玉串川に挟まれた平野内にある。この平野は、東を生駒山地、西を上町台地、北を淀川、南を羽曳野丘陵によって囲まれている東西約10km、南北約20kmの沖積低地で、河内平野と呼ばれている地域である。この低地の形成は、海水準の昇降による侵食基準面の移動と、平野内を流れる河川による堆積作用が大部分を占めている。

旧石器時代から縄文時代中期頃までは、河内湾と呼ばれる海が、河内平野の八尾市域の亀井遺跡付近まで入り込んでいたことが報告されている。縄文時代中期以降この湾は、徐々に後退して行き、現在の大阪湾となる。この後退に伴って湾にそそぎ込む大小様々な河川の堆積作用が活発になり、やがて湾から潟へと変わって行く時期が縄文時代晩期から弥生時代前期である。

八尾市域の現在平野となっている部分は、海から陸地へ変化し、汀が徐々に後退していった。縄文時代晩期の八尾市域の特に平野部内では、山賀遺跡でこの時期の遺物の出土があり、また鹿と人間の足跡が検出されており、当時の集落が存在していた可能性があると考えられている。

弥生時代前期には、平野部の未開拓の土地に定住し、集落を形成しはじめるようになる。平野内を北西方向に流れている大小の河川に沿って形成される自然堤防上等の微高地に集落を営み、低地で水田等の農耕を行なっていたと考えられる。弥生時代前期の集落が存在していることは山賀遺跡、美園遺跡、亀井遺跡、田井中遺跡等の発掘調査で明らかにされており、特に山賀遺跡や亀井遺跡では、同時期の古い段階以降、平野部での人々の生活が始まっていることが確認された。

弥生時代中期には、東郷遺跡でも遺構を検出しており、同時期以降から近世まで連綿と集落が営まれていたことが最近の発掘調査によって明らかになっている。

沖積低地には、埋没して現在では存在しない中小河川が多く存在していたことが最近の発掘調査によって明らかにされている。それらの河川に沿って形成される自然堤防上等の微高地に集落を営んでいた。同一の沖積低地の自然堤防上等の微高地には、数多くの遺跡が存在していることが明らかになっている。当遺跡に近接している豊浜遺跡や久宝寺遺跡では、弥生時代前期から、成法寺遺跡では弥生時代後期からの集落を検出している等、この時期以降、現代に至るまで、沖積低地上に集落を営んでおり、居住している場所の移動は若干あるものの、定住し

始めていることが明らかになっている。

参考文献
・八尾市役所『八尾市史』（前近代）本文編　昭和63年10月27日
・鹿山彦太郎・市原実『大阪平野の発達史』－14C年代データから見た　地質学論集第7号 1972年12月
・財団法人大阪文化財センター『亀井・城山』寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書　昭和55年12月25日
・財団法人大阪文化財センター『山賀遺跡（その4）』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書　昭和58年10月20日
・財団法人大阪文化財センター『美園遺跡』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書　昭和60年3月30日
・財団法人大阪文化財センター『佐堂遺跡（その2）－1』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書　昭和59年3月30日

# 第3章　調査概要

## 第1節．調査の方法と経過

調査は遊戯場等建設予定地であり、この予定地に2箇所（**第1区・第2区**）の調査区を設定した。調査の面積は、**第1区・第2区**ともに約450㎡を測り、合計900㎡である。

調査においては、八尾市教育委員会の試掘調査の結果に基づいて、現地表下1.8m前後までを機械掘削し、以下の各層については人力掘削を実施した。調査地での地区割は、調査地の北東側に基準点を置き、この基準点から西へ30mと南へ70mにわたって設定した。一区画の単位は5m四方で、基準点から東西方向は算用数字（西から1～6）、南北方向はアルファベット（北からa～n）で示した。地区別の表示は、一区画の南西隅に交差する線を用い、1a～6n区と呼称した。

その結果、**第1区・第2区**ともに現地表下1.1～1.7m（標高TP+6.6～6.9m）に存在する第5層上面で近世の遺構を検出し、またこの面より0.1～0.3m下の第6層上面と第7層上面で平安時代後期から鎌倉時代の遺構を検出した（**第1面**）。また第1面より0.1～0.3m下の第9層の上面で古墳時代前期の遺構を検出した（**第2面**）。

## 第2節. 基本層序

第1区・第2区ともに比較的安定した土層の堆積状況が確認できた。ここでは、各調査区の西壁面を基本層序とする。

**第1区・第2区　西壁面**

第1層　盛土。現地表面標高はTP+8.0～TP+8.2mである。層厚1.2m前後で調査地の全域にわたって堆積する産業廃棄物を含む。

第2層　灰青色細砂混粘土。層厚0.2m。調査地の全域にわたって堆積していた。上面の標高はTP+7.0～TP+7.2mで、北から南に徐々に低くなっている。近年まで水田および畑等に利用されていた土壌である。

第3層　褐色細砂混粘土。層厚0.1～0.3m。

3'　細砂。層厚0.1～0.3m。第1区の北側では検出していない。上面の標高はTP+6.8～TP+7.0mである。

第4層　褐灰色細砂混粘質土。層厚0.1～0.3m。調査地の全域にわたって堆積していた。上面の標高はTP+6.7～TP+6.9mで、層内からは中世から近世にかけての土師器、瓦器等の破片が少量出土した。

第5層　褐灰色細砂混粘土。層厚0.1～0.3m。上面で近世の井戸遺構を検出した（第1面）。上面の標高はTP+6.6～TP+6.8mで、層内からは鎌倉時代初頭の瓦器の破片が出土した。

5'　灰褐色細砂混粘質土。層厚0.1～0.3m。

第6層　灰黄色細砂混粘土。層厚0.1m。調査区全域に広がって検出した第7層の水田土層を覆う洪水等の要因で堆積した土層である。上面で平安時代後期の井戸を検出した（第1面）。上面の標高はTP+6.5mで、層内からは平安時代後期の土師器の皿の破片が少量出土した。

第7層　灰褐色粘土。層厚0.1～0.2m。調査区全域に広がって検出した水田土層である。上面で平安時代後期以前の水田を検出した（第1面）。上面の標高はTP+6.2～TP+6.5mで、北から南に向かって低くなっている。水田はこの地形条件から北から取水し南へ排水していたと仮定できる。この層の上面には、耕作の際に歩行したと推定される足跡状の遺構が無数に残っていた。層内からは平安時代後期の土師器の破片が少量出土した。

第8層　灰褐色細砂混粘土。層厚0.1～0.2m。第1区と第2区の北側では検出していない。上面の標高はTP+6.2～TP+6.3mで、層内からは古墳時代前期の土師器の甕の破片が少量出土した。

8’　褐色粗細砂混粘質土。層厚0.1m。

第9層　黄灰色シルト混粘土。層厚0.1m。調査区全域に広がって検出した上層である。上面で古墳時代前期の遺構を検出した（第2面）。SD-214より南は粘土が堆積しており、水田を検出している。上面の標高はTP+6.0～TP+6.2mで、北から南に向かって低くなっている。層内からは土師器の破片が少量出土した。

第10層　灰色シルト。層厚0.1～0.3m。

10’　灰色粘土。層厚0.1～0.2m。

第11層　灰色シルト混粘土。層厚0.3m以上。

第12層　暗灰色細砂混粘土。層厚0.1～0.4m。

第13層　暗灰色シルト混粘土。層厚0.1～0.2m。

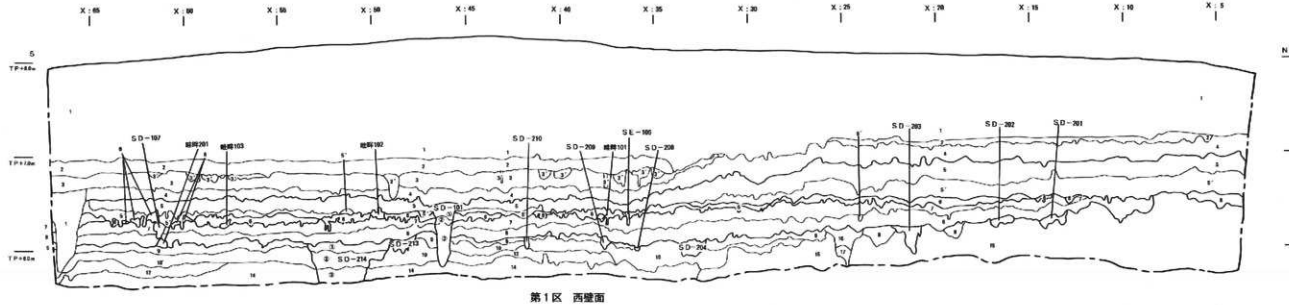
第14層　暗灰色細砂混粘土。層厚0.2m以上。

第15層　褐灰色粗砂混細砂（礫含む）。層厚0.6m以上。

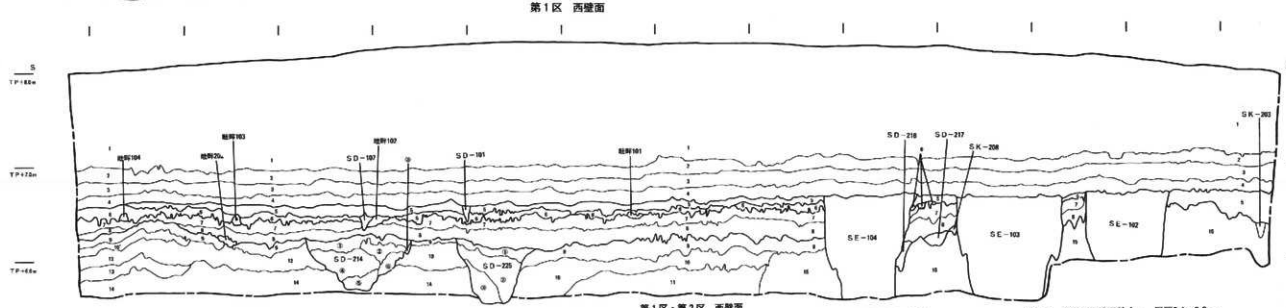
第16層　褐色粗砂混粘土。層厚0.15m。

第17層　灰褐色シルト混粘土。層厚0.2m。

なお、第10層から第17層は、調査区の全域で確認した土層で、古墳時代前期初頭以前に埋没した河川の堆積土層と推定される。北側に広がっている第15層は、礫を含む粗い砂が堆積しており、河川の激しい流れがあったことが推定される。この第15層が堆積した後、比較的緩やかな堆積状況を示しているシルトや細砂混粘土の堆積土の確認があり、河川が完全に埋没した後に古墳時代前期初頭の集落が営まれるようになったと推測される。




第1区　西壁面




第2区　西壁面

第1区・第2区　西壁面
第1層　盛土。（現地表面標高TP＋8.0～TP＋8.2m）層厚1.2m前後。
第2層　灰青色細砂混粘土。　層厚0.2m。（旧耕作土）。
第3層　褐色鋼砂混粘土。　層厚0.1～0.3m。
　3′　細砂。　層厚0.1～0.3m
第4層　褐灰色細砂混粘質土。　層厚0.1～0.3m。
第5層　褐灰色細砂混粘土。　層厚0.1～0.3m。
　上面は第1面である。
　5′　灰褐色細砂混粘質土。　層厚0.1～0.3m。
第6層　灰青色細砂混粘土。　層厚0.1m。調査区全域に広がっている第7層の水田土層を覆う洪水等の要因で堆積した土層である。上面は第1面である。
第7層　灰褐色粘土。　層厚0.1～0.2m。上面は第1面である。
第8層　灰褐色細砂混粘土。　層厚0.1～0.2m。
　8′　褐色無細砂混粘質土。層厚0.1m。
第9層　黄灰色シルト混粘土。　層厚0.1m。上面は第2面である。
　SD－214より南は粘土。
第10層　灰色シルト。　層厚0.1～0.3m。
　10′　灰色粘土。　層厚0.1～0.2m。
第11層　灰色シルト混粘土。　層厚0.3m以上。
第12層　暗灰色細砂混粘土。　層厚0.1～0.4m
第13層　暗灰色シルト混粘土。　層厚0.1～0.2m。
第14層　暗灰色細砂混粘土。　層厚0.2m以上。
第15層　褐灰色粗砂混細砂。（礫含む）　層厚0.6m以上。
第16層　褐色粗砂混粘土。　層厚0.15m。
第17層　灰褐色シルト混粘土。　層厚0.2m。

第3図　基本層序図

## 第3節．検出遺構・出土遺物

現地表下約1.1～1.7m（標高TP+6.6～TP+6.9m）前後に存在している第5層上面で近世の井戸5基（SE-101～SE-105）、溝1条（SD-101）を検出した。この面より約0.1～0.3m下層の第6層上面で平安時代後期から鎌倉時代初頭の井戸2基（SE-106・SE-107）、溝11条（SD-102～SD-112）を検出した。また第7層上面では平安時代後期の水田5筆（水田101～水田105）、畦畔4条（畦畔101～畦畔104）を検出した（第1面）。さらにこの面より約0.1～0.3m下層の第9層上面で古墳時代前期［庄内式期］の井戸2基（SE-201・SE-202）、土坑8基（SK-201～SK-208）、小穴15個（SP-201～SP-215）、溝25条（SD-201～SD-225）、水田4筆（水田201～水田204）、畦畔2条（畦畔201・畦畔202）を検出した（第2面）。

### 1）第1面

［第5層上面検出遺構］

井戸（SE）

**SE-101**

第2区（3a地区）で検出した近世の素掘りの井戸である。平面の形状は円形で、径2.2m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色粗砂混粘質土である。内部からは瓦の破片が少量出土した。

**SE-102**

第2区（4b・c地区）で検出した近世の素掘りの井戸である。平面の形状は円形で、径4.0m、深さ0.8mを測る。埋土は細砂および粗砂が混ざる粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

**SE-103**

第2区（4c・d地区）で検出した近世の素掘りの井戸である。平面の形状は楕円形で、長径5.5m、短径2.5m、深さ1.2mを測る。埋土は細砂および粗砂が混ざる粘土がブロック状に堆積している。内部からは陶磁器の破片が少量出土した。

**SE-104**

第2区（4e・f地区）で検出した近世の素掘りの井戸である。平面の形状は円形で、径4.4m、深さ1.1mを測る。埋土は細砂および粗砂が混ざる粘土がブロック状に堆積している。内部からは土師器の破片が少量出土した。

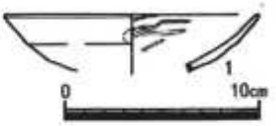
**SE-105**

第2区（4f地区）で検出した近世の素掘りの井戸である。平面の形状は楕円形で、長径2.7m、短径1.5m、深さ1.1mを測る。埋土は細砂およびシルトが混ざる粘土がブロック状に堆積している。内部からは瓦の破片が少量出土した。

溝（SD）

SD-101

**第1区から第2区**（1～5i・j地区）で検出した。検出長17m、幅0.6～2.0m、深さ0.5mを測る。埋土は上から灰褐色細砂混粘土、灰色粘土、灰色シルト混粘土、暗灰色シルト、灰色シルトで、内部からの遺物の出土はなかった。




第4図　第5層（1）出土遺物実測図

第5層内出土遺物

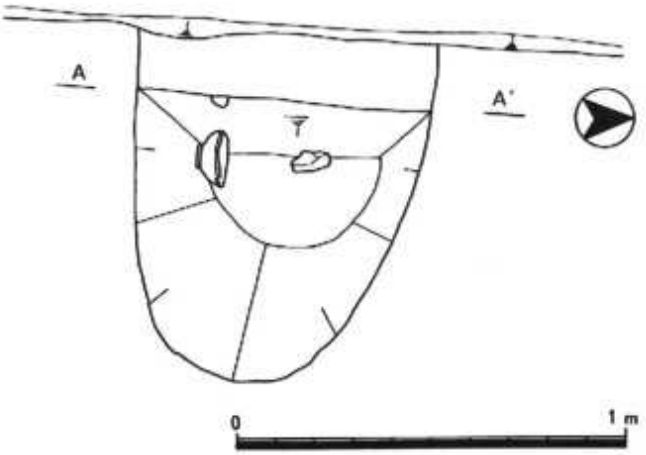
第5層内からは鎌倉時代前期頃の瓦器の椀（1）および破片が少量出土した。

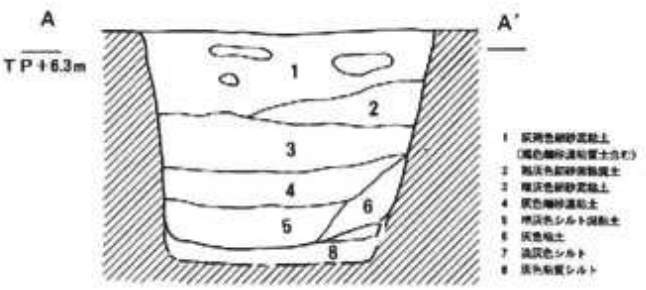
［第6層上面検出遺構］

井戸（SE）

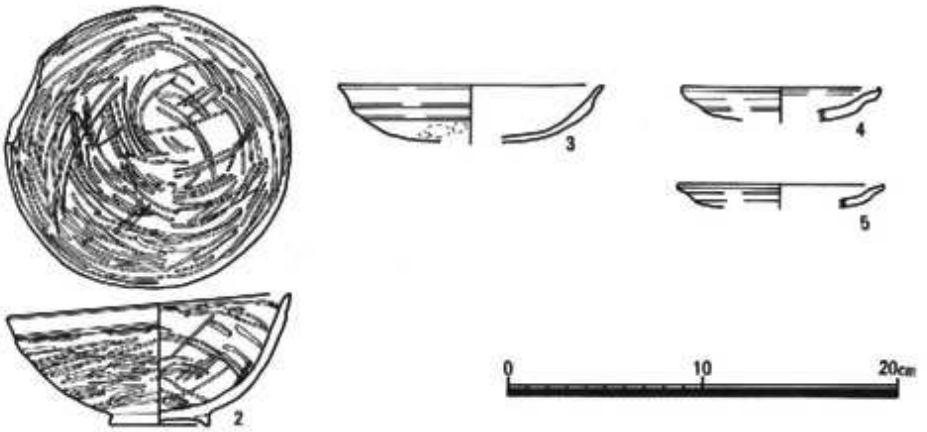
SE-106

**第1区**（2h地区）で検出した素掘りの井戸である。平面の形状は楕円形で、長径1.5m、短径0.75m、深さ0.6mを測る。埋土は上から灰褐色細砂混粘土（褐色細砂混粘質土含む）、褐灰色細砂混粘質土、暗灰色細砂混




第5図　SE-106 平断面図




第6図　SE-106（2～5）出土遺物実測図

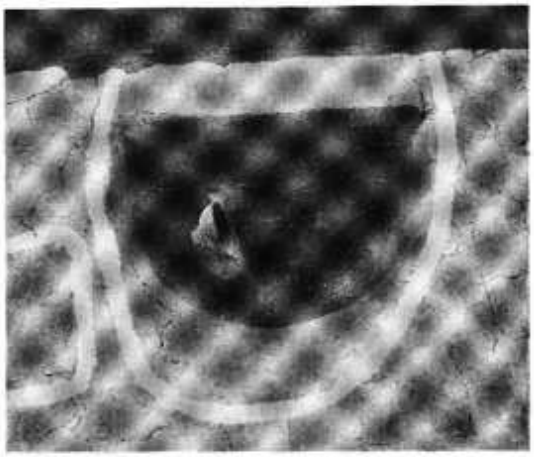


写真3　SE-106 遺物出土状況（東から）

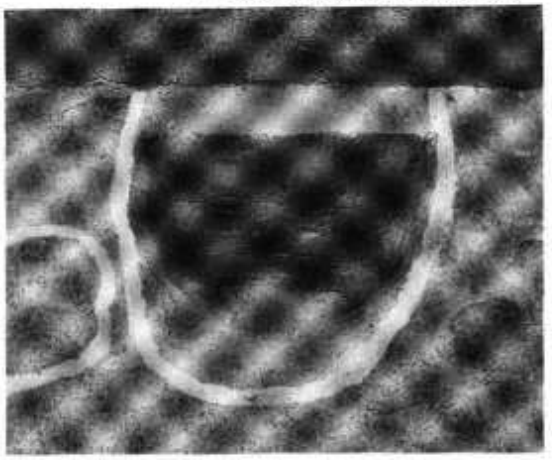
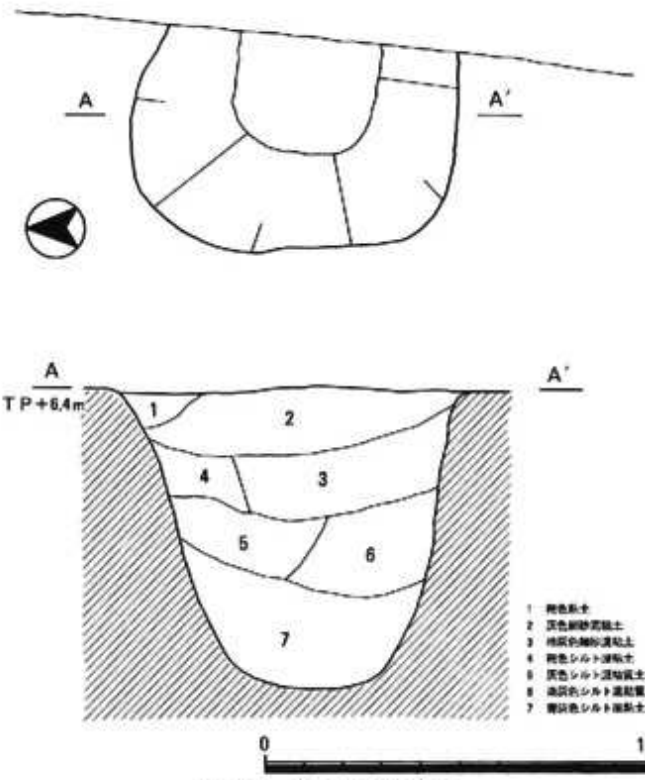


写真4　SE-106 完掘状況（東から）

粘土、灰色細砂混粘土、暗灰色シルト混粘土、灰色粘土である。内部からは平安時代後期頃の瓦器の椀（2）、土師器の中皿（3）、小皿（4・5）が出土した。

SE-107

**第2区**（3・4g地区）で検出した素掘りの井戸である。平面の形状は円形で、径1.0m、深さ0.8mを測る。埋土は褐色粘土、灰色細砂混粘土、暗灰色細砂混粘土、褐色シルト混粘土、灰色シルト混粘質土、淡灰色シルト混粘質土、青灰色シルト混粘土である。内部からは土師器の小皿（6）が出土した。




第7図　SE-107 平断面図

溝（SD）

SD-102

**第1区**（1c・d地区）で検出した。検出長3.5m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-103

**第1区**（1・2c～f地区）で検出した。南でSD-104と合流している。検出長16m、幅0.3～2.0m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

第8図　SE-107（6）出土遺物実測図

SD-104

**第1区**（1d・e地区）で検出した。南でSD-103と合流している。検出長12.5m、幅0.3～2.0m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-105

**第1区**（2c～h地区）で検出した。検出長21m、幅0.3～0.8m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-106

**第1区**（2h・i地区）で検出した。検出長7.6m、幅0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-107

**第1～2区**（2～5k～n地区）で検出した。検出長21m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は淡灰褐色細砂で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-108

**第2区**（3・4c地区）で検出した。検出長5.0m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-109

**第2区**（3・4c・d地区）で検出した。検出長4.0m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-110

**第2区**（4d・e地区）で検出した。検出長4.7m、幅0.2m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-111

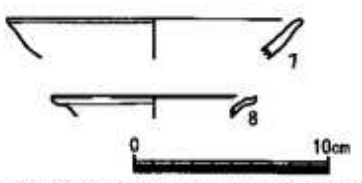
**第2区**（3・4e地区）で検出した。検出長3.0m、幅0.9～2.1m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-112

**第2区**（4e～1地区）で検出した。検出長32m、幅0.2m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘土で、内部からは、瓦器、土師器の破片が少量出土している。

第6層内出土遺物

第6層内からは土師器の小皿（7・8）および破片が少量出土した。




第9図　第6層（7・8）出土遺物実測図

［第７層上面検出遺構］

水田（水田101～水田105）

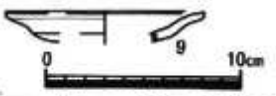
水田は第７層上面で検出した。水田耕作土である第７層は、砂混粘土層（第６層）でほぼ全面覆われている。耕作面には第６層を埋土とする足跡群、および類似する凹みが全面に分布していた。第６層は厚いところで0.3m、薄いところで0.1mを測る。畦畔は東西方向に伸び検出している。畦畔間の距離は６～12m間隔である。畦畔の断面は台形で基底幅0.6～1.6m、上幅0.4～1.4m、耕作面からの高さ0.1～0.15mあり、特に幅が広いもの高いものは存在しなかった。畦畔の堆積土は、暗灰色粘土である。畦畔101内からは、土師器の小皿（９）が出土した。

水田101がもっとも高く標高TP＋6.5mを測り、水田は南東に下がっている。最も低いものは水田104で標高TP＋6.2mを測る。水田比高は0.3mを測る。隣合う各水田の耕作土面の平均標高差は0.05～0.1m前後のものである。畦畔を挟む両側で極端に低くなるような顕著な段を呈するものはなかった。

なお、この水田に取水、排水する機能を持った溝の検出はなかった。

| 遺構番号 | 区 | 地　区 | 検出土層 | 平面形状 | 東西 | 南北 | 面積 ㎡ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 水田101 | 1～2 | 1～5　a～h | 7層上面 | 南北に長い　長方形 | 17 | 3.3 | 396＋α |
| 水田102 | 1～2 | 1～5　h～j | 7層上面 | 東西に長い　長方形 | 17 | 10.5 | 126＋α |
| 水田103 | 1～2 | 1～5　j～l | 7層上面 | 東西に長い　長方形 | 17 | 7 | 84＋α |
| 水田104 | 1～2 | 1～5　l～m | 7層上面 | 東西に長い　長方形 | 17 | 6 | 72＋α |
| 水田105 | 2 | 4・5　m・n | 7層上面 | 東西に長い　長方形 | 6 | 1 | 6＋α |

第２表　第１面 水田一覧表

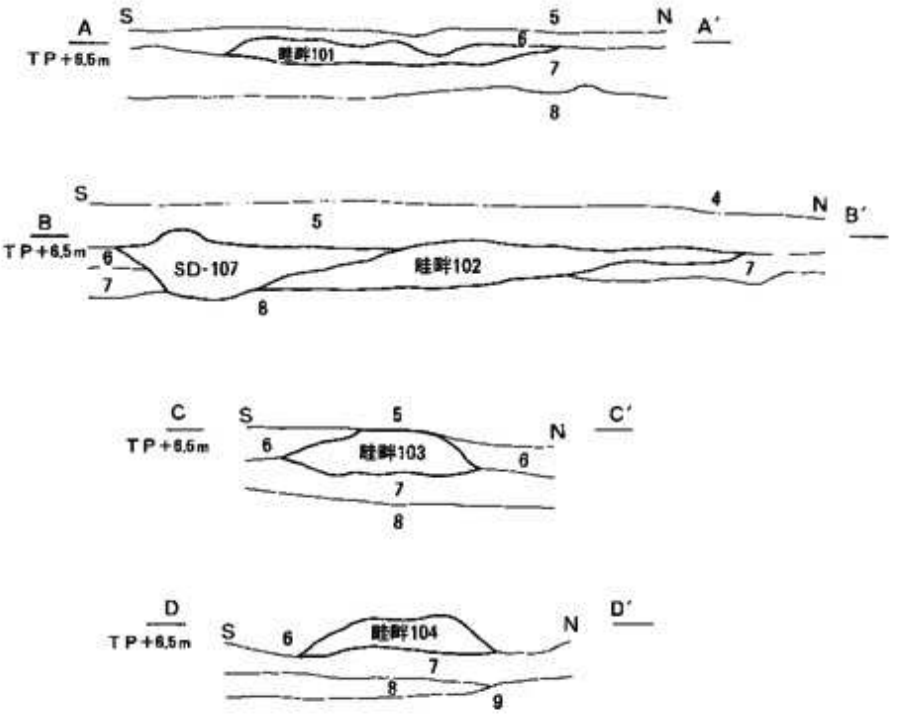



第10図　畦畔101 (9) 出土遺物実測図

| 遺構番号 | 区 | 地　区 | 検出土層 | 方向 | 総長 | 最大基底幅 | 最小基底幅 | 最大上幅 | 最小上幅 | 高さ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 畦畔101 | 1～2 | 1～5　h | 7層上面 | 東西 | 17 | 1.3 | 0.6 | 1.1 | 0.4 | 0.1 |
| 畦畔102 | 1～2 | 1～5　j・k | 7層上面 | 東西 | 17 | 1.6 | 0.6 | 1.5 | 0.4 | 0.15 |
| 畦畔103 | 1～2 | 1～5　l | 7層上面 | 東西 | 17 | 1.2 | 0.8 | 0.8 | 0.5 | 0.1 |
| 畦畔104 | 2 | 4・5　m・n | 7層上面 | 東西 | 6 | 1.2 | 0.9 | 0.7 | 0.5 | 0.1 |

第３表　第１面 畦畔一覧表

写真５　第１面 調査状況〔第１区〕（南から）




断面実測位置は
第13図に記入

推積土

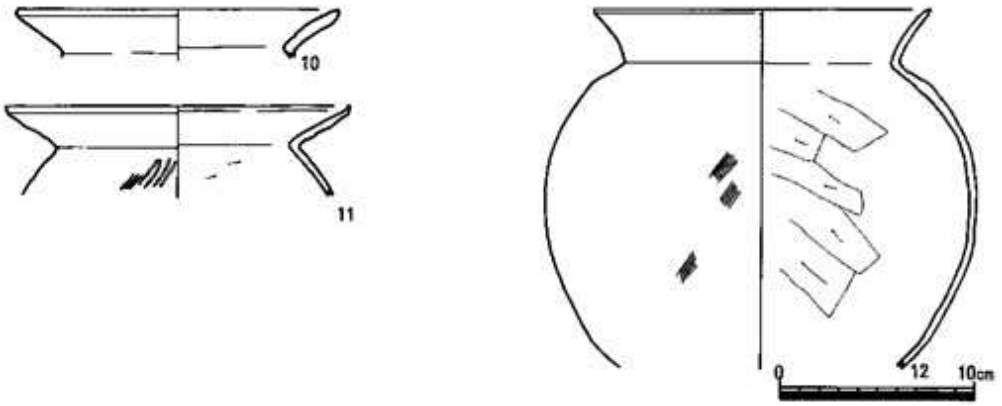
| | | | |
|---|---|---|---|
| 4 | 褐灰色細砂混粘質土 | | |
| 5 | 褐灰色細砂混粘土 | 畦畔101 | 暗灰色粘土 |
| 6 | 灰黄色細砂混粘土 | 畦畔102 | 暗灰色粘土 |
| 7 | 灰褐色粘土 | 畦畔103 | 暗灰色粘土 |
| 8 | 灰褐色細砂混粘土 | 畦畔104 | 暗灰色粘土 |
| 9 | 黄灰色シルト混粘土 | SD-107 | 淡灰褐色細砂 |

0 1m

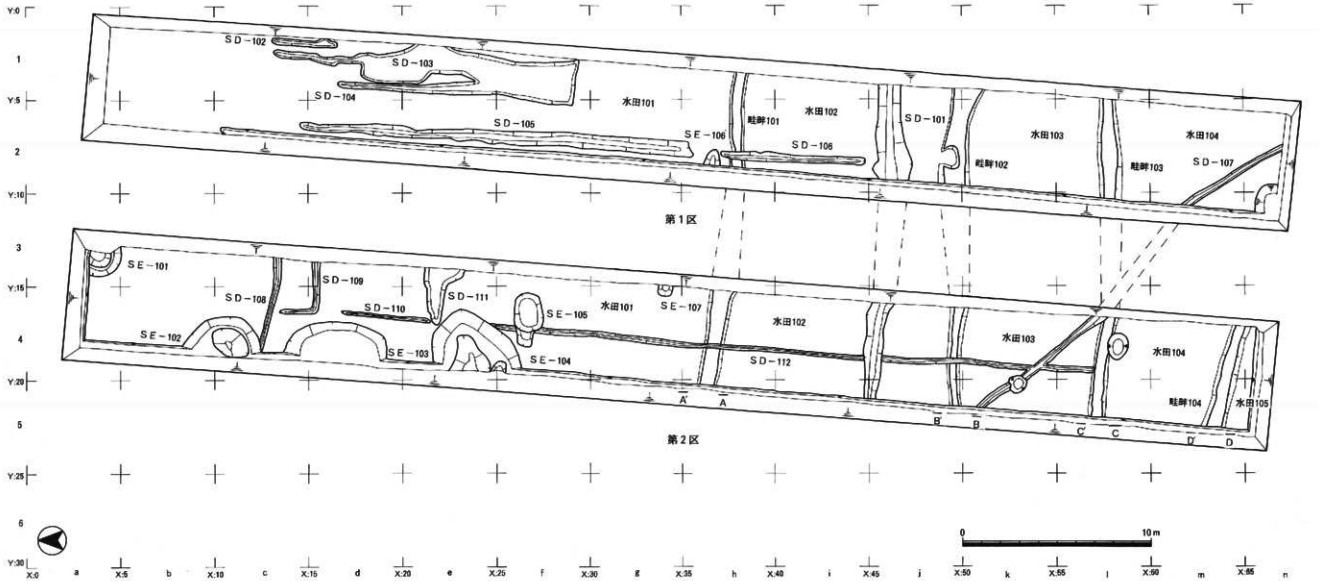
第11図　畦畔101～畦畔104 断面図

第8層内出土遺物

第8層内からは古墳時代前期〔庄内式期〕の甕（10～12）が出土した。




第12図　第8層（10～12）出土遺物実測図




第13図 第1面 平面実測図

2）第2面

[第9層上面検出遺構]

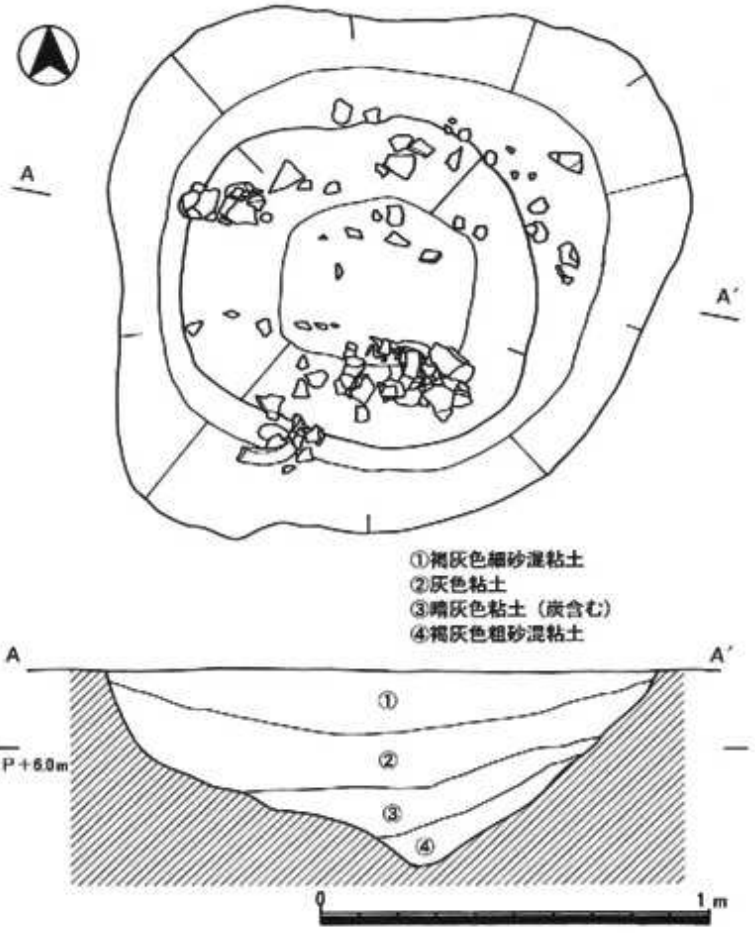
井戸（SE）

SE-201

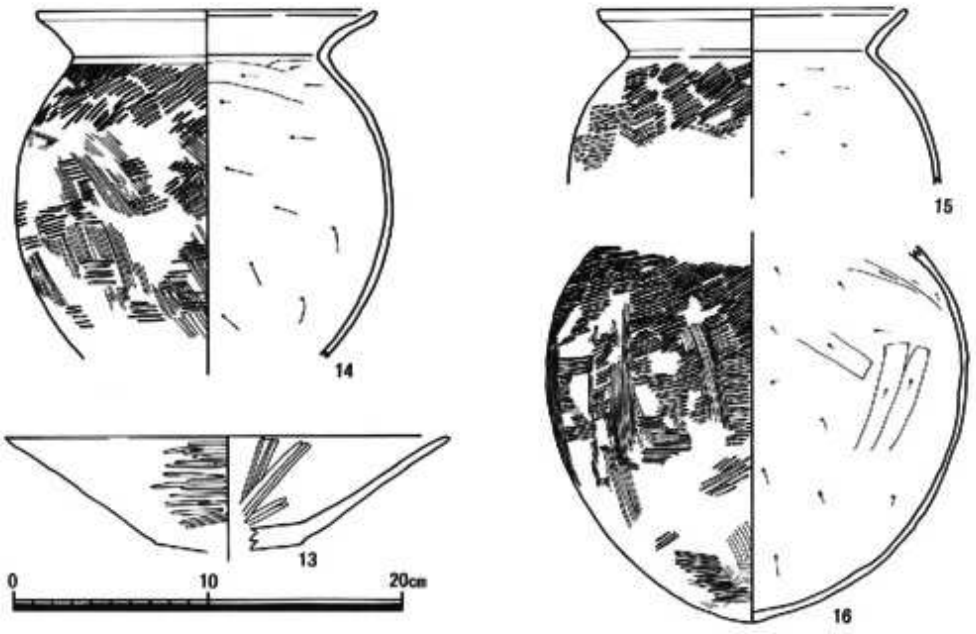
第2区（4f・g地区）で検出した素掘りの井戸である。平面の形状は円形で、径1.4m、深さ0.5mを測る。埋土は上から①褐灰色細砂混粘土、②灰色粘土、③暗灰色粘土（炭含む）、④褐灰色粗砂混粘土である。①層からは庄内式期の高杯（13）、甕（14～16）が出土した。

（14）の体部外面はタタキが三分割で施された後、斜め方向ハケナデを施している。甕である。（15）は、体部下半を欠損しているため詳細は不明であるが、体部外面のタタキの施し方から、3分割に施されていたと推定される。（16）の体部外面のタタキ調整は、3分割を意識しているが、上部から中位にかけては連続的に施されている。タタキを施した後、ハケナデを施し、タタキが消されている部分がある。底部は平底を意識しているが、尖りぎみに終る。

写真6　SE-201 遺物出土状況（南から）




第14図　SE-201 平断面図

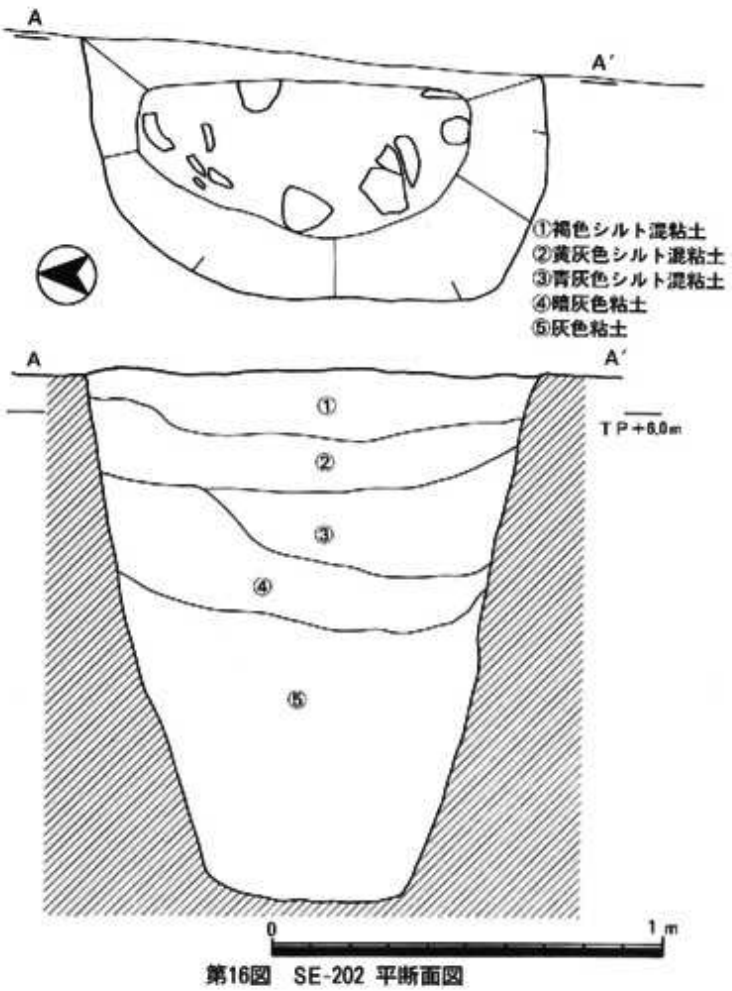



第15図　SE-201（13～16）出土遺物実測図

SE-202

第２区（４ｈ地区）で検出した素掘りの井戸である。平面の形状は円形で、径1.2ｍ、深さ1.4ｍを測る。埋土は上から①褐色シルト混粘土、②黄灰色シルト混粘土、③青灰色シルト混粘土、④暗灰色粘土、⑤灰色粘土である。⑤層からは庄内式期の壷（17）、鉢（18）、甕（19～31）が出土した。

壷（17）は広口壷である。突出する平底で、球形の体部をもつ。体部外面全体にやや粗めのハケナデを施す。鉢（18）は、尖っている底に、焼成前に孔があけられている有孔鉢である。外面全体はタ




第16図　SE-202 平断面図

タキを施している。その後上部は丁寧になでてタタキを消している。甕(19)は、タタキが太めで、器壁も厚く、弥生時代後期の甕の様相を残している。また(20)は外面にタタキがなく、器壁が庄内式期の甕に比べて厚い。(21)は、太めのタタキが分割して施されており、弥生時代後期の様相を残しているものの、内面はヘラケズリ行なっており、庄内式期に変わって行く時期の物と推定される。(22)は尖った底を意識して作成しているが、平な底が残り、タタキは3分割に施す弥生時代後期の様相を呈している。しかし、同期タイプの甕よりタタキが細かく、タタキを施した後、体部中位以下に細かいハケナデを施し、タタキが消されている部分があり、また、体部の内面を全体的にヘラケズリを行なうことにより器壁を薄く作成している等の庄内型の様相を示している部分があり、この甕は、庄内式の最古段階であるⅠ式(河内型庄内甕$B_1$)[註1]に位置づけられる。(23)は尖った底でやや平らな部分を残す。タタキは細かく上位から下位に連続して施す。タタキを施した後、体部中位以下に細かいハケナデを施し、タタキが消されている部分がある。(22)と同様、体部の内面を全体的にヘラケズリを行なうことにより器壁は薄く、庄内式のⅡ式(河内型庄内甕$B_2$)[註1]に位置づけられる。(24～28)は、口縁部のみの残存で、形態等の特徴は不明である。(24・25)の口縁端部は丸く終っているのに対し、(26～28)はつまみ上げて終る庄内式期の特徴を持っている。(29・30)は小型の甕で、体部は丸い器形である。体部外面を全体的にタタキを施した後、ハケナデを行なっている。内面はヘラケズリを行なう。(29)はヘラケズリが口縁部におよんでいる。口縁部もハケ調整を行なった後、ヨコナデによってハケを消している。(31)は底部で、外面やや太め目のタタキが施されており、弥生時代後期の様相を残している。

写真7　SE-202 遺物出土状況(西から)

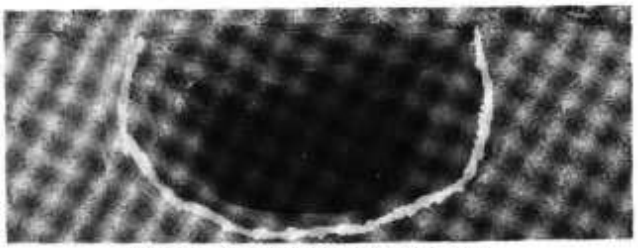
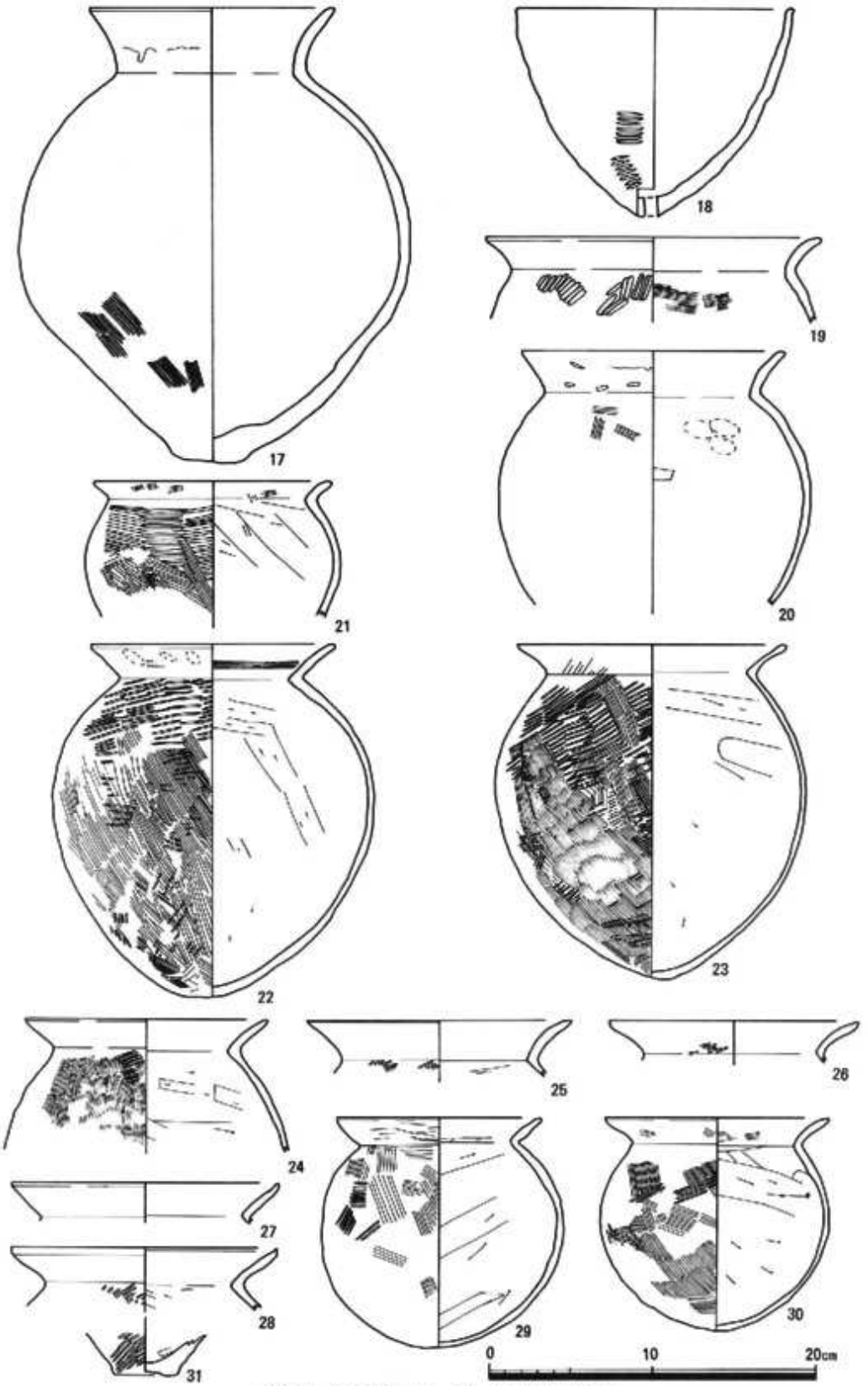


写真8　SE-202 完掘状況(西から)

なお、SE-201およびSE-202内から出土した遺物については、大阪府八尾市立曙川小学校教諭奥田尚氏に依頼し、胎土分析を行ない、産地の限定を推測していただいた。本書掲載の45頁付章「東郷遺跡出土土器の砂礫」を参照されたい。




第17図　SE-202（17～31）出土遺物実測図

土坑（SK）

SK-201

**第2区**（2e地区）で検出した。平面の形状は楕円形で、長径0.9m、短径0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は褐灰色細砂混粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SK-202

**第2区**（2i・j地区）で検出した。平面の形状は楕円形で、長径1.3m、短径0.7m、深さ0.1mを測る。埋土は褐色シルト混粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SK-203

**第2区**（4a地区）で検出した。平面の形状は楕円形で、長径1.1m、短径0.9m、深さ0.1mを測る。埋土は褐灰色粗砂混粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SK-204

**第2区**（4a・b地区）で検出した。平面の形状は楕円形で、長径1.2m、短径0.7m、深さ0.1mを測る。埋土は褐灰色粗砂混粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SK-205

**第2区**（4c地区）で検出した。平面の形状は楕円形で、長径1.1m、短径0.5m、深さ0.3mを測る。埋土は褐灰色粗砂混粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SK-206

**第2区**（3・4d地区）で検出した。平面の形状は楕円形で、長径1.4m、短径0.6m、深さ0.15mを測る。埋土は褐灰色粗砂混粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SK-207

**第2区**（4e地区）で検出した。平面の形状は円形で、径0.9m、深さ0.1mを測る。埋土は褐灰色粗砂混粘土である。内部からの遺物の出土はなかった。

SK-208

**第2区**（4d地区）で検出した。平面の形状は円形で、径0.5m、深さ0.2mを測る。埋土は褐灰色粗砂混粘土である。内部からは土師器の破片が少量出土した。

小穴（SP）

SP-201～SP-215

**第1区・第2区**のほぼ中央部分（SD-214より北、SD-204・SD-222より南）で検出した。平面の形状は円形、楕円形のものがあり、円形のものは径0.2～0.4m、深さ0.05～0.15mを測り、楕円形のものは長径0.4～0.5m、短径0.2～0.3m、深さ0.05～0.2mを測る。埋土は褐灰色シルト混粘土で、各小穴内からの遺物の出土はなかった。（第4表参照）

| 遺構番号 | 区 | 地区 | 検出土層 | 形状 | 堆積土 | 長径 | 短径 | 径 | 深さ | 出土遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SP－201 | 1 | 2 g | 9層上面 | 円形 | 褐灰色シルト混粘土 | | | 0.25 | 0.1 | なし |
| SP－202 | 1 | 2 h | 9層上面 | 円形 | 褐灰色シルト混粘土 | | | 0.35 | 0.1 | なし |
| SP－203 | 1 | 2 i | 9層上面 | 円形 | 褐灰色シルト混粘土 | | | 0.25 | 0.1 | なし |
| SP－204 | 1 | 2 i | 9層上面 | 円形 | 褐灰色シルト混粘土 | | | 0.4 | 0.1 | なし |
| SP－205 | 1 | 2 i | 9層上面 | 円形 | 褐灰色シルト混粘土 | | | 0.3 | 0.1 | なし |
| SP－206 | 1 | 2 i | 9層上面 | 円形 | 褐灰色シルト混粘土 | | | 0.25 | 0.1 | なし |
| SP－207 | 1 | 2 i | 9層上面 | 円形 | 褐灰色シルト混粘土 | | | 0.25 | 0.1 | なし |
| SP－208 | 1 | 1 h | 9層上面 | 円形 | 褐灰色シルト混粘土 | | | 0.2 | 0.15 | なし |
| SP－209 | 1 | 4 h | 9層上面 | 円形 | 褐灰色シルト混粘土 | | | 0.2 | 0.1 | なし |
| SP－210 | 2 | 4 h | 9層上面 | 円形 | 褐灰色シルト混粘土 | | | 0.2 | 0.05 | なし |
| SP－211 | 2 | 4 i | 9層上面 | 円形 | 褐灰色シルト混粘土 | | | 0.2 | 0.1 | なし |
| SP－212 | 2 | 4 i | 9層上面 | 東西方向に長い楕円形 | 褐灰色シルト混粘土 | 0.4 | 0.2 | | 0.05 | なし |
| SP－213 | 2 | 4 i | 9層上面 | 南北方向に長い楕円形 | 褐灰色シルト混粘土 | 0.5 | 0.2 | | 0.1 | なし |
| SP－214 | 2 | 5 j | 9層上面 | 南北方向に長い楕円形 | 褐灰色シルト混粘土 | 0.4 | 0.3 | | 0.2 | なし |
| SP－215 | 2 | 4 j | 9層上面 | 南北方向に長い楕円形 | 褐灰色シルト混粘土 | 0.5 | 0.3 | | 0.05 | なし |

**第4表　第2面 小穴（SP）一覧表**

溝（ＳＤ）

**SD-201**

**第1区**（1・2c・d地区）で検出した。検出長5.4m、幅1.1～1.7m、深さ0.1mを測る。埋土は褐色粗砂混粘質土（礫含む）で、内部からは土師器の破片が少量出土した。

**SD-202**

**第1区**（1・2d・e地区）で検出した。検出長8.5m、幅1.0～1.8m、深さ0.15mを測る。埋土は褐灰色細砂混粘土で、内部からは土師器の破片が少量出土した。

**SD-203**

**第1区**（2e地区）で検出した。検出長2.1m、幅1.0m、深さ0.1mを測る。埋土は褐灰色細砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

**SD-204**

**第1区**（1・2f・g地区）で検出した。検出長6.8m、幅0.3～0.9m、深さ0.1mを測る。埋土は褐灰色シルト混粘土で、内部からは土師器の破片が少量出土した。

**SD-205**

**第1区**（1f・g地区）で検出した。検出長3.5m、幅0.3～0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰色シルト混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

**SD-206**

**第1区**（2g地区）で検出した。検出長2.1m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰色シ

ルト混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-207

**第1区**（1・2h地区）で検出した。検出長4.7m、幅0.25m、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰色シルト混粘土で、内部からは土師器の破片が少量出土した。

SD-208

**第1区**（2h地区）で検出した。検出長2.3m、幅0.25m、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰色シルト混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-209

**第1区**（2h地区）で検出した。検出長2.0m、幅0.25m、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰色シルト混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-210

**第1区**（2i地区）で検出した。検出長1.4m、幅0.2～0.35m、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰色シルト混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-211

**第1区**（1・2i・j地区）で検出した。検出長2.5m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰色シルト混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-212

**第1区**（1・2j地区）で検出した。検出長2.7m、幅0.35m、深さ0.1mを測る。埋土は褐灰色シルト混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-213

**第1区**（1・2j地区）で検出した。検出長5.2m、幅0.7m、深さ0.1mを測る。埋土は褐灰色シルト混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

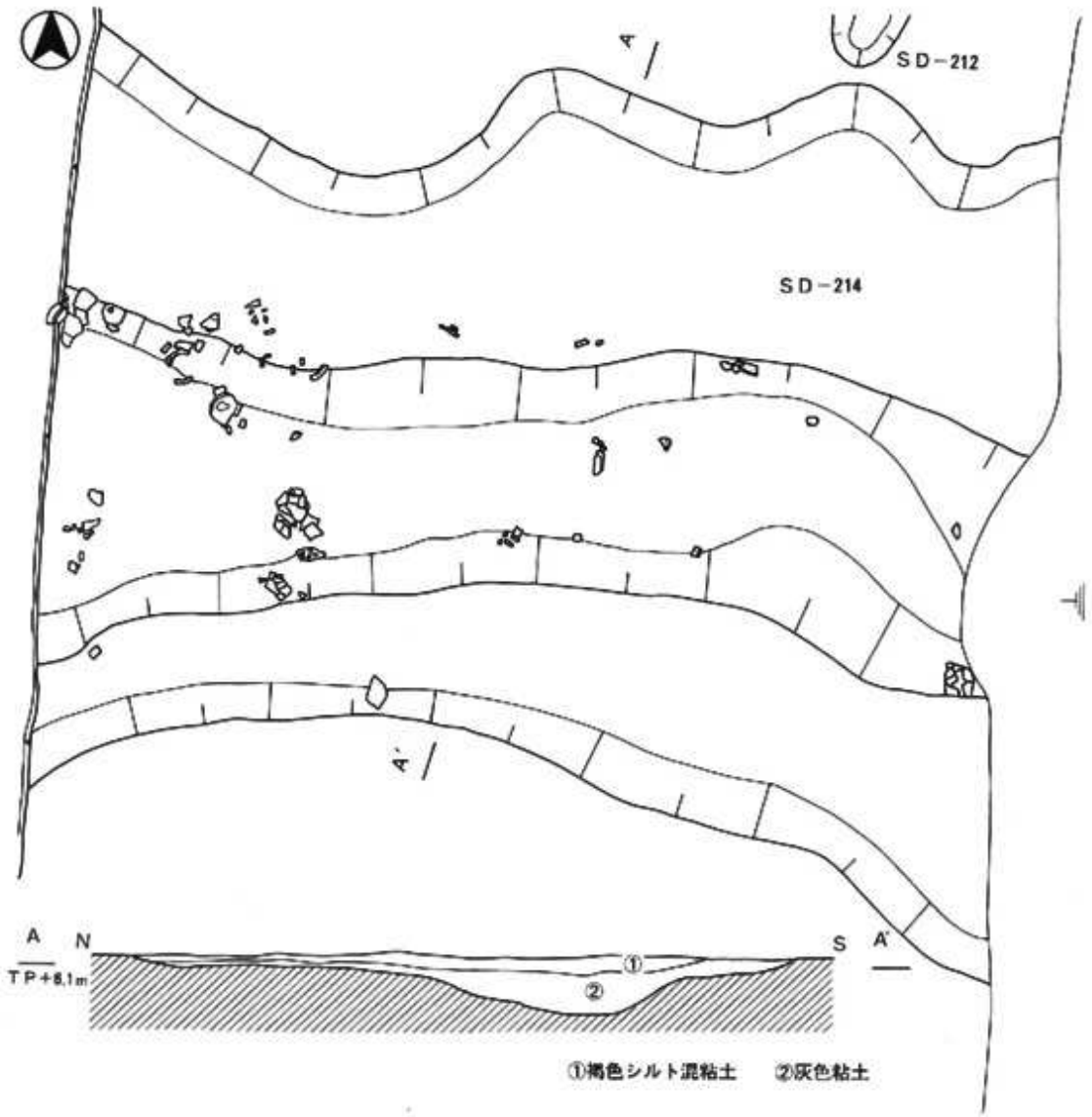
SD-214

**第1区**（1・2j地区）と**第2区**（4・5j・k地区）で検出した。検出長17m、幅3.6～5.5m、深さ0.3～0.4mを測る。東西方向に直線に伸びている。埋土は**第1区**が上から①褐色シルト混粘土、②灰色粘土であり、**第2区**が上から①褐色シルト混粘土、②灰色粘土、③暗灰色シルト混粘土、④青灰色粘土で、①層内からは庄内式期の壺、甕等が出土した。

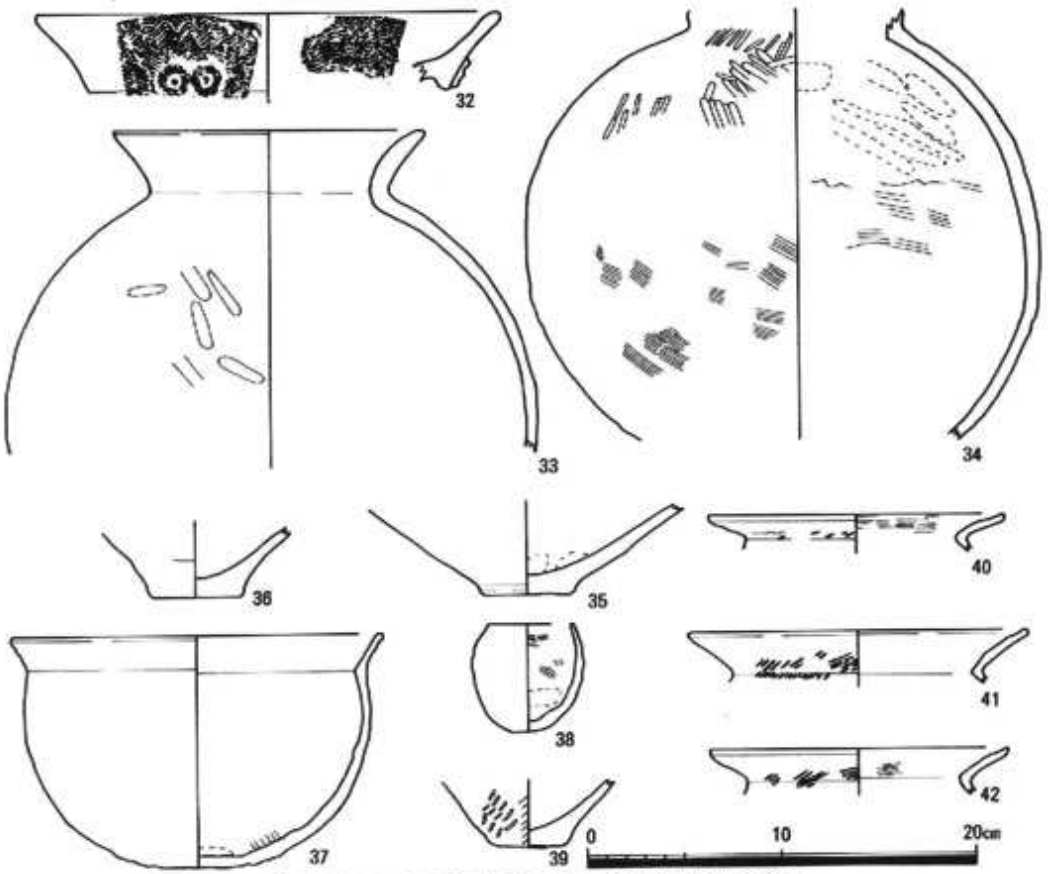
**第1区**では壺（32～36）、鉢（37）、小型鉢（38）、甕（39～42）が出土し、**第2区**では壺（43～51）、高杯（52・53）、台付き鉢（54）、甕（55～60）が出土した。

（32・43）は複合口縁壺で、（32）は口縁部内面に波状文を施し、外面にも波状文を施した後、端部に竹管文を押した円形浮文を二個貼付ける。（43）は口縁端部を粘土の帯で垂下させ、複合口縁としたもので、端面には凹線文の後竹管文を押した円形浮文を均等に貼付けている。

また内面は波状文を施し、ヘラミガキを施し丁寧に仕上げられている。頸部と体部の境に粘土の突帯を貼付け、キザミ目を施している。体部外面最上部には波状文を施している。(33・45・46) は直口壺である。(33) は球形の体部で、外面にヘラミガキを施している。(45) は球形の体部であるが、やや縦長である。体部上位に焼成後に孔が開けられている。内面ヘラナデ、外面ヘラミガキ施す。(34) は球形を呈す壺の体部で、内面ハケナデ、外面下半ハケナデ、上半ヘラミガキである。(44) は広口壺で、口縁部内外面ともにヨコナデ施している。(35・36・47～49) は突出する平底の壺である。(50・51) は小型の壺で、底部は丸底ぎみであるが、平らな面をもつ。(52・53) は高杯である。(52) は、内外面をヘラミガキにより丁寧に仕上げられ




第18図　SD-214〔第1区〕平断面図




第19図　SD-214〔第1区〕(32～42) 出土遺物実測図

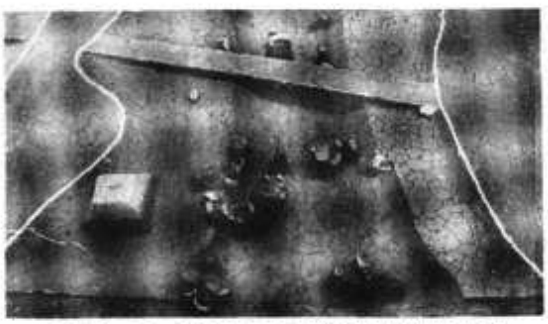
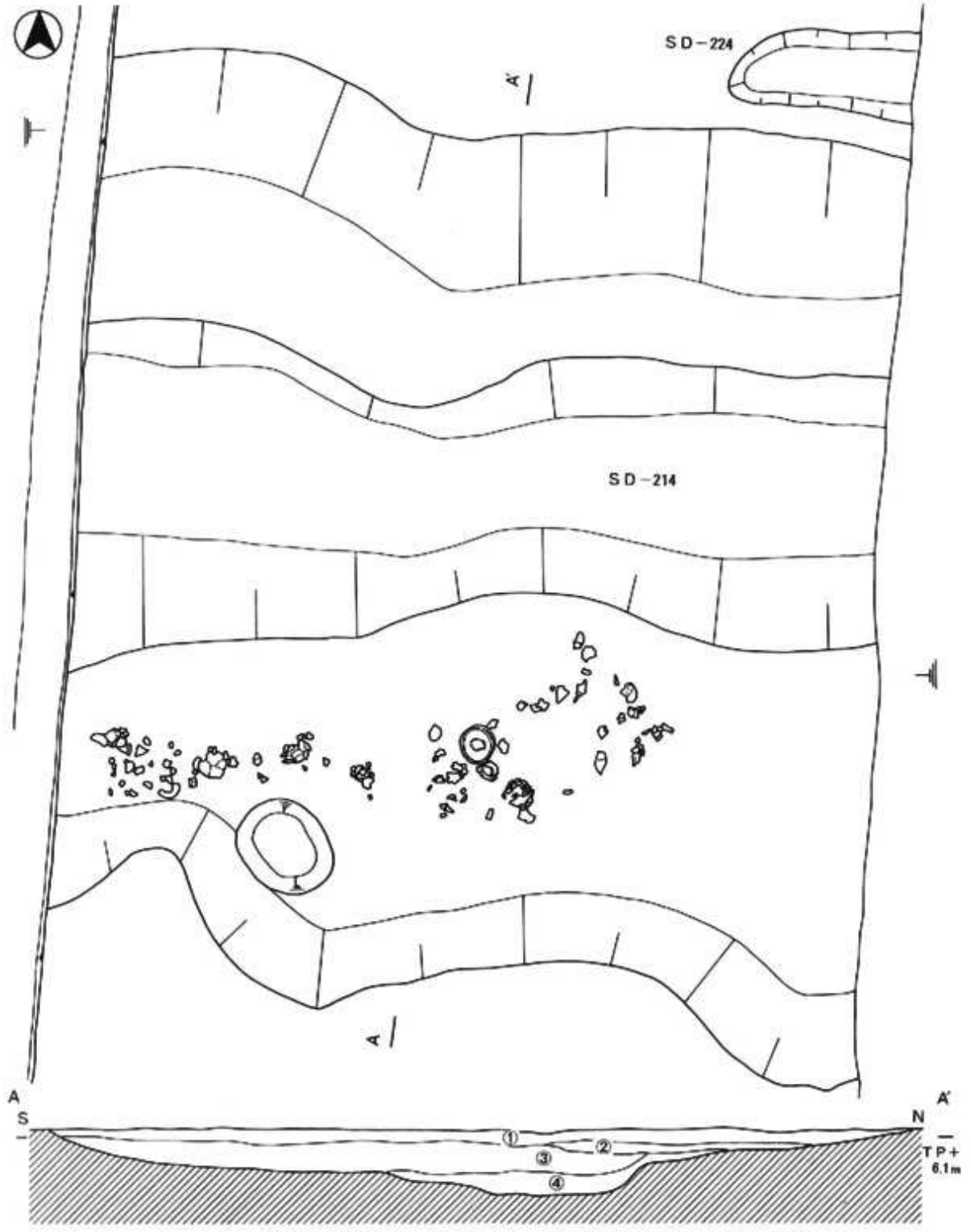


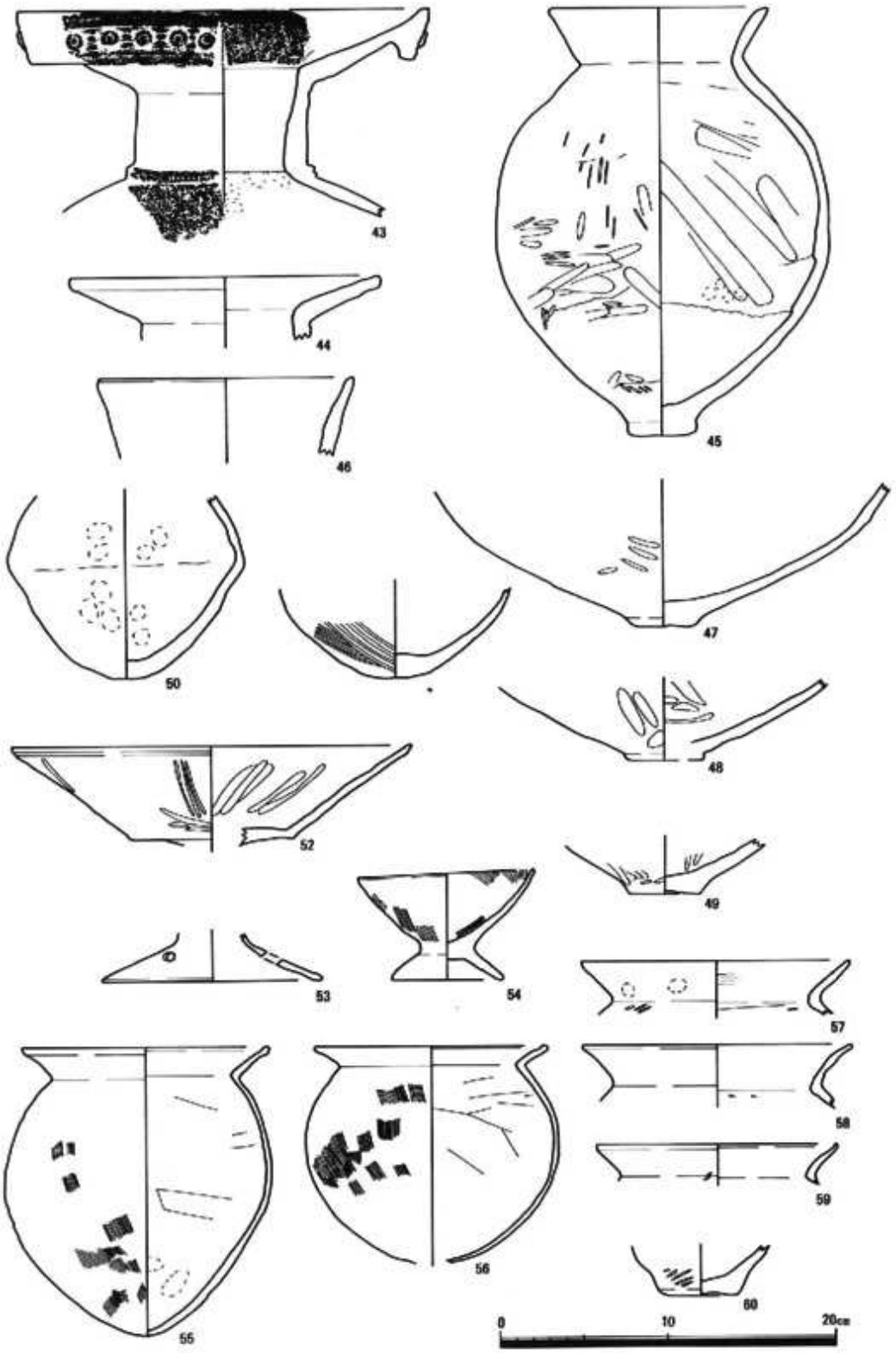
写真9　SD-214〔第1区〕遺物出土状況（西から）

写真10　SD-214〔第2区〕遺物出土状況（東から）

ている。(53) は3方向に透かし孔がある。(37) は平らな底をもつやや大型の鉢である。(38) は小型の鉢で、縦長の体部である。(54) は、直口の口縁をもつ台付き鉢である。(39～42・55～60) は甕で、(39・60) は突出する平底をもち、外面にやや粗いタタキを施している。(40～42・57～59) は体部から屈曲し外反する口縁部をもち、体部外面にタタキを施す。(55) は、体部中位に最大径があり、底部は尖り底を呈している。体部外面細かいハケナデを施し、内面はヘラケズリしている。(56) は球形の体部である。体部外面細かいハケナデを施し、内面は全面をヘラケズリしている。




第20図　SD-214〔第２区〕平断面図




第21図　SD-214（第２区）（43～60）出土遺物実測図

SD-215

**第1区**（1・2i・j地区）で検出した。検出長1.4m、幅0.2m、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰色シルト混粘土で、内部からは土師器の破片が少量出土した。

SD-216

**第2区**（3・4d地区）で検出した。検出長2.3m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色粗砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-217

**第2区**（3・4d・e地区）で検出した。検出長4.3m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色粗砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-218

**第2区**（3・4e地区）で検出した。検出長3.5m、幅0.3～2.5m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色粗砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

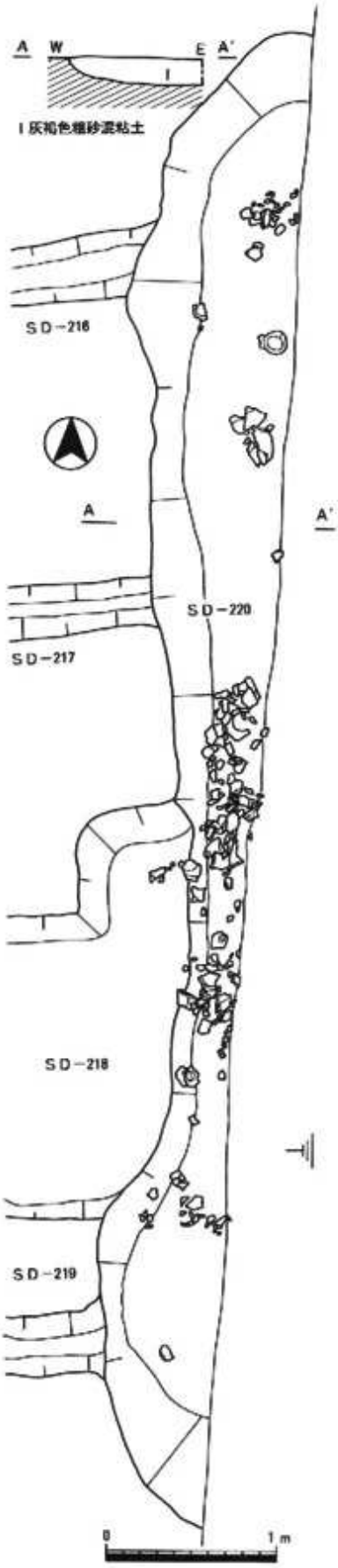
SD-219

**第2区**（4e地区）で検出した。検出長1.0m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色粗砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

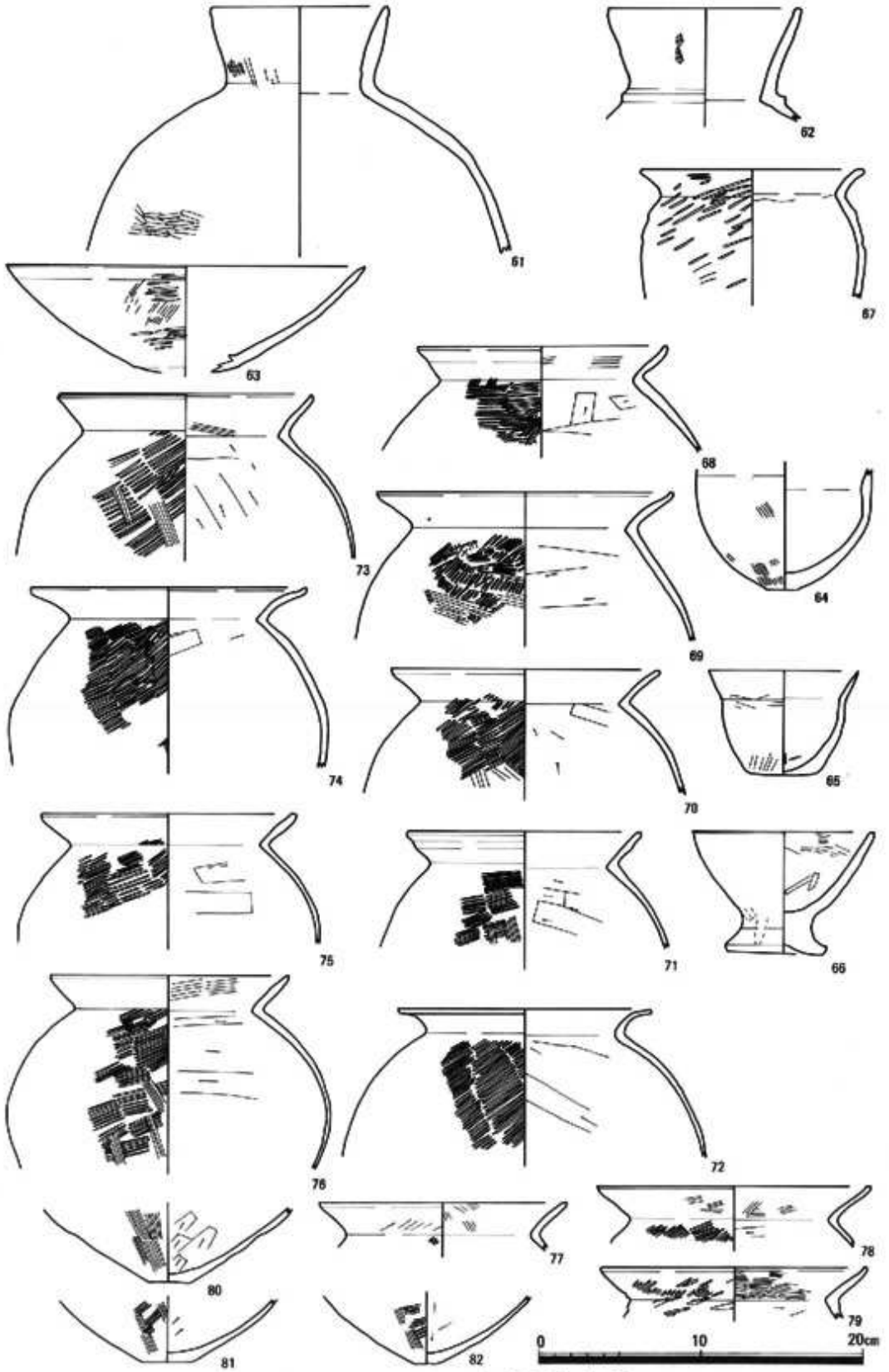
SD-220

**第2区**（3・4d・e地区）で検出した。検出長8.8m、幅0.8m、深さ0.2mを測る。埋土は灰褐色粗砂混粘土で、内部からは庄内式期の壺（61・62）、高杯（63）、鉢（64・65）、台付き鉢（66）、甕（67～82）が出土した。

（61）は短頸壺で、体部外面にヘラミガキを施し、口縁部外面にハケによるナデを施している。（62）は体部と頸部の屈曲部に粘土の突帯を貼付けている。（63）は、杯部外面にヘラミガキを施した後ハケナデを施している。（64・65）は小型の鉢で、（64）は




第22図　SD-220 平断面図




第23図　SD-220（61～82）出土遺物実測図

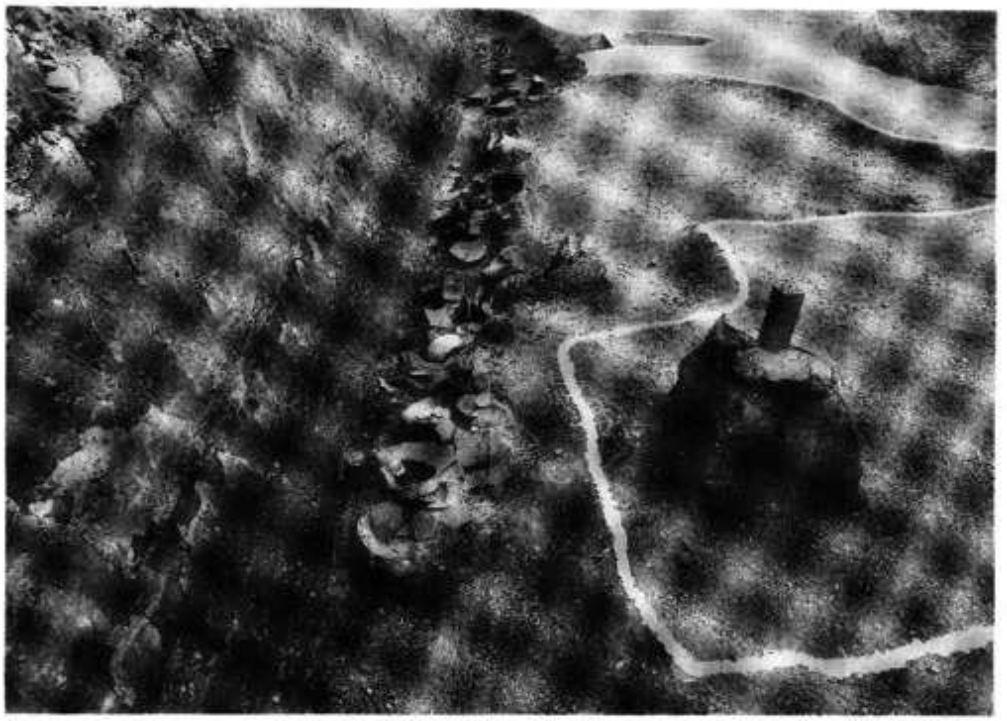


写真11　SD-220 遺物出土状況（北から）

尖りぎみであるが、平らな底をもち、体部はやや丸い。(65) は平底である。(66) は直口の口縁をもち、外部全体はナデている。(67・79) は体部から口縁部外面にかけてタタキを施した後、外反させ口縁部を成形している。(68～78) は、体部外面に細目のタタキを施し、体部内面はヘラケズリを施している。(80～82) は底部で、(80) は平底で外面ハケナデを施し、内面ヘラケズリを施す。(81・82) は突出ぎみに終る小さな平底で、外面タタキ後ハケナデを施し、内面にヘラケズリを施す。

SD-221

**第2区**（3・4e・f地区）で検出した。検出長3.4m、幅1.0～1.7m、深さ0.55mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘土、灰色細砂混粘土、灰褐色粘土、暗灰色シルト混粘土、灰白色細砂混粘土、灰褐色細砂混粘土（炭含む）で、内部からは土師器の破片が少量出土した。

SD-222

**第2区**（3・4f地区）で検出した。検出長4.9m、幅0.3m、深さ0.15mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-223

**第2区**（4f・g地区）で検出した。検出長4.8m、幅0.25m、深さ0.1mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-224

**第2区**（4j地区）で検出した。検出長1.2m、幅0.5m、深さ0.05mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

SD-225

**第2区**（4・5i・j地区）で検出した。検出長3.7m、幅0.9～3.0m、深さ0.45mを測る。埋土は褐色シルト混粘土、灰褐色シルト混粘土、灰色シルト混粘土で、内部からの遺物の出土はなかった。

水田4筆（**水田201～水田204**）

水田は第9層上面の溝（**SD-214**）より南側で検出した。

畦畔は東西方向に伸び検出している。畦畔の断面は台形で基底幅0.5～0.9m、上幅0.3～0.6mを測る。耕作面からの高さは0.1mあり、基底幅が最大の場所でも0.9mと比較的小さく、高さも最も高い場所で0.1mと低く、特に幅が広いものや高いものは存在しなかった。畦畔の堆積土は、暗灰色粘土である。今回検出した畦畔の中で、取水および排水の機能をもつ水口と思われる部分の検出はなかった。

**水田201**がもっとも高く標高TP＋6.125mを測り、水田は南西に下がっている。最も低いものは**水田204**で標高TP＋6.05mを測る。水口比高は0.1mを測る。各水田は南北方向に長い。隣合う各水田の耕作土面の平均標高差は0.05m前後である。畦畔を挟む両側で極端に低くなるような顕著な段を呈するものはなかった。（第5表・第6表参照）

これらの水田は、**SD-214**から取水していると推定される。

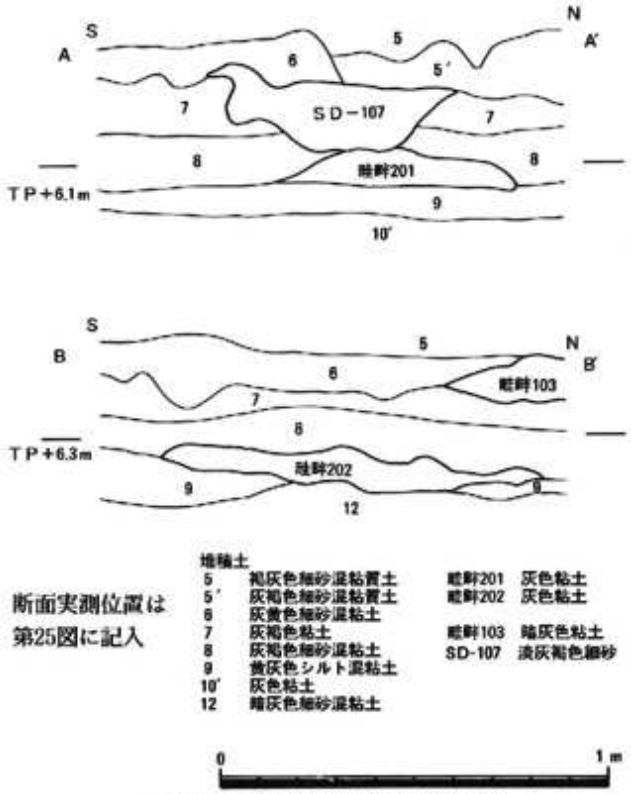
| 遺物番号 | 区 | 地区 | 検出土層 | 平面形状 | 東西 | 南北 | 面積㎡ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 水田201 | 1 | 1～3　k～m | 9層上面 | 南北に長い　長方形 | 6 | 8.5 | 51＋α |
| 水田202 | 1 | 2・3　m・n | 9層上面 | 東西に長い　長方形 | 6 | 5 | 30＋α |
| 水田203 | 2 | 4・5　k・l | 9層上面 | 東西に長い　長方形 | 6 | 3.5 | 21＋α |
| 水田204 | 2 | 4・5　l～n | 9層上面 | 南北に長い　長方形 | 6 | 8 | 48＋α |

**第5表　第2面 水田一覧表**

| 遺物番号 | 区 | 地区 | 検出土層 | 方向 | 総長 | 最大基底幅 | 最小基底幅 | 最大上幅 | 最小上幅 | 高さ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 畦畔201 | 1 | 2・3　m | 9層上面 | 東西 | 6 | 0.8 | 0.5 | 0.6 | 0.3 | 0.1 |
| 畦畔202 | 2 | 4・5　l | 9層上面 | 東西 | 6 | 0.9 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 0.1 |

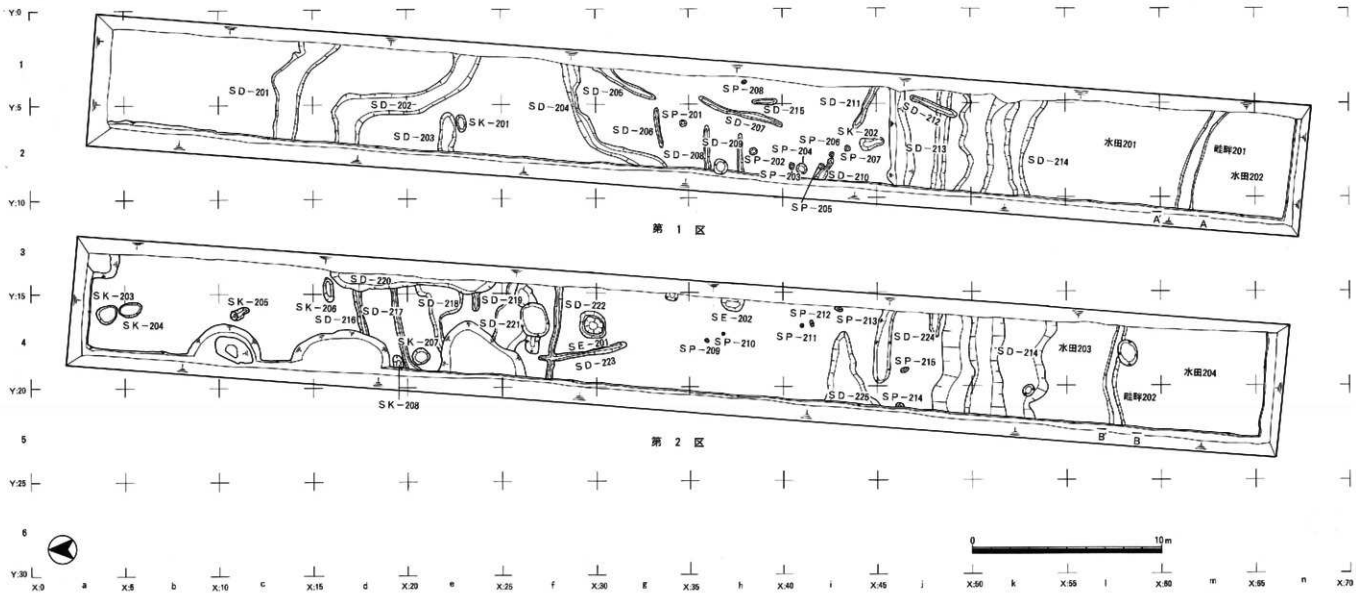
**第6表　第2面 畦畔一覧表**

註1　財団法人八尾市文化財調査研究会『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要』
財団法人八尾市文化財調査研究会報告37　久宝寺遺跡（第1次調査）編年参照




第24図　畦畔201・畦畔202 断面図

写真12　第２面 調査状況［第２区］（北から）




第25図　第2面　平面実測図

# 第4章　出土遺物観察表

## 第5層

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 法量 | 口径<br>器高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 瓦器<br>椀 | | 13.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヘラミガキ。 | 黒色 | 精良 | 良好 | |

## SE-106

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 法量 | 口径<br>器高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2<br>二 | 瓦器<br>椀 | 高台径<br>高台高 | 14.3<br>6.8<br>5.0<br>0.6 | 口縁部内外面はヨコナデ後密なヘラミガキ。体部内面は密なヘラミガキ。見込みは乱方向の密なヘラミガキ。体部外面は粗なヘラミガキ。高台部周辺ヨコナデ。 | 黒色 | 精良 | 良好 | |
| 3 | 土師器<br>中皿 | | 13.6 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部および底部内面はナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後ナデ。体部外面に指頭圧痕がある。 | 灰黄色 | 精良 | 良好 | |
| 4 | 土師器<br>小皿 | | 10.0 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部および底部内面はナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後ナデ。体部内面の一部にヨコナデがある。体部外面に指頭圧痕がある。 | 浅黄橙色 | 精良 | 良好 | |
| 5 | 土師器<br>小皿 | | 10.4 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部および底部内面はナデ。体部および底部外面は指頭圧成形後ナデ。体部外面に指頭圧痕がある。 | 灰白色 | 精良 | 良好 | |

## SE-107

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 法量 | 口径<br>器高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 土師器<br>小皿 | | 10.0 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部および底部内外面はナデ。 | 浅橙色 | 精良 | 良好 | |

## 第6層

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 法量 | 口径<br>器高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 土師器<br>小皿 | | 10.4 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部および底部内外面はナデ。 | 灰白色 | 精良 | 良好 | |
| 8 | 土師器<br>小皿 | | 15.0 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部および底部内外面はナデ。 | 灰白色 | 精良 | 良好 | |

## 畦畔101

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 法量 | 口径<br>器高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 土師器<br>小皿 | | 10.0 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部および底部内外面はナデ。 | 灰白色 | 精良 | 良好 | |

第8層

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 法量 口径<br>器高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 土師器<br>甕 | 16.4 | 口縁部内外面はヨコナデ。 | 褐色 | 粗 | 良好 | |
| 11 | 土師器<br>甕 | 17.6 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部外面はタタキ、内面はヘラケズリ。 | 褐色 | 粗 | 良好 | |
| 12 | 土師器<br>甕 | 17.2 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部外面はナデ、内面はヘラケズリ。 | 褐色 | 粗 | 良好 | |

SE-201

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 法量 口径<br>器高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 13<br>二 | 土師器<br>高杯 | 23.0 | 口縁部内外面はヨコナデ。杯部外面は横方向のヘラミガキを施す。内面は放射状にヘラミガキを施す。 | 橙色 | 精良 | 良好 | |
| 14<br>二 | 土師器<br>甕 | 17.2 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部外面は上半がタタキ、下半はタタキ後ハケナデ。内面はヘラケズリ。 | 淡黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 15<br>二 | 土師器<br>甕 | 15.8 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部外面は上半がタタキ、下半はタタキ後ハケナデ。内面はヘラケズリ。 | 黒灰色 | 粗 | 良好 | |
| 16<br>三 | 土師器<br>甕 | | 体部外面は上半がタタキ、下半はタタキ後ハケナデ。内面はヘラケズリ。 | 淡灰褐色 | 粗 | 良好 | |

SE-202

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 法量 口径<br>器高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 17<br>四 | 土師器<br>壺 | 15.0<br>27.6 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部外面は上半がナデ、下半はヘラミガキ。内面はナデ。口縁部と体部の外面に成形時の粘土接合痕あり。 | 暗褐色 | 精 | 良好 | |
| 18<br>四 | 土師器<br>有孔鉢 | 16.8<br>12.7 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面はナデ、外面は全体にタタキを施した後、ナデてタタキを消している。部分的にタタキが残る。 | 灰黄褐色 | 精 | 良好 | |
| 19<br>四 | 土師器<br>甕 | 20.2 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部外面はタタキ。内面はハケナデ。 | 灰褐色 | 粗 | 良好 | |
| 20 | 土師器<br>甕 | 16.0 | 口縁部内外面はヨコナデ。外面にヘラによる施条と粘土の接合痕有り。体部外面はハケナデ。内面はナデ。 | 黒色 | 粗 | 良好 | |
| 21 | 土師器<br>甕 | 14.8 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部外面はタタキのちハケナデ。内面はヘラケズリ。 | 暗灰黄色 | 粗 | 良好 | |

SE-202

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 法量 | 口径<br>器高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 22<br>四 | 土師器<br>甕 | | 14.8<br>21.4 | 口縁部内外面はハケ後ヨコナデ。体部外面は上半がタタキ、下半はタタキ後ハケナデ。内面はヘラケズリ。 | 黒褐色 | 粗 | 良好 | |
| 23<br>四 | 土師器<br>甕 | | 16.2<br>20.4 | 口縁部内外面はハケ後ヨコナデ。体部外面は連続的に下部までタタキ後ハケナデを施す。内面はヘラケズリ。 | 褐色 | 粗 | 良好 | |
| 24 | 土師器<br>甕 | | 14.8 | 口縁部内外面はハケ後ヨコナデ。体部外面はタタキ後ハケナデを施す。内面はヘラケズリ。 | 黒色 | 粗 | 良好 | |
| 25 | 土師器<br>甕 | | 16.4 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部外面はタタキ。内面はヘラケズリ。 | 黒褐色 | 粗 | 良好 | |
| 26 | 土師器<br>甕 | | 15.2 | 口縁部外面はタタキ後ヨコナデ、内面はヨコナデ。体部外面はタタキ。内面はヘラケズリ。 | 暗褐色 | 粗 | 良好 | |
| 27 | 土師器<br>甕 | | 16.2 | 口縁部内外面はヨコナデ。 | にぶい褐色 | 粗 | 良好 | |
| 28 | 土師器<br>甕 | | 16.0 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部外面はタタキ。内面はヘラケズリ。 | にぶい褐色 | 粗 | 良好 | |
| 29<br>四 | 土師器<br>甕 | | 12.6<br>14.1 | 口縁部内外面はハケ後ヨコナデ。体部外面はハケナデ。内面はヘラケズリ。体部外面に煤付着。 | にぶい赤褐色 | 粗 | 良好 | |
| 30<br>四 | 土師器<br>甕 | | 13.6<br>13.9 | 口縁部内外面はハケ後ヨコナデ。体部外面はハケナデ。内面は上半ヘラケズリ、下半ナデ。体部外面に煤付着。 | 暗灰黄色 | 粗 | 良好 | |
| 31 | 土師器<br>甕 | 底径 3.8 | | 底面はくぼんでいる。外面は右上がりのタタキ、内面はヘラによるナデ。 | にぶい赤褐色 | 粗 | 良好 | |

SD-214

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 法量 | 口径<br>器高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 32<br>五 | 土師器<br>壺 | | 23.8 | 口縁部内外面はヨコナデ。外面は波状文を施し、竹管文を施した2個の円形浮がつく。内面は波状文を施す。 | にぶい黄橙色 | 粗 | 良好 | |
| 33<br>五 | 土師器<br>壺 | | 15.8 | 口縁部内外面はヨコナデ。体部内面ナデ、外面ヘラミガキを施す。 | 黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 34<br>五 | 土師器<br>壺 | | | 体部内面ハケナデとゆびによるナデ、中位に粘土接合痕が残る。外面ヘラミガキを施す。 | にぶい黄橙色 | 粗 | 良好 | |

SD-214

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 法量 | 口径<br>器高 | 説明 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 35 | 土師器<br>甕 | 底径 | 4.4 | 体部外面ヘラミガキを施すが、表部は摩耗しておりミガキ単位は不明である。内面ナデ。 | 灰黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 36 | 土師器<br>壺 | 底径 | 4.6 | 体部内外面ナデ。外面に粘土の接合痕あり。 | にぶい黄橙色 | 粗 | 良好 | |
| 37<br>五 | 土師器<br>鉢 | | 18.8<br>12.0 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハケナデ、底に指頭圧痕あり。外面ナデ。 | 橙色 | 粗 | 良好 | |
| 38<br>五 | 土師器<br>小型鉢 | | 4.2<br>5.5 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハケナデ、底に指頭圧痕あり。外面ナデ。 | オリーブ黄色 | 粗 | 良好 | |
| 39 | 土師器<br>甕 | 底径 | 3.5 | 内面ナデ、外面タタキを施す。 | にぶい褐色 | 粗 | 良好 | |
| 40 | 土師器<br>甕 | | 15.2 | 口縁部内面ハケナデのちヨコナデ、外面タタキ後ヨコナデ。粘土の接合痕あり。 | 灰褐色 | 粗 | 良好 | |
| 41 | 土師器<br>甕 | | 17.5 | 口縁部内面ヨコナデ、外面タタキ後ヨコナデ。体部外面タタキ、内面ヘラケズリ。 | 灰オリーブ色 | 粗 | 良好 | |
| 42 | 土師器<br>甕 | | 15.2 | 口縁部内面ハケナデのちヨコナデ、外面タタキ後ヨコナデ。 | にぶい橙色 | 粗 | 良好 | |
| 43<br>五 | 土師器 | | 24.6 | 口縁部内面ヘラミガキ、頸部は波状文を施す。外面ヨコナデ、端面に回線文を施し、均等に竹管文を施した円形浮文を施す。頸部および体部内外面ナデ。頸部と体部の屈曲部にキザミ目を施した凸帯が貼付けられている。 | 橙色 | 粗 | 良好 | |
| 44 | 土師器<br>壺 | | 18.4 | 口縁部および頸部内外面ヨコナデ。 | 橙色 | 粗 | 良好 | |
| 45<br>五 | 土師器<br>甕 | | 12.7<br>25.8 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面はヘラによるナデ、粘土の接合痕が残る。外面はヘラミガキ、粘土の接合痕が残る。 | 黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 46 | 土師器<br>甕 | | 15.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。 | オリーブ黄色 | 粗 | 良好 | |
| 47 | 土師器<br>甕 | 底径 | 4.2 | 体部内面ナデ、外面ヘラミガキ。 | 灰黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 48 | 土師器<br>甕 | 底径 | 4.6 | 体部内外面ヘラミガキ。 | 橙色 | 粗 | 良好 | |

SD-214

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 法量 | 口径<br>器高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 49 | 土師器<br>壺 | 底径 | 4.2 | 内外面ヘラミガキ。 | 浅黄色 | 粗 | 良好 | |
| 50 | 土師器<br>壺 | | | 内外面ナデ、指頭圧痕と粘土接合痕が残る。 | にぶい黄橙色 | 粗 | 良好 | |
| 51 | 土師器<br>壺 | | | 内面ナデ、外面ハケナデ。 | にぶい橙色 | 粗 | 良好 | |
| 52 | 土師器<br>高杯 | | 23.8 | 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ヘラミガキ。 | 橙色 | 粗 | 良好 | |
| 53 | 土師器<br>高杯 | 裾径 | 13.0 | 内外面ナデ、3方向にスカシ孔あり。 | 淡橙色 | 粗 | 良好 | |
| 54<br>五 | 土師器<br>台付き鉢 | 底径 | 10.4<br>6.6<br>6.6 | 体部内外面ハケナデ、台部内外面ナデ。 | にぶい黄色 | 粗 | 良好 | |
| 55<br>五 | 土師器<br>甕 | | 14.6<br>17.3 | 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラケズリ、底に指頭圧痕が残る。外面ハケナデ。 | 灰オリーブ色 | 粗 | 良好 | |
| 56<br>八 | 土師器<br>甕 | | 13.6 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面ハケナデ。 | 暗褐色 | 粗 | 良好 | |
| 57 | 土師器<br>甕 | | 16.0 | 口縁部内面ハケナデのちヨコナデ、外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面タタキを施す。 | にぶい黄褐色 | 精 | 良好 | |
| 58 | 土師器<br>甕 | | 16.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面ナデ。 | 黄褐色 | 精 | 良好 | |
| 59 | 土師器<br>甕 | | 14.2 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面タタキを施す。 | 明赤灰色 | 粗 | 良好 | |
| 60 | 土師器<br>甕 | 底径 | 4.6 | 内面ナデ、外面タタキを施す。 | 灰黄色 | 粗 | 良好 | |

SD-220

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 法量 | 口径<br>器高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 61<br>六 | 土師器<br>壺 | | 10.8 | 口縁部内面ハケナデ後ヨコナデ、外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面ヘラミガキ。 | にぶい黄橙色 | 精 | 良好 | |

SD-220

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 法量 口径<br>器高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 62<br>六 | 土師器<br>皿 | 11.8 | 口縁部内面ヨコナデ、外面ハケナデのちヨコナデ。体部との屈曲部に凸帯を貼付ける。 | 明褐灰色 | 粗 | 良好 | |
| 63<br>六 | 土師器<br>高杯 | 23.8 | 杯部内面ナデ、外面ハケナデのちヘラミガキ。 | にぶい橙色 | 粗 | 良好 | |
| 64 | 土師器<br>鉢 | | 体部内面ナデ、外面ハケナデ。 | にぶい黄橙色 | 粗 | 良好 | |
| 65<br>六 | 土師器<br>鉢 | 9.2<br>6.4 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ、外面ハケナデ。 | にぶい黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 66<br>六 | 土師器<br>台付き鉢 | 11.0<br>7.6 | 体部内面下部ヘラミガキ、上部ハケナデ。外面ナデ。 | にぶい橙色 | 粗 | 良好 | |
| 67<br>六 | 土師器<br>甕 | 13.6 | 口縁部内面ヨコナデ、外面タタキを施した後ヨコナデ。体部内面ナデ、粘土接合痕残る。 | 浅黄色 | 粗 | 良好 | |
| 68<br>六 | 土師器<br>甕 | 15.2 | 口縁部内面ハケナデのちヨコナデ、外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面タタキを施す。 | 黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 69<br>六 | 土師器<br>甕 | 18.1 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面タタキを施したのちハケナデ。 | にぶい黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 70<br>六 | 土師器<br>甕 | 16.4 | 口縁部内面ヨコナデ、外面タタキを施したのちヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面タタキを施したのちハケナデ。 | にぶい黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 71 | 土師器<br>甕 | 14.2 | 口縁部内面ヨコナデ、外面タタキを施したのちヨコナデ、タタキは強いヨコナデにより消されている。体部内面ヘラケズリ、外面タタキを施したのちハケナデ。 | 黒褐色 | 粗 | 良好 | |
| 72 | 土師器<br>甕 | 15.6 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面タタキを施す。 | 灰黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 73 | 土師器<br>甕 | 15.4 | 口縁部内面ヨコナデ、外面ハケナデのちヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、粘土の接合痕が残る。外面タタキを施したのちハケナデ。 | 黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 74<br>六 | 土師器<br>甕 | 16.8 | 口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面タタキを施す。 | 黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 75<br>六 | 土師器<br>甕 | 15.4 | 口縁部内面ヨコナデ、外面タタキを施したのちヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面タタキを施す。 | にぶい黄褐色 | 粗 | 良好 | |

SD-220

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 法量 | 口径<br>器高 | 調整 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 76 | 土師器<br>甕 | | 14.4 | 口縁部内面ハケナデのちヨコナデ、外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面タタキを施したのち下半はハケナデ。 | 暗灰黄色 | 粗 | 良好 | |
| 77 | 土師器<br>甕 | | 15.2 | 口縁部内外面ハケナデのちヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面タタキを施す。 | 暗灰黄色 | 粗 | 良好 | |
| 78 | 土師器<br>甕 | | 16.8 | 口縁部内外面ハケナデのちヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面タタキを施す。 | にぶい黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 79 | 土師器<br>甕 | | 16.4 | 口縁部内面ハケナデのちヨコナデ、外面タタキを施したのちヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面タタキを施す。 | にぶい黄褐色 | 粗 | 良好 | |
| 80 | 土師器<br>甕 | 底径 | 2.5 | 内面ヘラケズリ、外面ハケナデ。 | 暗灰黄色 | 粗 | 良好 | |
| 81 | 土師器<br>甕 | 底径 | 3.0 | 内面ヘラケズリ、外面タタキを施したのちハケナデ。 | 黒褐色 | 精 | 良好 | |
| 82<br>六 | 土師器<br>甕 | 底径 | 1.4 | 内面ヘラケズリ、外面タタキを施したのちハケナデ。 | 黒褐色 | 精 | 良好 | |

# 第5章　まとめ

今回の調査では、古墳時代前期［庄内式期］と平安時代後期から鎌倉時代初頭と近世の3時期の遺構を検出した。

**古墳時代前期［庄内式期］**

**第1区と第2区**では、SD-214の南側が同時期の水田であることが判明した。地形的には北が高く（TP＋6.215m）、南が低い（TP＋6.05m）。水田上面には動物および人の足跡が無数検出されている。畦畔を2条検出したが、今回の調査地は幅が狭く水田の平面の形状は不明である。

また、灌漑用の堰や取排水の為の水口は検出していないが、SD-214から南の方向が低いことから、SD-214から取水していたと思われる。この水田が機能を果たさなくなるのは、水田面を覆う第8層内の出土遺物から、古墳時代前期前半頃と推定される。

この時期の集落（居住域）が調査地のSD-214から北側で検出された。井戸（SE-201・SE-202）内から出土した遺物は庄内式期でも古い形式に位置づけられる。出土した遺物は、土器

に含まれている砂礫の鑑定から、生駒西麓の砂礫を採取し、当遺跡付近の粘土を使用し土器を作っていたことが判明した。この時期の遺物は第19次調査地（第１図の⑭）で検出している土坑内からも出土している。[註1] 今回検出した井戸内からの出土遺物は、上記土坑内から出土した土器の形と類似し、古墳時代前期（庄内Ⅰ～Ⅱ期）のものと推定される。[註2] 同時期の集落が今回の調査地一帯に存在していたことが明らかになった。

**平安時代後期**

**第１区**と**第２区**の第６層上面と第７層上面がこの時代の遺構の検出面である。

水田は第７層上面で検出した。条里地割に伴って区画されており、何れの畦畔も東西方向に伸びている。地形的には北が高く（TP＋6.5ｍ）、南が低い（TP＋6.2ｍ）。水田上面には動物および人の足跡が無数検出されている。第７層はやや粘性が高い砂質の上層で水田土を覆われている。洪水等の要因でこの水田は埋没したと推定される。

第６層上面で、井戸と溝を検出した。井戸（SE-101）内からは、平安時代後期の遺物が出土した。同時期の遺構は第28次調査（第１図の⑲）でも検出している。[註3] 遺物の時期は11世紀初頭頃のものと推定され、同時期の集落が今回の調査地一帯に存在していたことが明らかになった。[註4]

**近世**

第５層上面で、井戸５基と溝１条を検出した。集落域は検出していないためこの井戸は、灌漑用の井戸と推定される。

註１　八尾市教育委員会『八尾市文化財調査報告12』
註２　財団法人　八尾市文化財調査研究会『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要』
　　財団法人　八尾市文化財調査研究会報告37　久宝寺遺跡（第１次調査）編年参照
註３　財団法人　八尾市文化財調査研究会『八尾市文化財調査研究会年報　昭和63年度』
　　財団法人　八尾市文化財調査研究会報告25
註４　財団法人　八尾市文化財調査研究会『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要』昭和61年度
　　財団法人　八尾市文化財調査研究会報告13　Ⅰ　萱振Ａ遺跡（第１次調査）

# 付章　「東郷遺跡出土土器の砂礫」

奥田　尚

## 1．はじめに

八尾市東郷遺跡から出土した庄内式期の土器の表面に見られる砂礫を肉眼で観察した。始めに裸眼で全体を、次に倍率30倍の実体鏡で観察良好な部分を観察した。砂礫には岩石片や鉱物片、生物片があり、これらの種類、形、量について観察した。観察の目安として、岩石片では花崗岩、閃緑岩、斑糲岩、流紋岩、安山岩、玄武岩、礫岩、砂岩、泥岩、チャート、片岩、火山ガラス等、鉱物片では石英、長石、白雲母、黒雲母、角閃石、輝石、橄欖石等、生物片として海綿の骨片、ウニの刺等に注意した。石種の同定で花崗岩としたものは、便宜上、石英・長石、石英・長石・雲母、雲母・長石、石英・雲母と噛み合っているようなものである。片麻岩の一部をみていても花崗岩のように見える。また、流紋岩や安山岩としたものについても、溶結の有無については判断できないことが多い。岩石片、特に火成岩については岩石の全体がわかれば石種が異なることがある。

## 2．含有砂礫とその特徴

土器の表面に見られる砂礫種は、岩石片として花崗岩、閃緑岩、チャート、火山ガラス、鉱物片として石英、長石、黒雲母、角閃石である。これら砂礫種の特徴について述べる。

花崗岩：色は灰白色、粒形が角、亜角、最大粒径が8㎜である。石英・長石が噛み合っている。

閃緑岩：色は灰色、粒形が角、最大粒径が9㎜である。長石・角閃石が噛み合っている。

チャート：色は灰色、暗灰色で、粒形が角、亜角、最大粒径が6㎜である。

火山ガラス：無色透明で、フジツボ状をなし、最大粒径が0.7㎜である。

石英：無色透明、粒形が角、最大粒径が1㎜である。複六角錐あるいはその一部が見られるものもある。

長石：白色、灰白色透明、無色透明で、粒形が角、最大粒径が5㎜である。

黒雲母：金色、黒色で金属光沢があり、板状、最大粒径が2㎜である。

角閃石：色は黒色、粒状、柱状で、粒形が角、最大粒径が3㎜である。

### 3．砂礫種構成による区分

砂礫種構成から源岩についての推定を行い、類型区分した。岩石は砕かれれば最終的に鉱物片に分解されるが、肉眼で観察、識別できる大きさのものは、岩石片や鉱物片の場合が多い。また、石英と長石、黒雲母が噛み合っているから花崗岩としたものであっても、大きな塊であれば片麻状花崗岩と名称が変成岩の範囲になることもある。また、石英と長石の自形の斑晶が散在するために流紋岩としても、大きな塊であれば、溶結がみられ、流紋岩質溶結凝灰岩となる場合もある。このようなことから、花崗岩片、石英、長石、黒雲母の砂礫から成る場合は花崗岩質岩起源と推定される砂礫とし、流紋岩片、自形の石英・長石・黒雲母の砂礫からなる場合は流紋岩質岩起源と推定される砂礫とした。砂礫には単一の源岩の場合もあるが、いろいろの岩石が源岩となっている場合が多いため、主を占める砂礫から推定される源岩を類型に、従を占める砂礫から推定される源岩を亜類型とした。例えば、花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫が僅かに含まれていればⅠb類型とした。

観察した土器に含まれる砂礫種構成は、Ⅰ類型、Ⅱ類型の2類型で、細分すればⅠbd類型、Ⅰb類型、Ⅰbg類型、Ⅱa類型、Ⅱb類型、Ⅱdg類型の6亜類型である。各類型の特徴について述べる。

Ⅰ類型：花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とする。

花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫や複六角錐あるいはその一部が認められる石英が僅かに含まれる砂礫からなる ……Ⅰbd類型

花崗岩質岩起源と推定されうる砂礫を主とし、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫が僅かに含まれる砂礫からなる ……Ⅰb類型

花崗岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、閃緑岩質岩起源と推定される砂礫やチャートが僅かに含まれる砂礫からなる ……Ⅰbg類型

Ⅱ類型：閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とする。

閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、花崗岩質岩起源と推定される砂礫が僅かに含まれる砂礫からなる ……Ⅱa類型

閃緑岩質岩起源と推定される砂礫からなる ……Ⅱb類型

閃緑岩質岩起源と推定される砂礫を主とし、複六角錐あるいは一部が認められる石英、チャートが僅かに含まれる砂礫からなる ……Ⅱbg類型

### 4．遺跡付近の砂礫構成と土器の砂礫構成

遺跡が位置する付近は大和川が運んできた土砂からなる沖積地にあたり、長石が僅かに含まれる花崗岩質岩起源と推定されうる砂礫を主とし、チャートや砂岩、泥岩、角閃石、自形の石

英が僅かに含まれることがある。生駒山地の西麓に分布する谷川の砂礫には比較的長石が多い。また、生駒山から暗峠にかけては斑糲岩が分布し、東大阪市客坊谷等の砂礫には斑糲岩片や角閃石、輝石、橄欖石が含まれる。八尾市恩智神社の東や楽音寺付近には長石と角閃石を主とし、黒雲母を僅かに含む閃緑岩質から斑糲岩質の岩石が分布する。また、大窪付近の尾根部には黒雲母を多く含む閃緑岩が分布する。八尾市西部の久宝寺から木ノ本にかけての付近にチャートの砂礫が比較的多く含まれる。

以上のような砂礫分布を基に土器に含まれる砂礫の採取地を推定すれば、Ⅰb類型、Ⅰbg類型に属する土器の砂礫は遺跡付近の砂礫と推定され、Ⅰbg類型に属する土器の砂礫は長石が比較的多く含まれることから生駒山地から流出する河川の砂礫と推定される。場所的には恩智や大窪、楽音寺を除く山麓が推定される。Ⅱ類型に属する土器の砂礫は角があり、媒乱砂を粘土に混ぜて胎土としたようであることから、沖積地の粘土に閃緑岩質岩の媒乱砂を混ぜて土器を製作したと推定される。砂礫の採取地としては黒雲母が少ない砂礫は恩智付近の閃緑岩と推定され、No.30のような黒雲母が多い砂礫は大窪付近の閃緑岩の媒乱砂と推定される。遺跡付近の沖積地の粘土にもチャートや泥岩、砂岩、自形の石英が僅かであるが含まれることから恩智や大窪付近から砂礫を採取して、遺跡付近の粘土で土器を作ればⅡ類型に属する土器の砂礫となりうる。

## 土器の砂礫

| 試料番号 | 器種 | 岩石鉱物 花崗岩 | | 閃緑岩 | | 流紋岩 | | 安山岩 | | 砂岩 泥岩 | | チャート | | 片岩 | | 火山ガラス | | 石英長石 | | | | 雲母 | | 角閃石 | | 輝石 | | 海綿の骨片 | 類型 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 裸眼 | 30倍 | 裸眼 | 30倍 | 裸眼 | 30倍 | 裸眼 | 30倍 | 裸眼 | 30倍 | 裸眼 | 30倍 | 裸眼 | 30倍 | 裸眼 | 30倍 | 裸眼 | 30倍 | 裸眼 | 30倍 | 裸眼 | 30倍 | 裸眼 | 30倍 | 裸眼 | 30倍 | | |
| 東郷遺跡 No.13 | 高杯 | | L-微角 | | | | | | | | | | | | | | | | M-多 E稀 | | M-中 | | S稀 板 | | S微 | | | | Ⅱbd |
| 東郷遺跡 No.14 | 甕 河内庄内 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | L-僅 | M-僅 | | S微 板 | L-非 | M-非 | | | | Ⅱb 河内 |
| 東郷遺跡 No.15 | 甕 河内庄内 | L-稀角 | M稀角 | L稀角 | | | | | | | | | | | | | | | | L-中 | M-僅 | S稀 板 | M-稀 板 | L-多 | L-多 | | | | Ⅱa 河内 |
| 東郷遺跡 No.16 | 甕 河内庄内 | L-稀角 | | | | | | | | | | | | | | | | | | S稀 | M稀 | M-稀 板 | M稀 板 | M-多 | L-非 | | | | Ⅱa 河内 |
| 東郷遺跡 No.17 | 壺 | L-稀角 | L-稀角 | | | | | | | | | | | | | | | | M-微 | L-僅 | M-多 | S僅 板 | | M-微 | L-多 | | | | Ⅱa 河内 |
| 東郷遺跡 No.18 | 鉢 | L-僅角 | L-稀角 | | L稀角 | | | | | | | | | | | | M稀フ | M-僅 | L-中 | M-中 | M-僅 | L-微 板 | M稀 板 | L-中 | L-中 | | | | Ⅱa 河内 |
| 東郷遺跡 No.19 | 甕 | | | | | | | | | | | | L微亜角 | | | | | | M-中 E僅 | M-稀 | M-稀 | | | M-中 | L-中 | | | | Ⅲdg |
| 東郷遺跡 No.20 | 甕 河内庄内 | | | L稀角 | | | | | | | | | | | | | | | | L-僅 | M-僅 | | M-微 板 | L-僅 | L-非 | | | | Ⅱb 河内 |
| 東郷遺跡 No.21 | 甕 | | L-微角 | | | | | | | | | | | | | | | M-稀 | L-中 | M-微 | M-僅 | | S稀 板 | | S微 | | | | Ⅰb 在地 |
| 東郷遺跡 No.22 | 甕 河内庄内 | | | | | | | | | | | | | | | | | | L-微 | M-僅 | M-中 | S僅 板 | M-中 板粒 | M-僅 | L-中 | | | | Ⅱa 河内 |
| 東郷遺跡 No.23 | 甕 河内庄内 | L-稀角 | | M-稀角 | | | | | | | | | | | | | | | | L-中 | M-非 | | M-微 板 | M-僅 | M-中 | | | | Ⅱa 河内 |
| 東郷遺跡 No.24 | 甕 河内庄内 | | | | | | | | | | | | | | | | | | M稀 | L-僅 | M稀 | | S僅 板 | | L-多 | | | | Ⅱa 河内 |
| 東郷遺跡 No.25 | 甕 河内庄内 | L-微角 | | | | | | | | | | | | | | | | | | L-多 | L-非 | M-微 板 | S稀 板 | | L-中 | | | | Ⅱa 河内 |
| 東郷遺跡 No.26 | 甕 庄内 | | | | | | | | | | | | | | | | | | M-稀 | L-僅 | M-多 | | S僅 板 | M-微 | L-多 | | | | Ⅱa 河内 |
| 東郷遺跡 No.27 | 甕 庄内 | | | | L微亜角 | | | | | | | | | | | | | | | L-僅 | L-多 | | M-微 板 | M-多 | L-非 | | | | Ⅱb 河内 |
| 東郷遺跡 No.28 | 甕 河内庄内 | L-微角 | | | | | | | | | | | | | | | | M-微 | | | M微 | | M-僅 板 | M-微 | M-非 | | | | Ⅱa 河内 |
| 東郷遺跡 No.29 | 甕 | L稀角 | | | M微角 | | | | | | | | | | | | | | | L-僅 | L-僅 | | M-微 板 | L-微 | L-多 | | | | Ⅱa 河内 |
| 東郷遺跡 No.30 | 甕 河内庄内 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | M-微 | S多 板 | L-多 板 | | L-非 | | | | Ⅱb 河内 |
| 東郷遺跡 No.31 | 甕か壺 | M稀角 | | | | | | | | | | L稀角 | | | | | | | L-中 | M-僅 | M-僅 | | L-多 板 | | S稀 | | | | Ⅰbg 在地 |

裸眼＝裸眼観察　裸眼による観察：L＝粒径2mm以上　M＝粒径2mm未満5mm以上　S＝粒径0.5mm未満　非＝量が非常に多い　多＝量が多い　中＝量が中　僅＝量が僅か　微＝量がごく僅か　稀＝量がごく僅か　30倍＝実体鏡の倍率が30倍　実体鏡による観察：L＝粒径1mm以上　M＝1mm未満0.5mm以上　S＝粒径0.5mm未満　量は裸眼に同じ　－＝以下の粒径がある　E＝白形あるいは結晶面がある　W＝白雲母が含まれる　板＝板状　貝＝貝殻状　束＝束状　フ＝フジツボ状　図＝報告書等の図版

# 図　　版

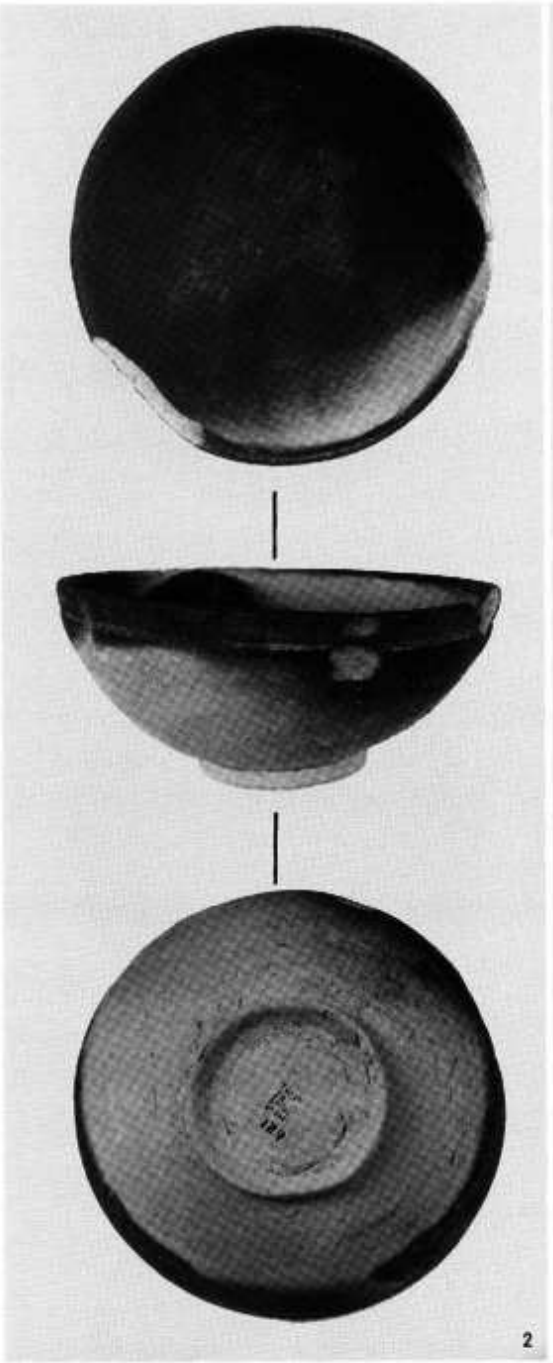
第1区 第1面全景（北から）

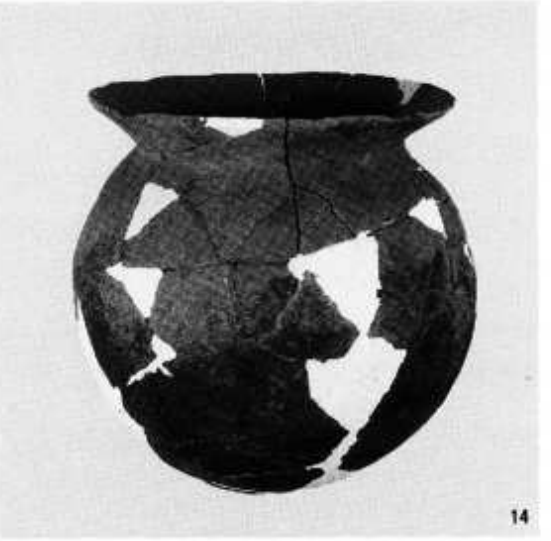
第2区 第1面全景（北から）

図版二

第1区 第2面全景（北から）

第2区 第2面全景（北から）

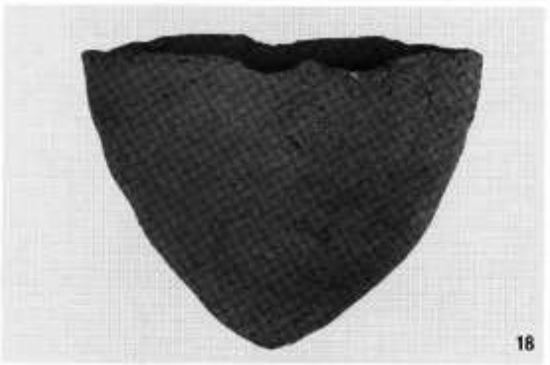




SE-106（2）SE-201（13～16）出土遺物

図版四

17


18

19

22

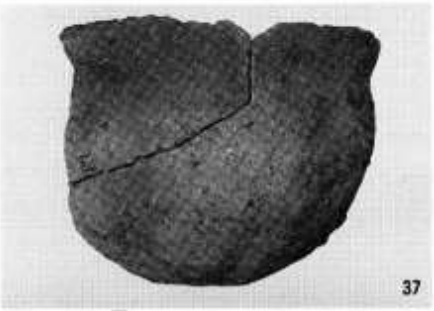
23

29

30

SE-202（17～19・22・23・29・30）出土遺物

32


37

45

38

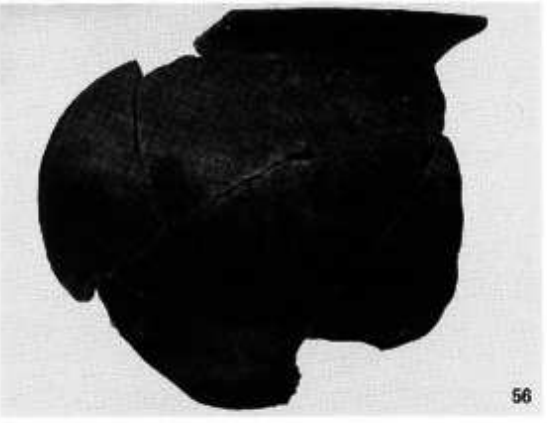
33

34

43

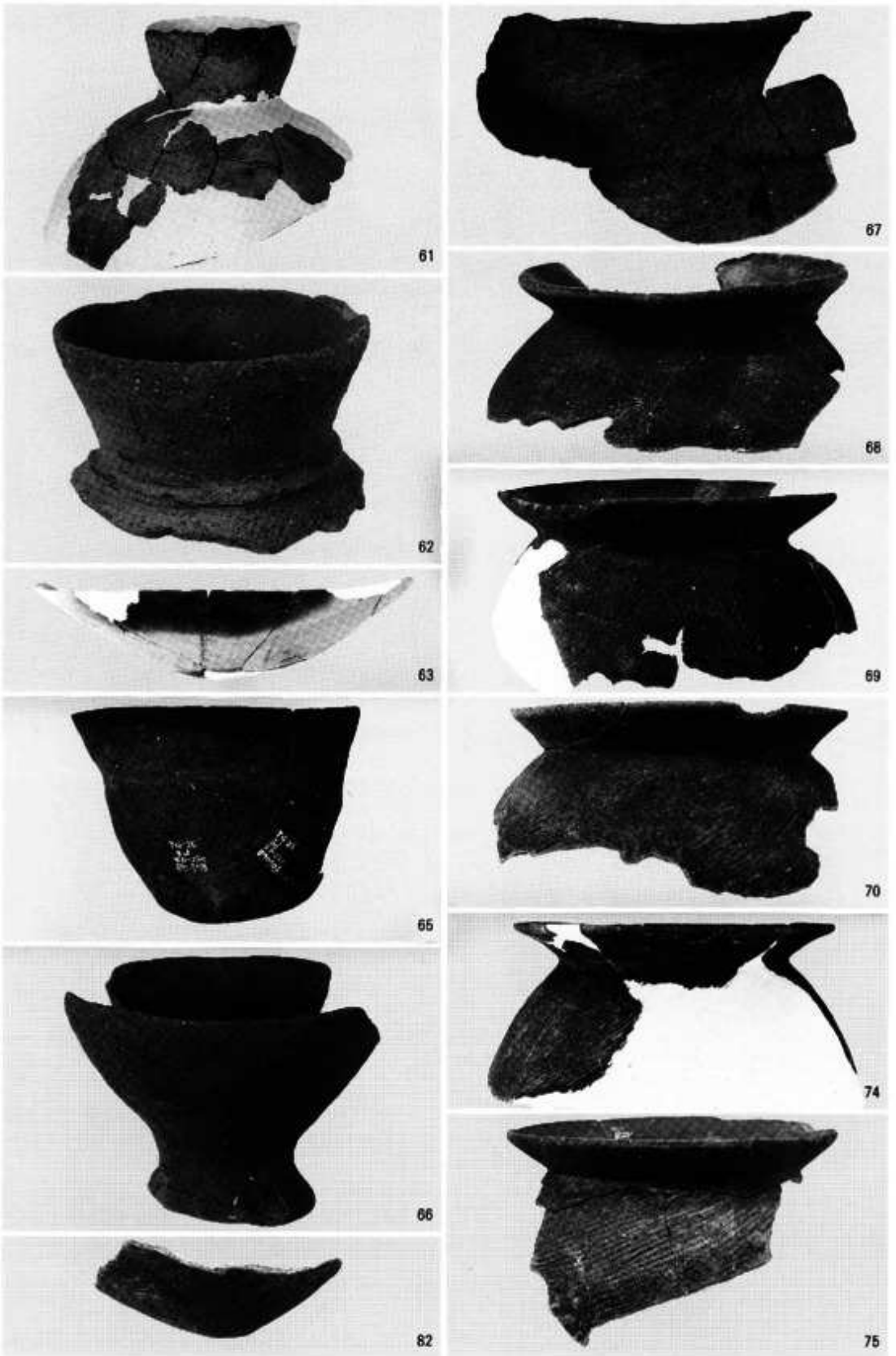
54

55


56

SD-214（32～34・37・38・43・45・54～56）出土遺物

図版六




SD-220（61～63・65～70・74・75・82）出土遺物

# Ⅱ　宮町遺跡第１次調査（ＭＭ91－１）

# 例　　言

1．本書は、八尾市宮町３丁目94－１で実施した店舗建設に伴う発掘調査の報告書である。
1．本調査は、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第164号　平成３年３月29日）に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が、井上恵元氏から委託をうけて実施したものである。
1．本調査は、当調査研究会が宮町遺跡内で実施した第１次調査である。
1．本調査は、当調査研究会　坪田真一を担当者として、平成３年６月６日に着手し、同年６月17日に終了した。調査面積は約200㎡である。
1．現地調査には、垣内洋平・正木洋二・真柄　竜・東　秀之・能勢直樹・林　成光の参加を得た。
1．内業整理には上記の他、岩本順子・坂下　学・田島和恵・都築聡子・浜田千年・山内千恵子の参加を得た。
1．本書の執筆・写真撮影及び編集は坪田が行い、遺物観察表を主に田島が作成した。
1．本書で用いた方位は、現地実測図と2,500分の１地図から起こした座標北である。

# 本　文　目　次

第１章　調査に至る経過……49
第２章　調査概要……50
　第１節　調査方法……50
　第２節　基本層序……51
　第３節　検出遺構と出土遺物……52
第３章　出土遺物観察表……72
第４章　まとめ……78

# 挿　図　目　次

第1図　調査地位置図（S＝1／5000）……49
第2図　地区割図（S＝1／600）……50
第3図　基本層序（S＝1／40）……51
第4図　1区出土一石五輪塔（S＝1／4）……51
第5図　1区　第1次面平面図（S＝1／100）……52
第6図　1区　第1次面出土遺物（S＝1／4）……53
第7図　1区　第2次面平面図（S＝1／100）……54
第8図　1区　SE201平・断面図（S＝1／30）……56
第9図　1区　SE201出土遺物（S＝1／4）……57
第10図　1区　第2次面遺構出土遺物（S＝1／4）……57
第11図　1区　SD201出土遺物①（S＝1／4）……58
第12図　1区　SD201出土遺物②（S＝1／4）……59
第13図　1区　SX201平・断面図（S＝1／60）……60
第14図　1区　SX201出土遺物①（S＝1／4）……62
第15図　1区　SX201出土遺物②（S＝1／4）……63
第16図　1区　SX201出土遺物③（S＝1／4）……64
第17図　1区　SX201出土遺物④（S＝1／4）……65
第18図　1区　SX201出土遺物⑤（S＝1／5）……66
第19図　3・4区　平・断面図（S＝1／60）……68
第20図　4区　SD202出土遺物①（S＝1／4）……69
第21図　4区　SD202出土遺物②（S＝1／5）……70
第22図　4区　SD202出土遺物③（S＝1／5）……71

# 表　目　次

表1　第1次面ピット法量表……55
表2　第2次面ピット法量表……58
表3　SX201内ピット法量表……67

# 図　版　目　次

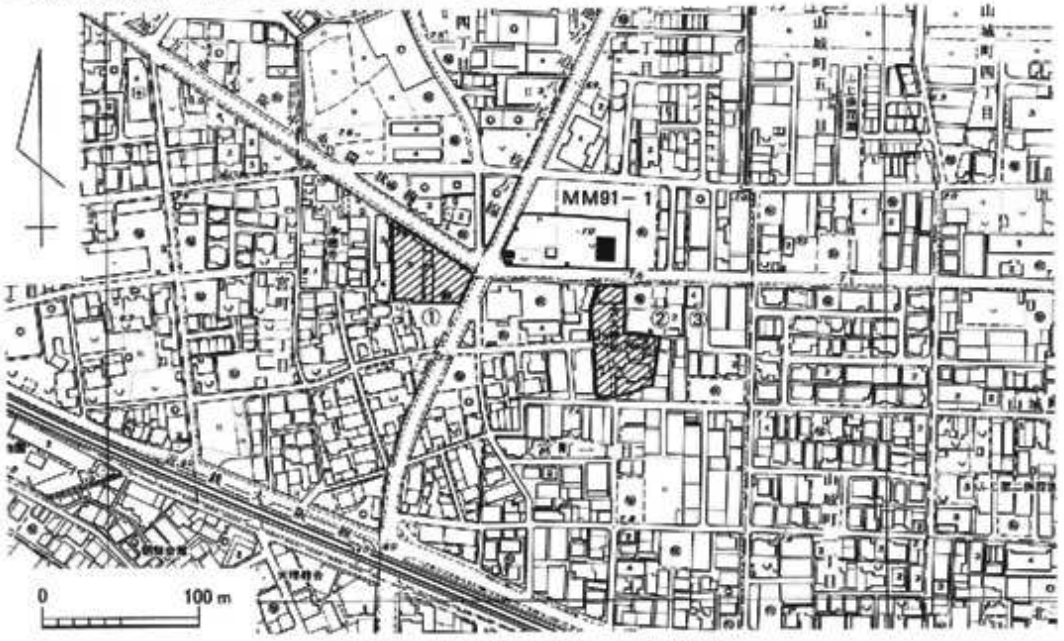
図版１　調査地周辺航空写真（上が北）
図版２　１区　第１次面（北から）
　　１区　第２次面（北から）
図版３　１区　ＳＥ201（東から）
　　１区　ＳＥ201井戸枠（東から）
図版４　１区　ＳＥ201断ち割り（東から）
　　１区　ＳＸ201（北から）
図版５　１区　ＳＸ201北側板（南から）
　　１区　ＳＸ201北側板断面（東から）
図版６　４区　ＳＤ202（西から）
　　４区　ＳＤ202（南から）
図版７　出土遺物
図版８　出土遺物
図版９　出土遺物
図版10　出土遺物
図版11　出土遺物
図版12　出土遺物

# 第1章　調査に至る経過

宮町遺跡は八尾市の北西部に位置し、現在の行政区画では宮町1～4丁目、本町5・6丁目がその範囲となっている。地理的には旧大和川の主流である長瀬川の右岸に広がる沖積地にあたり、北側で美園遺跡、西側で佐堂遺跡、東側で東郷遺跡と接している。今回の調査地の南側に所在する穴太神社からは平安時代後期から室町時代にかけての屋瓦が出土し、『河内鑑名所記』・『和漢三才図会』等の文献にみられる大日山千眼寺に推定される地域である。

当遺跡内の今回の調査地周辺では、西部で昭和55年（①）、穴太神社境内で昭和56～57年に二度（②・③）、八尾市教育委員会により発掘調査が行われている。①では鎌倉時代末から近世の遺構（水溜状遺構・井戸・溝・瓦溜）・遺物、②③では土壇・礎石・瓦集積などの寺院関連の遺構・遺物が検出されている。

このような情勢下、井上恵元氏より、八尾市宮町3丁目94－1における店舗建設の届出書が八尾市教育委員会文化財室（現文化財課）に提出された。これを受けた同文化財室では、当該地が周知の遺跡範囲内にあることから、平成3年3月20日に遺構確認調査を実施した。その結果[註1]、平安時代後期を中心とする遺物包含層、溝・ピット等の遺構が検出され、文化財室では発掘調査が必要であると判断し、事業者にその旨を通知した。そして、発掘調査を実施することが両者で合意され、調査にあたっては、事業者・文化財室・当調査研究会の三者協定により、当調査研究会が主体となって実施することとなった。




第1図　調査地位置図（S＝1／5000）

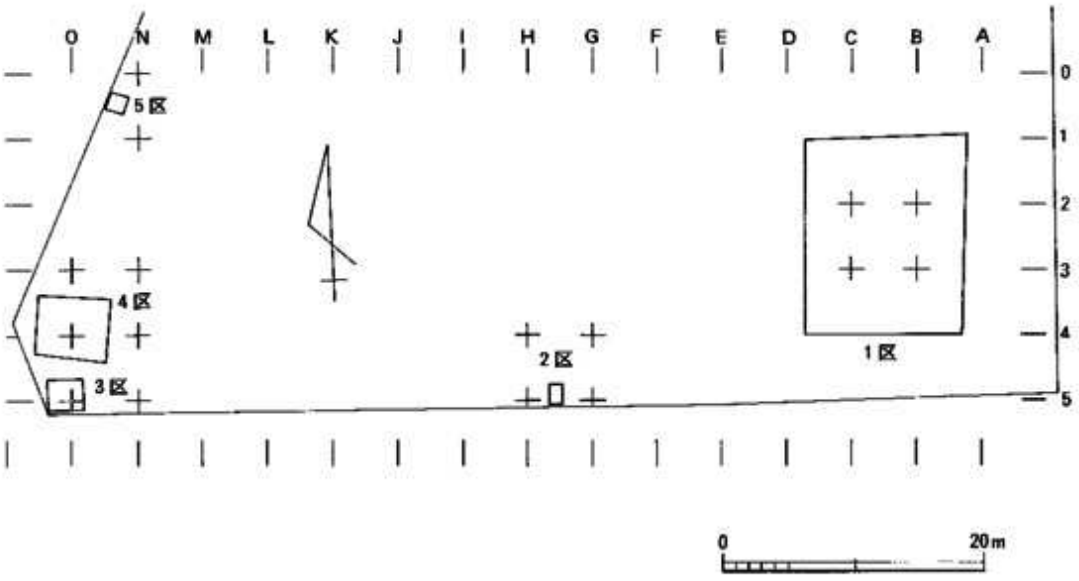
# 第２章　調査概要

## 第１節　調査方法

今回の調査は店舗建設に伴う調査で、調査区は店舗部分１か所（１区）、看板支柱部分４か所（２～５区）の計５か所に分かれている。各調査区の規模は１区－15m×12m・約180㎡、２区－1.5m×1.0m・約1.5㎡、３区－2.4m×2.6m・約６㎡、４区－4.4m×4.4m・約19㎡、５区－1.5m×1.0m・約1.5㎡である。

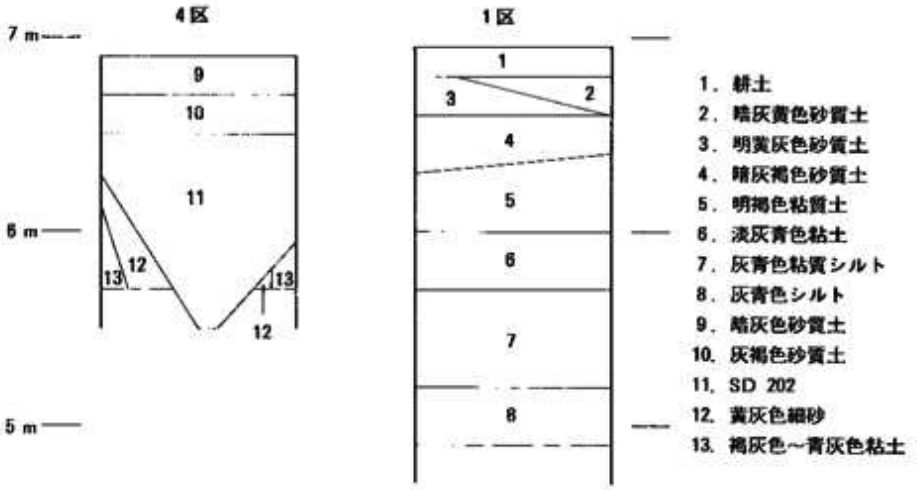
調査は１区～５区を並行して行った。掘削は１・２区で地表下約0.3mまで、３～５区で約0.6mまでを機械掘削したのち、以下を人力で行った。２・５区は調査面積も狭く、断面観察を行ったが、２区は調査区全域がごく近代の井戸掘形内に収まるため調査は省略した。なお１区で検出した井戸ＳＥ201の断割りには機械を使用した。

地区割は１区の平面形に合わせて５m方眼を任意に設定した。そして南北ラインにアルファベット（東からＡ～Ｏ）、東西ラインに数字（北から０～５）を冠し、地区名は北東交点番号に代表させた。なおこの方眼の南北ラインは北から東に約2.9度振っている。




第２図　地区割図（Ｓ＝１／600）

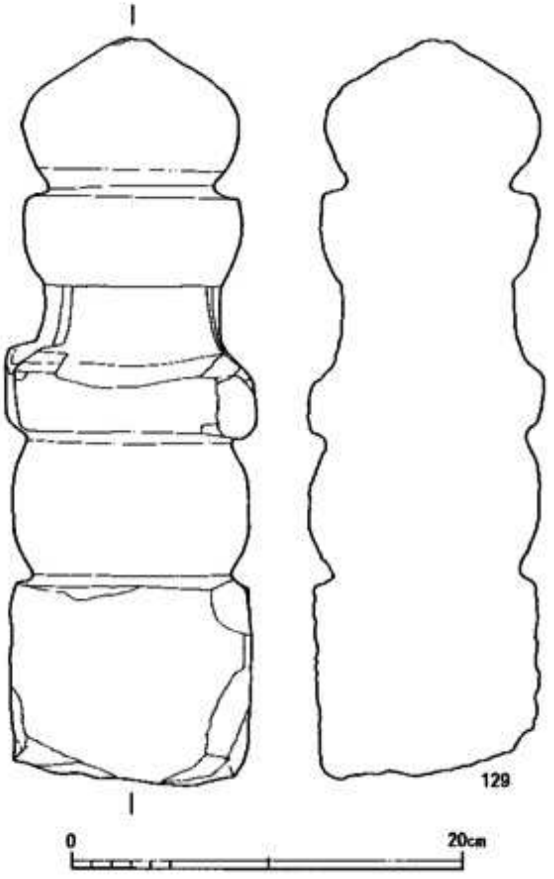
## 第2節　基本層序




第3図　基本層序（S＝1／40）

〈1区〉第1層は現代の耕土である。第2・3層は中世頃の包含層で、特に調査区の北東部にみられた第2層に遺物は多く含まれている。この上面が第1次面で、標高は約6.8mである。第4層以下はベース層で、遺物は出土していない。この上面が第1次面で、標高は約6.6mである。

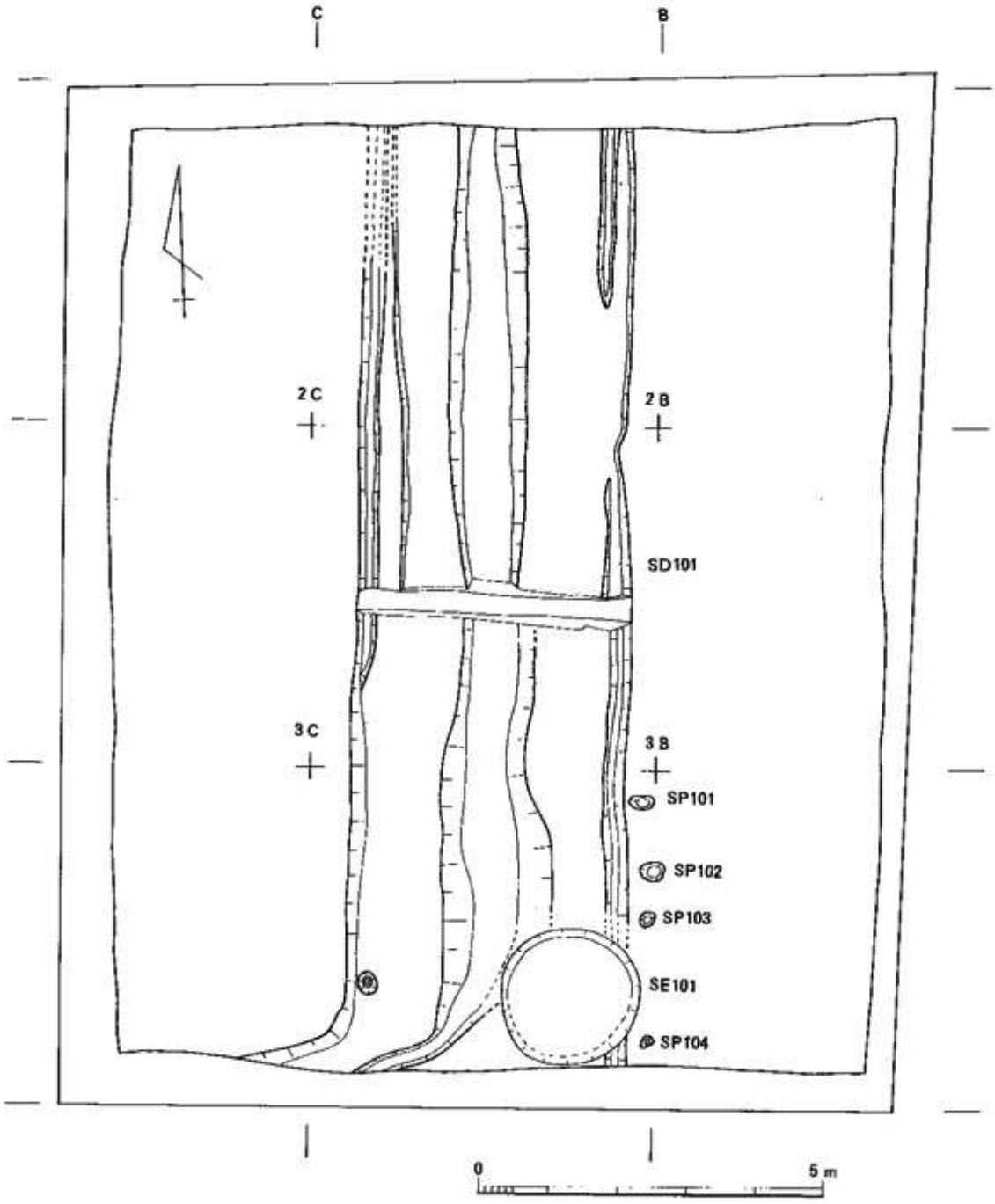
〈4区〉第9層は近世の盛土と考えられる。第10層はほとんど遺物を含んでいない。第11層はSD202の埋土である。第12層の細砂層がベースとなり、河川の堆積と考えられる。




第4図　1区出土一石五輪塔（S＝1／4）

## 第３節　検出遺構と出土遺物

１区と３・４区で遺構を検出した。




第５図　１区　第１次面平面図（S＝１／100）

〈1区〉

2面の遺構面を確認した。第1次面では耕土直下から掘りこまれる井戸1基（SE101）・溝1条（SD101）・ピット4個（SP101～104）、第2次面では第4層上面から掘りこまれる井戸1基（SE201）・土坑2基（SK201・202）・溝1条（SD201）・ピット9個（SP201～209）・不明遺構1基（SX201）を検出した。

なお一石五輪塔（第4図）は調査後の工事中に1区から出土したもので、出土地点・層位等は不明である。花崗岩製と思われ、残存高38.7cmを測る。遺存状態は悪く、梵字の刻印等は確認できない。

SE101

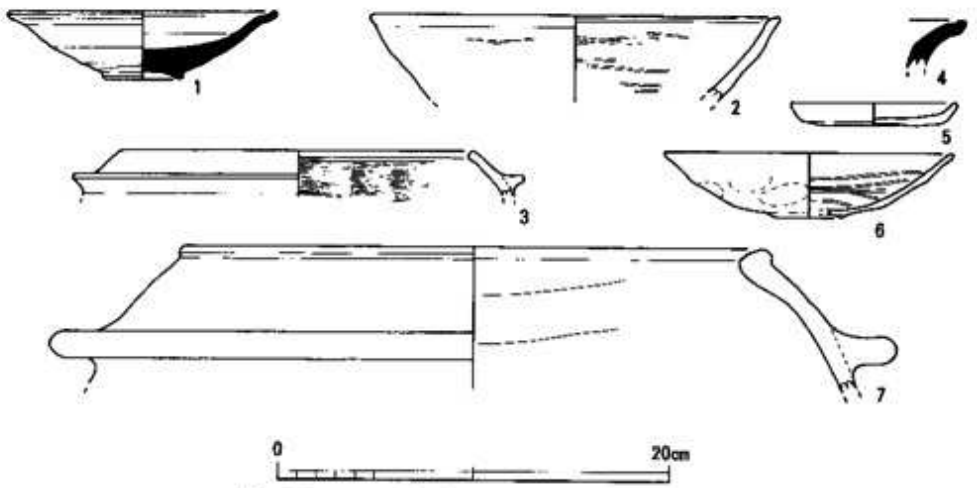
調査区の南部3B区で検出した。掘形は直径約2.0mの円形を呈し、埋土は上層が暗灰褐色系の砂質土、下層が青灰色系の粘土～粘質土で、ブロック状を呈する。井戸枠は検出されなかった。上層から唐津焼皿（1）が出土している。江戸時代頃に埋められた井戸であろう。

SD101

調査区中央をほぼ南北方向に直線的に伸びる溝で、南部はSE101に切られている。規模は幅約4.0m・深さ0.3m～0.5mを測る。長さ15.0m以上で調査区外に続いているが、調査区南端で西肩が西にほぼ直角に屈曲している。断面形状をみると、底部の両端と中央部がさらに溝状に掘り込まれている。前者は幅約0.3m・深さ約15cm、後者は幅約1.3m・深さ約30cmを測り、底部のレベルは中央溝が約25cm低い。埋土は上層が暗灰色砂質土、下層が灰色砂質土、中央溝部分が灰色砂混じり粘質土である。

当溝はほぼ直角に屈曲していることから、中世～近世の区画溝等の性格が考えられよう。

出土遺物には瓦、土師器皿（5）、瓦器椀（6）、常滑焼甕（4）等があり、時期は14世紀代

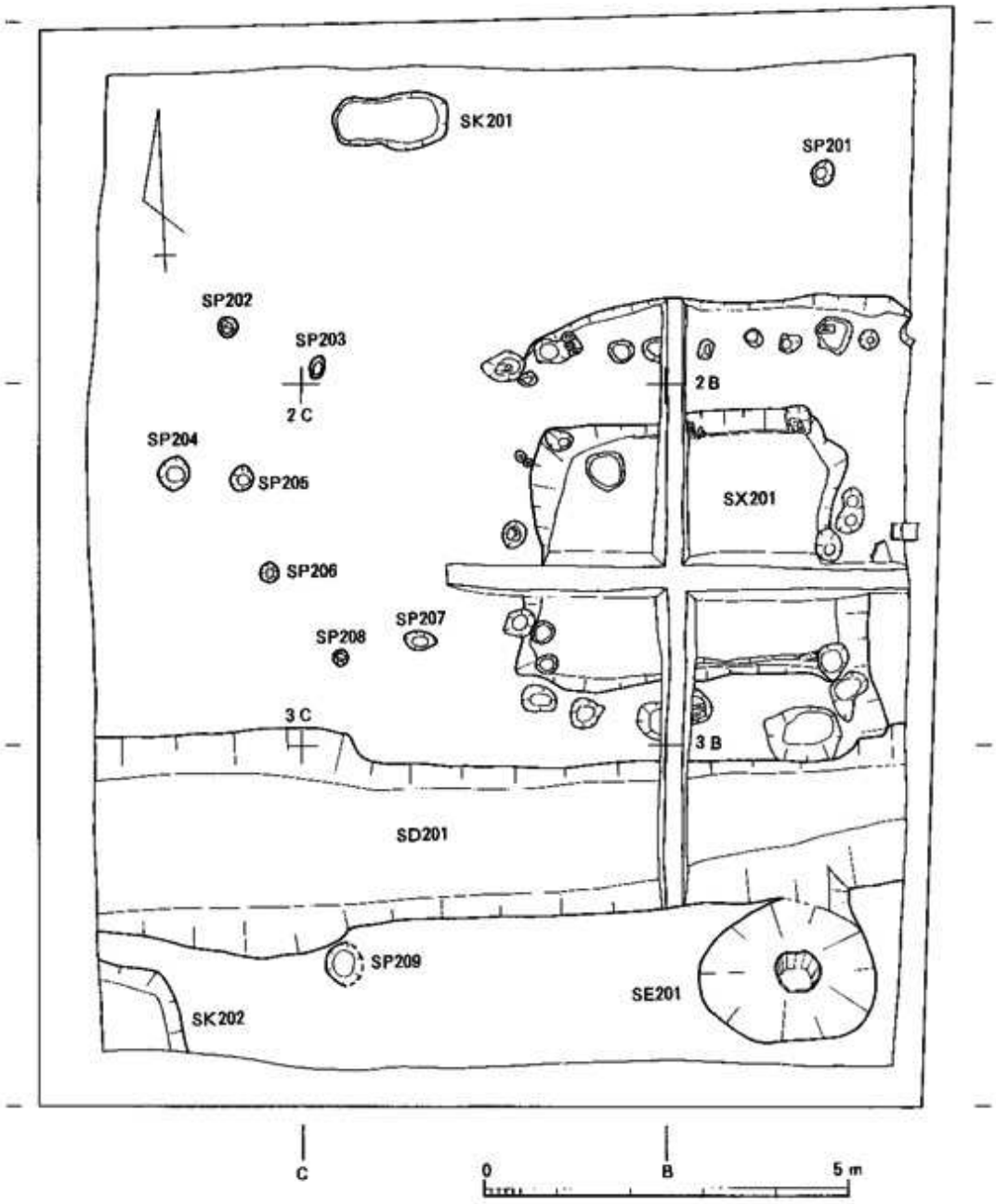



第6図　1区　第1次面出土遺物（S＝1／4）

以降のものである。

ＳＰ101～104

調査区の南部３Ｂ区で、ＳＤ101の東肩に沿って検出した。直径20cm～35cm・深さ約20cmを測り、埋土はいずれも灰褐色砂質土である。検出状況からＳＤ101に関連するものと考えられる。法量等は表１にまとめた。




第７図　１区　第２次面平面図（Ｓ＝１／100）

| | 平面形状 | 長辺×短辺×深さ（cm） | 埋　土 |
|---|---|---|---|
| SP 101 | 長 円 形 | 36×17×11 | 灰褐色砂質土 |
| SP 102 | 不整円形 | 36×30×12 | 〃 |
| SP 103 | 不整円形 | 23×20×10 | 〃 |
| SP 104 | 不 整 形 | 21×15×7 | 〃 |

表1　第1次面ピット法量表

SE201

調査区の南東角3A区で検出した井戸である。検出時の平面形は約2.4m×1.9mの東西に長い楕円形を呈していたが、断割り調査において北部が拡張することがわかり、本来の掘形は直径約2.4mのほぼ円形を呈すると考えられる。井戸枠には直径約60cm・高さ約90cmの桶を使用しており、最下段のみが遺存しているが、土圧のためやや北側に傾いている。桶は長さ約90cm・幅約10cm・厚さ約2cmの板15枚で構成され、桶の底部から約15cmの位置には「たが」が巻かれている。また桶上辺から約10cm上にも「たが」のみが遺存しており、さらに上にもう一段の桶があったことが窺える。井戸枠の設置では、下から約20cmを湧水層である灰青色シルトに埋め込んでいる。

掘形の埋土は上から暗灰黄色砂質土・灰黄褐色砂質土（粘土ブロック含む）・黄灰色シルト混じり砂質土・淡黄灰色シルト・灰青色粘土混じりシルト・青灰色粘土混じりシルト・暗青灰色粘土混じりシルトであり、上層の3層は井戸廃棄後の埋め戻しの際の堆積と考えられる。井戸枠内の埋土は上から灰色微砂混じり粘質土・暗灰色微砂混じり粘土・灰青色シルト混じり粘土・灰色砂礫である。

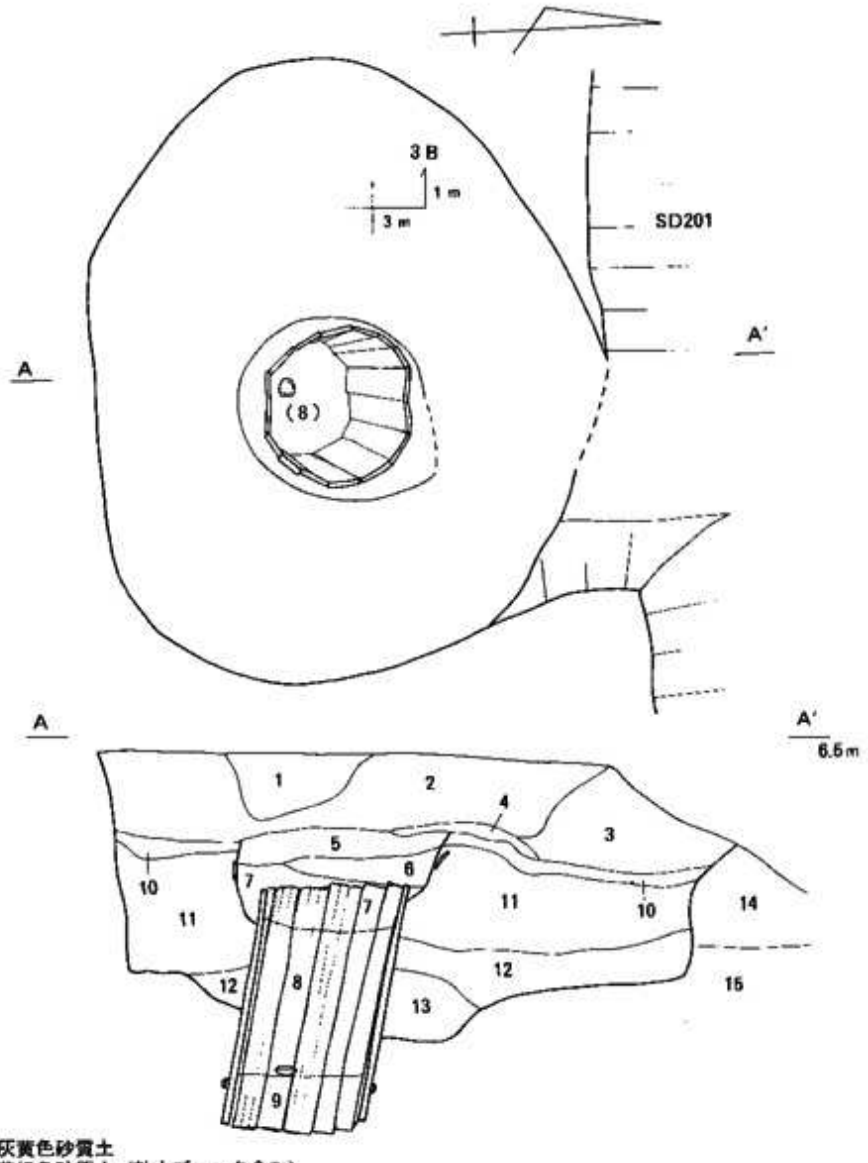
出土遺物には瓦器椀（8～10）がある。（8）は井戸枠内最下層上面の出土で、瓦器椀の最終形態のものと捉えられ、無高台である。（9・10）は掘形内出土である。時期は前者が15世紀初頭頃、後者が13世紀末頃にそれぞれ比定される。

SK201

調査区北部1B区で検出した。平面形はほぼ隅丸長方形を呈する。規模は長辺約2.6m・短辺約0.8m・深さ約7cmを測る。炭が充填しているが性格は不明である。

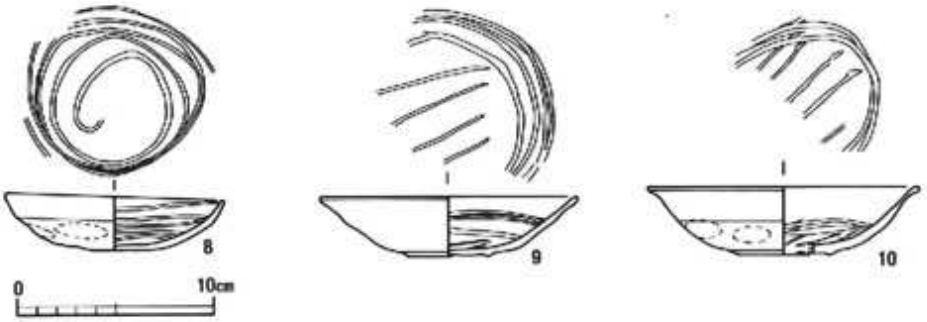
SK202

調査区南西角3C区で検出した土坑で、規模は一辺1.2m以上、深さ約0.5mを測る。調査区外に続き、平面形は不明である。埋土は上から灰黄色砂質土・暗灰黄色砂質土・淡褐灰色シルトで、最下層は固くしまっている。出土遺物は主に最下層からの土師器皿のみで、完形品・破片を多量に含んでいる（11～13）。遺物の出土状況から何らかの祭祀遺構の可能性がある。




1. 暗灰黄色砂質土
2. 灰黄褐色砂質土（粘土ブロック含む）
3. 黄灰色シルト混じり砂質土
4. 明黄灰色粘土
5. 灰色微砂混じり粘質土
6. 灰青色微砂混じり粘土（ブロック状）
7. 暗灰色微砂混じり粘土（ブロック状）
8. 灰青色シルト混じり粘土
9. 灰色砂礫
10. 淡黄灰色シルト
11. 灰青色粘土混じりシルト
12. 青灰色粘土混じりシルト
13. 暗青灰色粘土混じりシルト
14. 灰青色粘土
15. 灰青色粘質シルト

第8図　1区　ＳＥ201平・断面図（Ｓ＝１／30）



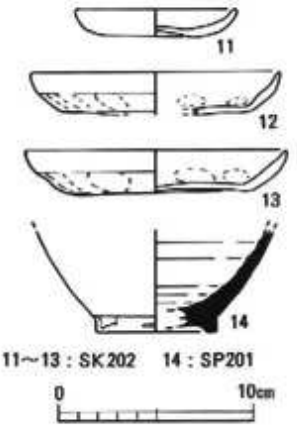

第9図　1区　SE201出土遺物（S＝1／4）

SD201

調査区の南部をほぼ東西方向に直線的に伸びる溝で、規模は幅2.0m～3.2m・深さ約0.7m・検出長12.2mを測り、調査区外に続いている。西部で幅が広くなっている。断面形状は皿状で、埋土は上から灰黄褐色砂質土・黄褐灰色砂質土・灰黄色粘土混じり砂質土・暗灰色粘土である。

平面での検出時はSE201と連続しており、断面観察でも切合い関係は認められなかった。有機的に関連していた可能性があり、出土遺物の時期は併行している。

出土遺物には土師器皿（15～17）、瓦器椀（18～20）、瓦器羽釜（21）、東播系須恵器（22・23）、土師器火鉢（24）、瓦（25・26）等があり、時期は13世紀末頃から15世紀代に比定される。




第10図　1区　第2次面
遺構出土遺物（S＝1／4）

SP201～209

SX201の西部に集中しており、礎石を包蔵するものもみられるが、建物を構成するような規則的な並びは認められなかった。SP201から白磁四耳壺の底部（14）が出土している。法量等は表2にまとめた。

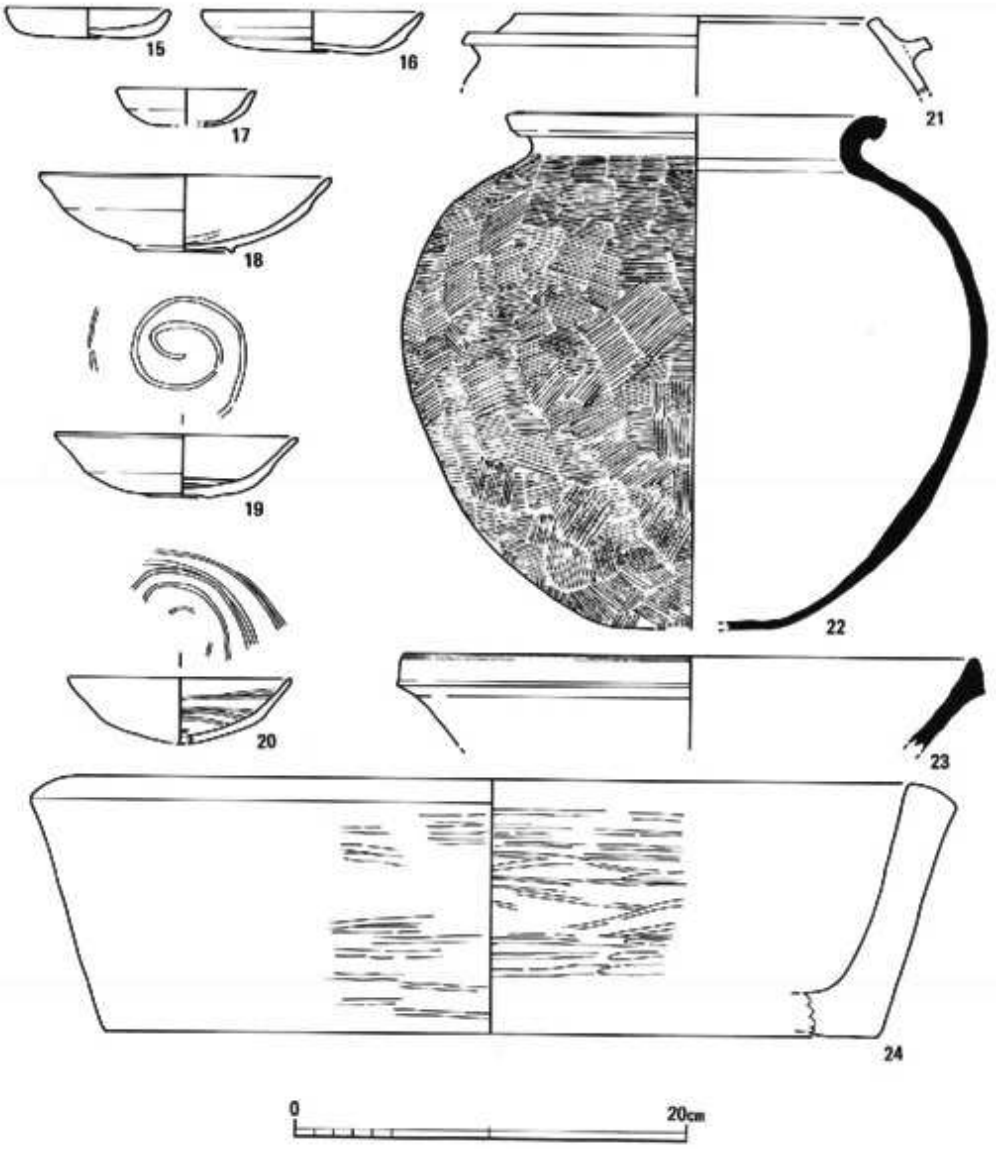
SX201

調査区東部2A～B区で検出した。平面形は方形を呈すると考えられ、規模は南北6.4m以上・東西5.8m以上を測る。西辺はSD101に、南辺はSD201によって削平されており、東辺は当遺構が調査区東壁にまで及んでいないことから側溝内に収まるものである。

遺存状態の良好な北辺をみると二段掘りになっており、肩から南へ約1.9mの所までが約35cmの深さに掘られ、ここからさらに南北約3.7m・東西約4.0mの方形に、約30cmの深さに掘ら

| | 地区 | 平面形状 | 長辺×短辺×深さ（cm） | 埋　土 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| SP 201 | 1A | 円形 | 35×32×18 | 暗灰青色粘質土 | (14) 出土 |
| SP 202 | 1C | 不整円形 | 27×25×8 | 暗褐色砂質土 | 礫石 |
| SP 203 | 1B | 楕円形 | 34×20×17 | 暗褐色炭混じり焼土 | |
| SP 204 | 2C | 楕円形 | 48×45×6 | 暗褐色砂質土 | |
| SP 205 | 2C | 円形 | 37×34×13 | 暗褐色砂質土 | |
| SP 206 | 2C | 円形 | 28×25×7 | 暗灰色砂質土 | |
| SP 207 | 2B | 円形 | 47×27×23 | 暗褐色砂質土 | |
| SP 208 | 2B | 円形 | 23×21×5 | 暗褐色砂質土 | 礫石 |
| SP 209 | 3B | 楕円形 | 60×－×19 | 暗褐色砂質土 | |

表2　第2次面ピット法量表

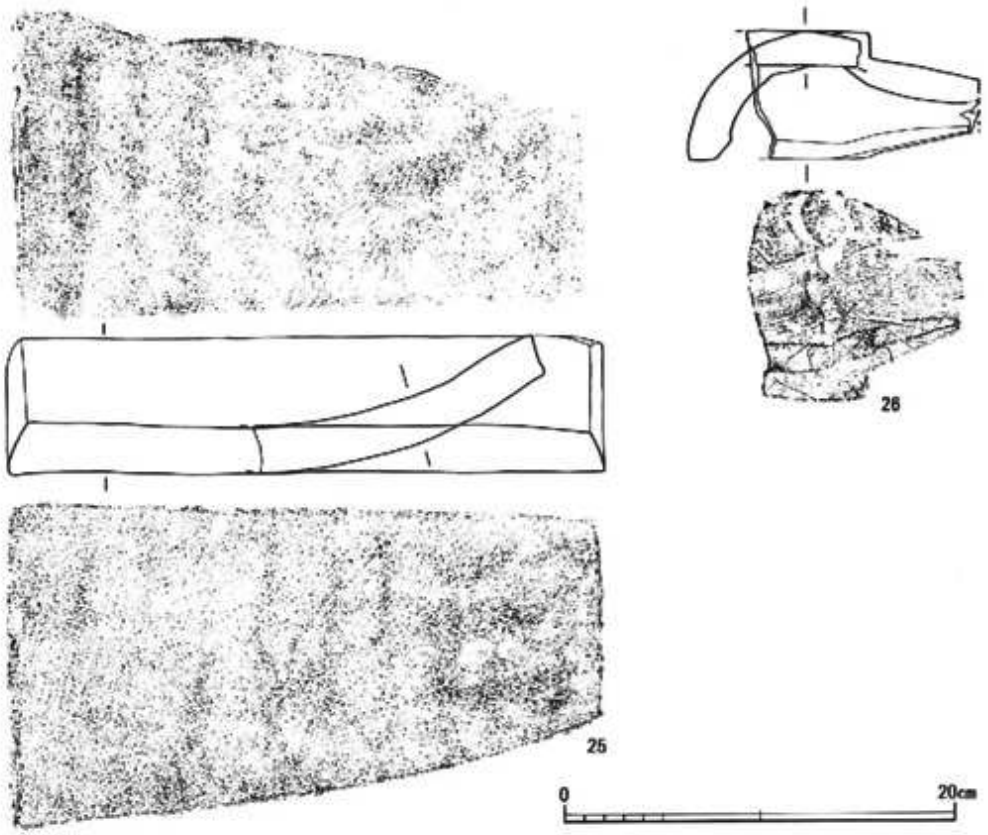



第11図　1区　SD201出土遺物①（S＝1／4）

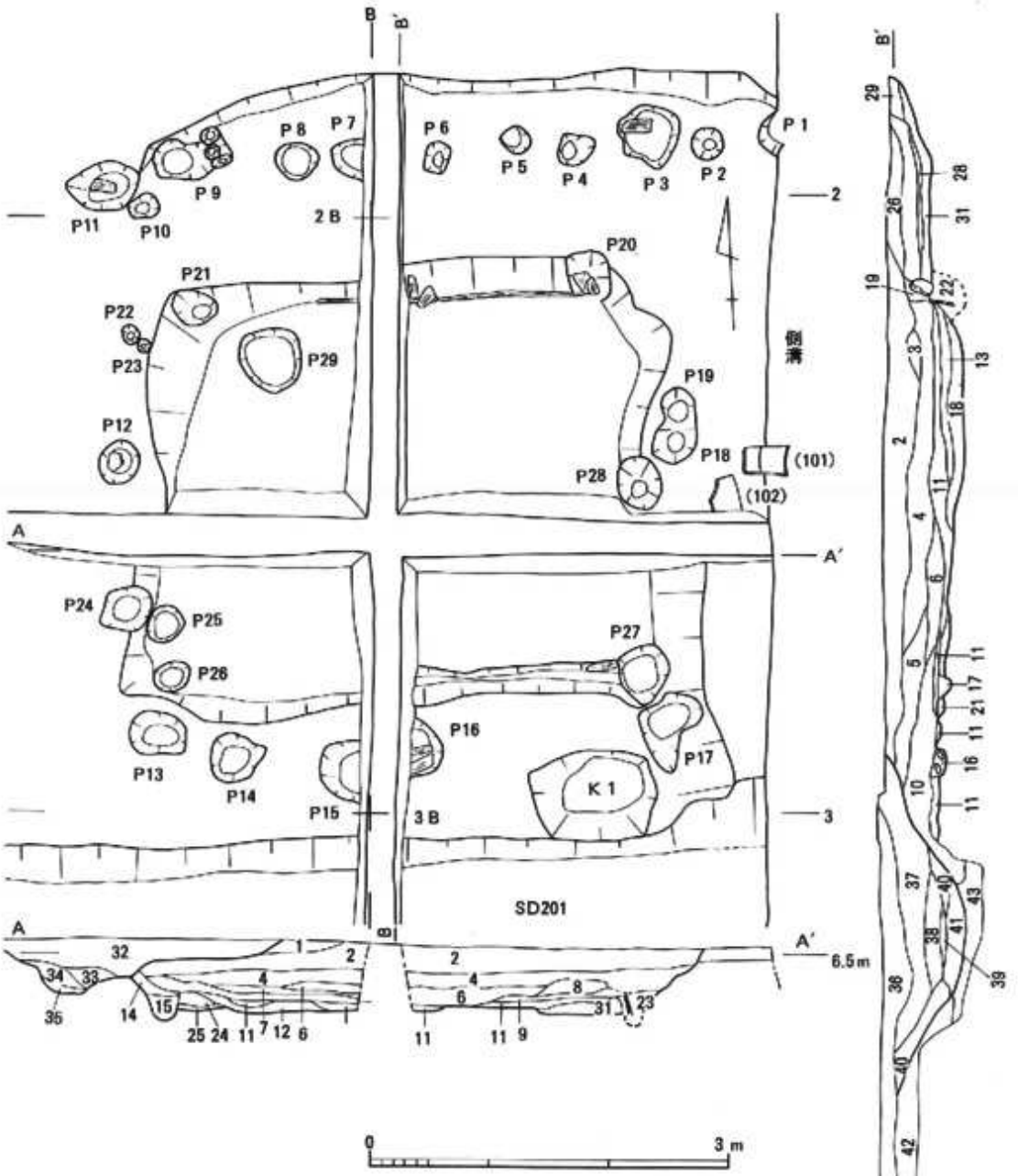
れている。この二段目の側面には長さ約2.3m・幅約17cm・厚さ約2.5cmの板が横位に立てられており、杭・石により支えられている。同様に東辺・南辺にも部分的に木質が遺存しており、また支えの杭の痕跡のピットもみられ、本来は板が全周していたものと考えられる。

埋土の状況をみると、下層にあたる二段目部分は、上から暗灰青色粘質シルト・褐青色粘質シルト（腐植土）で、滞水状態にあったことが推察される。遺物はほとんど含んでいない。この上は固くしまった暗黄褐色砂混じり粘質土で覆われており、二段目部分を塞いで整地が行われたと考えられる。同様の整地は一段目の底部にもみられる。この整地層より上層は、上から灰黄褐色砂質土・灰黄色細砂混じり粘質土で、多量の遺物のほか炭・焼土を含んでいる。また南部中央では層厚25cmにおよぶ炭・焼土層が存在する。

一段目の底部、すなわち二段目の外周面には19個のピット（P1～P19）が巡っており、このうち11個（P1～P11）は北辺に一列に並んでいる。二段目の肩際に位置するピット（P20～P29）のなかには、前述した板の支え杭の痕跡もあると思われる（P20には杭が遺存している）。これらのピットのなかには底部に礎石・礎板を施すものもみられる（礎石－P12・18、礎板－P3・11・16・19）。これらのピットは当遺構の上屋構造の存在を示唆するものと考え




第12図　1区　SD201出土遺物②（S＝1／4）




1. 褐灰色砂質土
2. 灰黄褐色砂質土（ブロック状）
3. 黄灰色砂質土
4. 暗灰青色砂質土（ブロック状）
5. 灰黄色粘土混じり砂質土
6. 灰色砂質土（炭含む）
7. 淡黄色砂質土（固く締まる）
8. 黄灰褐色砂質土
9. 灰色粘質土（炭・焼土含む）
10. 暗灰色焼土・炭
11. 明黄褐色粘質土～粘土（固く締まる）
12. 灰青色粘質シルト
13. 暗灰青色粘質シルト
14. 暗灰黄色砂質土（ブロック状）
15. 暗灰色粘質土（炭・植物遺体含む）
16. 淡灰色シルト
17. 暗灰色粘質土
18. 褐青色粘質シルト（腐食土）
19. 黄灰色砂質土
20. 淡灰黄色シルト
21. 黄灰色粘土（固く締まる）
22. 灰色砂混じり粘土
23. 灰黄色粘質シルト
24. 灰黄色粘質シルト
25. 青灰黄色粘質シルト
26. 黄灰褐色砂質土
27. 灰黄褐色砂質土
28. 黄灰色砂質土（固く締まる）
29. 灰黄色砂質土
30. 暗灰色砂質土（炭含む）
31. 青灰色粘土
32. 灰褐色砂質土
33. 灰褐色砂混じり粘質土　SD101
34. 灰黄褐色砂質土
35. 暗灰色粘質土
36. 灰黄色砂質土
37. 灰黄褐色砂質土
38. 黄褐灰色砂質土
39. 灰色粘土　SD201
40. 灰黄色粘土混じり砂質土
41. 暗灰色砂質土（炭含む）
42. 灰褐色砂質土
43. 淡灰青色粘土

第13図　1区　SX201平・断面図（S＝1／60）

られる。SD201によって削平されている遺構南部にも、北辺のピット列に平行するピット列があった可能性が高い。なおピット等の法量等は表3にまとめた。

また同一面南東部には長辺1.0m・短辺0.7m・深さ10cm～20cmの土坑（K1）がある。断面皿状で内部には炭が充填している。東端中央では完形品に近い平瓦が正位で2点検出されている（101・102）。側溝掘削の際にこの部分は掘削してしまったため断定はできないが、意図的に置かれていたような状況である。

当遺構の性格については、二段目部分は埋土堆積状況から水溜め等の機能が考えられる。そしてその機能停止後に固く整地され、炭・焼土が堆積するような施設、例えば炊事場等に利用されたと考えられる。これより上層からの出土遺物には細片が多く、最終的には廃棄坑として利用されたのかもしれない。

出土遺物（27～104）には瓦器・土師器・輸入陶磁器・国産陶器・瓦・木製品（櫛）などがある。時期は13世紀後半に比定されるものである。

瓦器皿（27～34）の暗文は、体部内面に渦巻き状、見込みにジグザグ状・平行・無文というもの（27～31）と、暗文を施さないもの（32～34）がある。

瓦器椀（35～45）は体部内面に粗い渦巻き状、見込みに平行あるいは螺旋状の暗文を施す。

土師器皿は小皿（46～70）と大皿（71～76）がある。小皿は口縁部を内側に折り込む（70）を除いて、若干の個体差はあるものの全て同種類のものと捉えられる。なお（69）のみ焼成が異なるのか灰黒色を呈する。これに比して大皿には形態的に数種類が認められる。

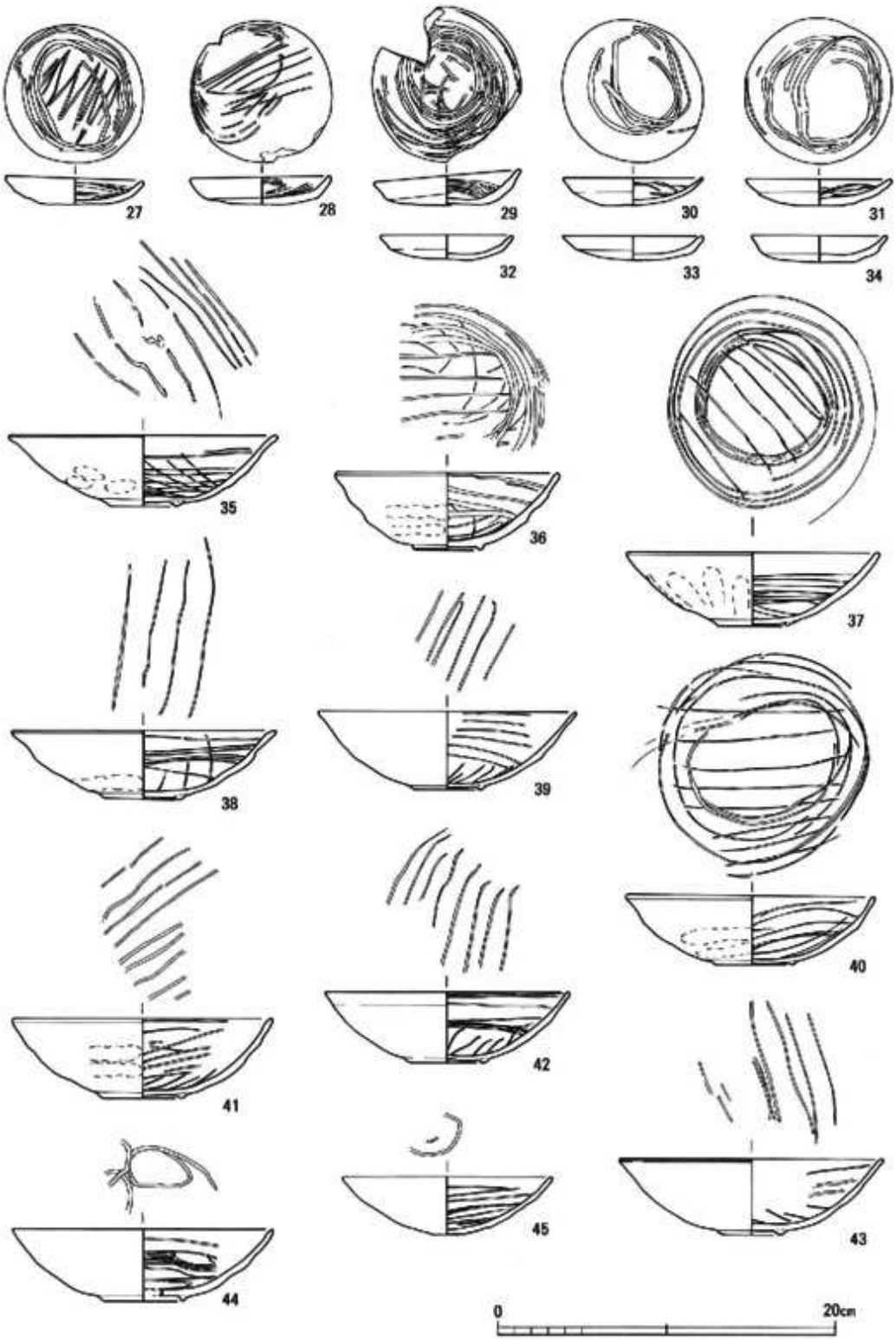
（77）は形態的にいわゆる山城型の瓦器鍋で、13世紀後半に編年されるものに類似する。

（81～84）は中国製白磁である。（83・84）は四耳壺で、二次焼成を受けている。（85）は龍泉窯系青磁皿、（86・87）は同安窯系青磁椀で、太宰府では12世紀後半以降に出土するものである。

（88）は体部外面に連続スタンプ文が認められる特徴から常滑焼と考えられるが断定はできない。形態的には渥美窯のものに類例が認められる。（89・90）は東播系須恵器鉢である。

（91）の柄付き櫛の形態は、広島県草戸千軒町遺跡出土の馬櫛に類似している。[註2] 片面は焼けて炭化している。（92）はP3の礎板である。転用材と考えられる。

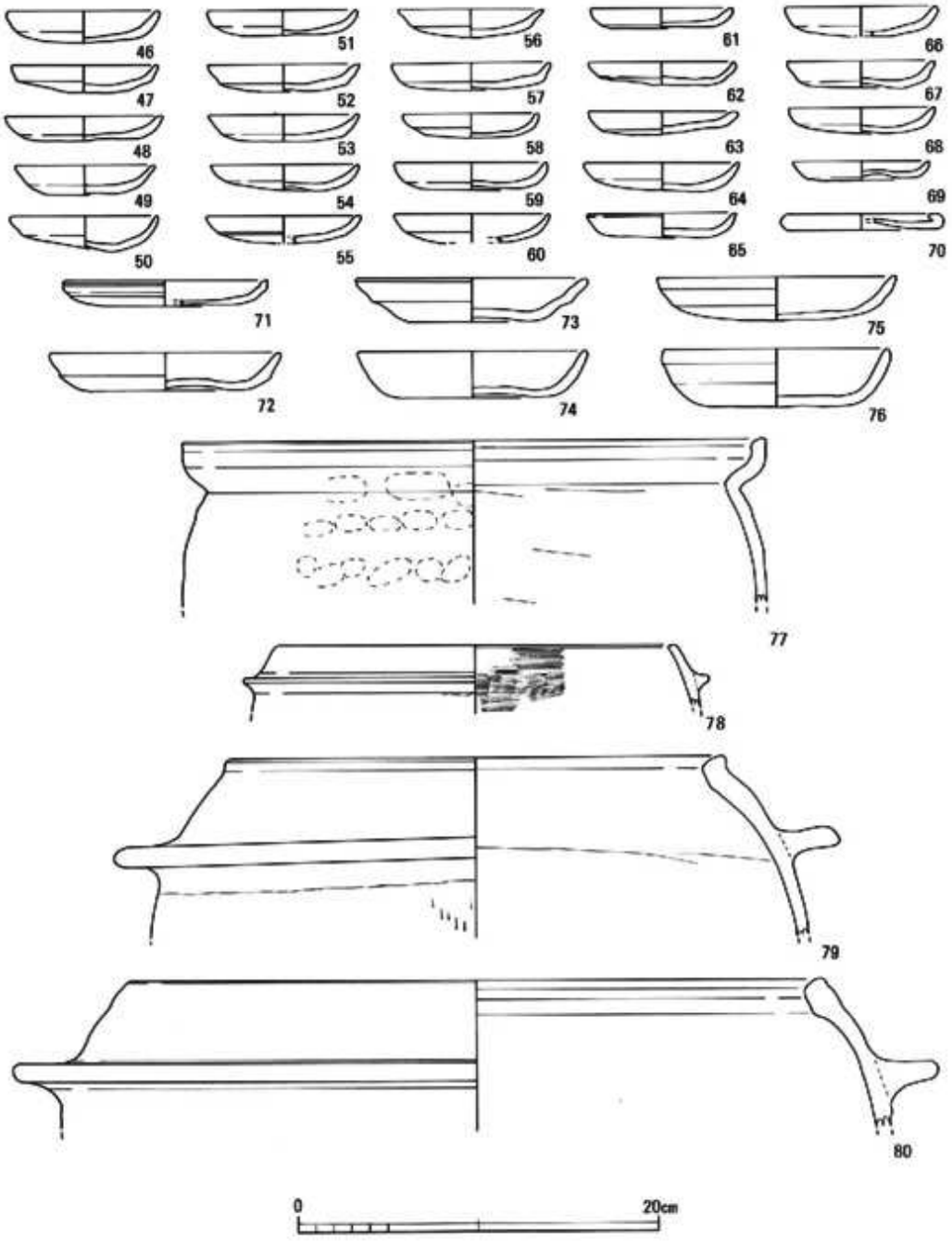
（93）は複弁八葉蓮華文軒丸瓦である。法量は直径13.8cm・厚さ2.5cm・内区径11.5cm・中房径4.5cm～4.8cm・外縁幅0.9cm～1.3cm・外縁高0.7cmを測る。花弁は独立し、子葉は2本の凸線で表現され、隆起した平坦な中房に1＋6の蓮子を配する。瓦当面のほぼ半分の範囲には、笵の板目あるいはハケ目状の工具痕が認められ、そのためか蓮子は不明瞭になっている。瓦当裏面のナデは雑なもので、部分的に粘土の継目が残っている。全体的に丁寧な製作とはいえない。当遺跡内での出土例はなく、大阪府の堺市と美原町にまたがる日置荘遺跡に類例が認められる



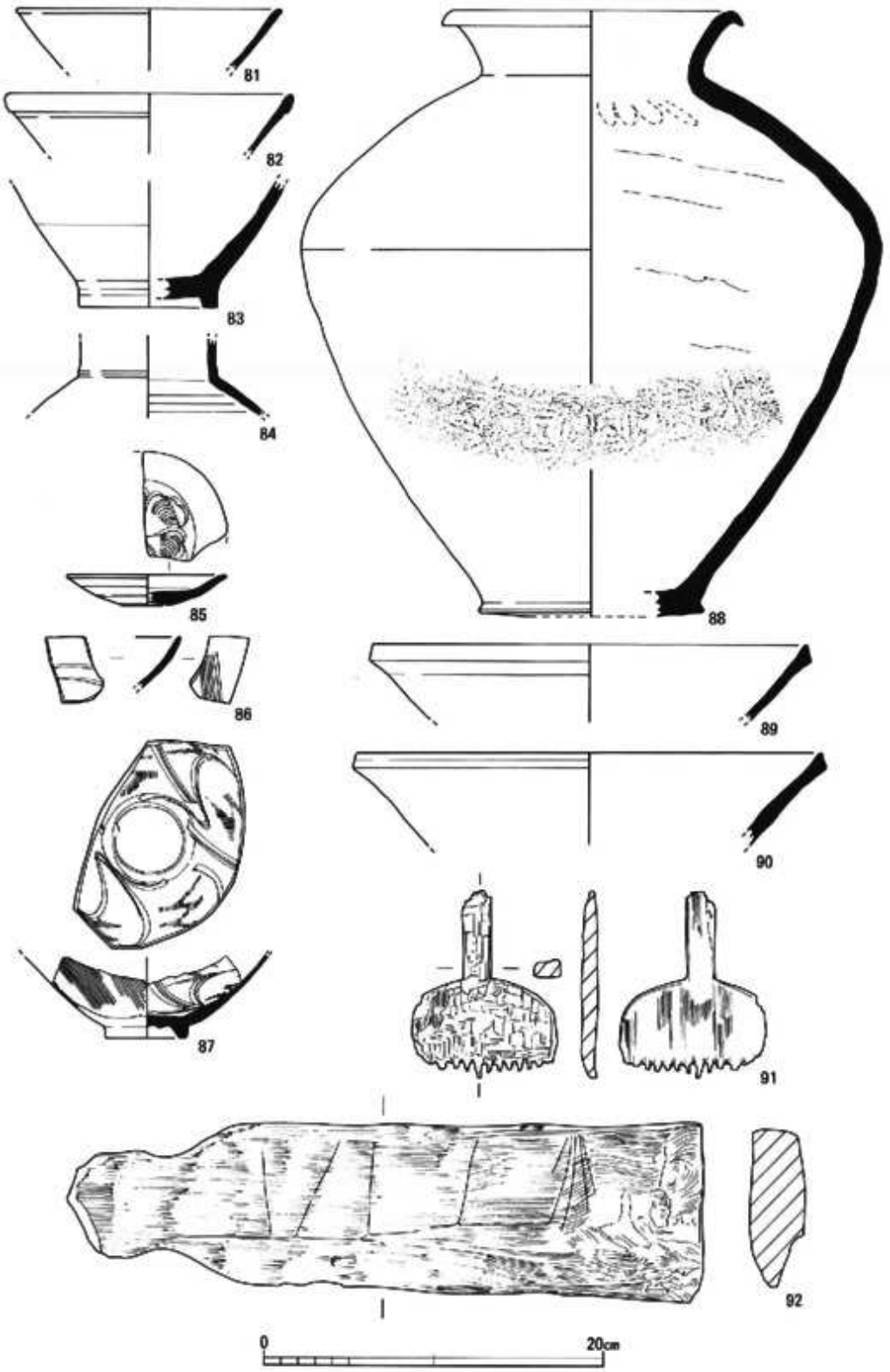

第14図　1区　SX201出土遺物①（S＝1／4）

が、蓮子数は1＋5となっている。

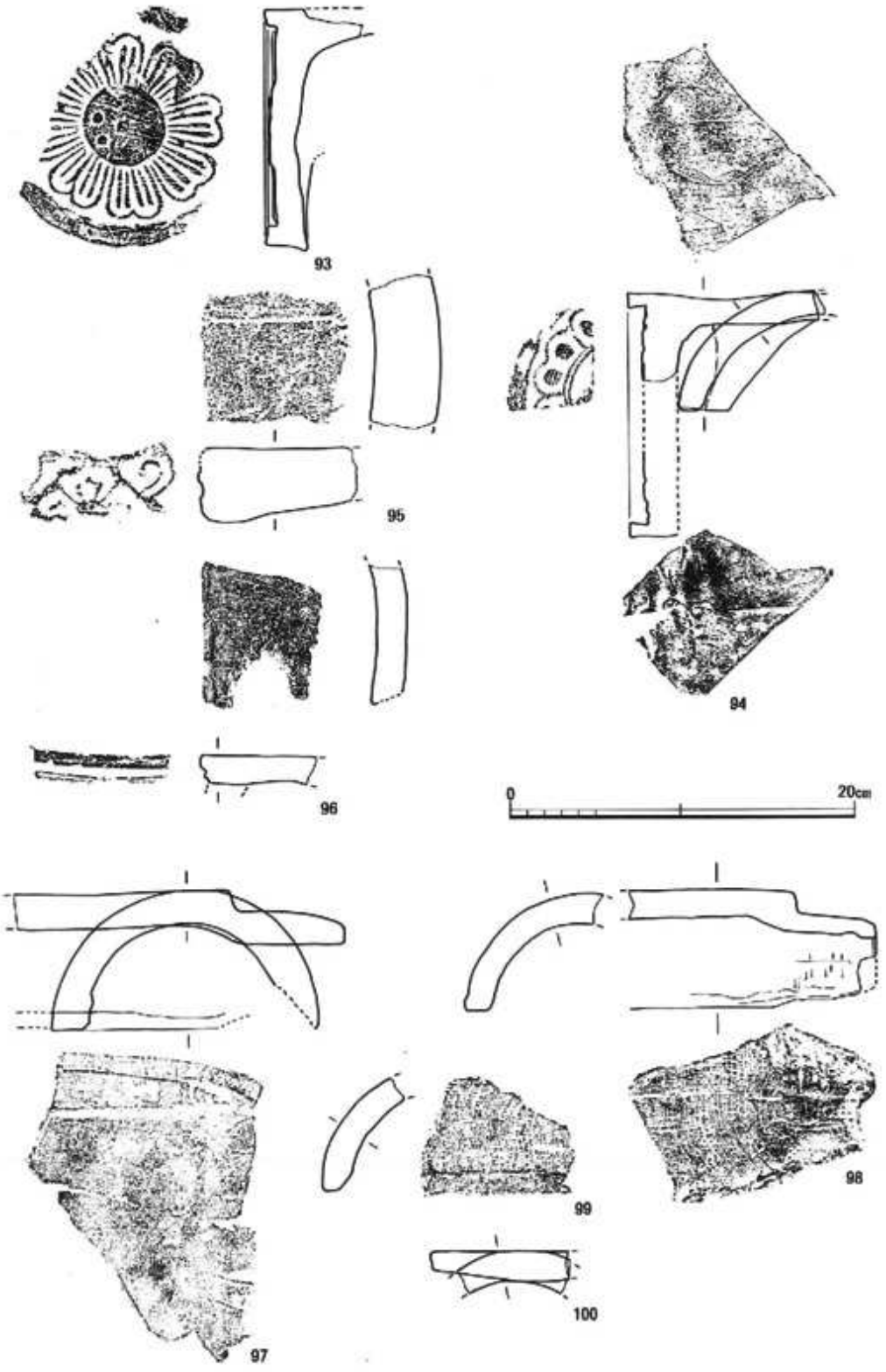
(94) 複弁八葉蓮華文軒丸瓦・(95) 花菱文軒平瓦は既往の調査で出土したものと同意匠のもので、平安時代後期に比定されている。(95) は蹄顎で、外縁は欠損している。(96) 軒平瓦は顎部が欠落しているのであろう。



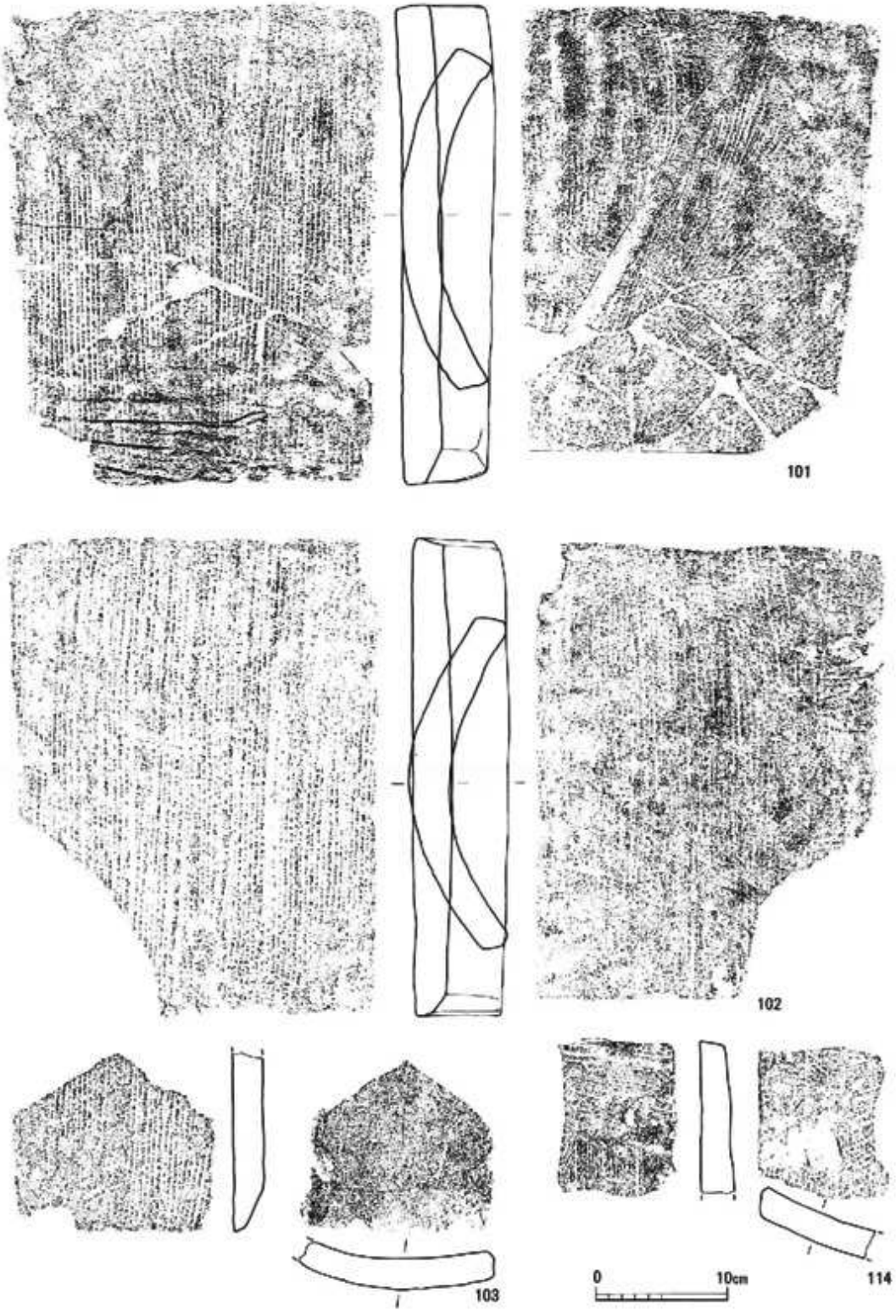

第15図　1区　SX201出土遺物②（S＝1／4）




第16図　1区　SX201出土遺物③（S＝1／4）




第17図　1区　SX201出土遺物④（S＝1／4）




第18図　1区　SX201出土遺物⑤（S＝1／5）

(102)の平瓦は、胎土中に大和型と考えられる瓦器椀の口縁部を含んでいる。今回の調査では大和型瓦器椀は一点も出土しておらず、瓦の生産地を知る上で重要な手がかりになるものであろう。

| | 平面形状 | 長辺×短辺×深さ(cm) | 埋土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 不明 | 40×20以上×20 | | |
| P2 | 円形 | 27×27×44 | | |
| P3 | 不整形 | 54×52×25 | 灰褐色砂混じり粘質土 | 礎板 |
| P4 | 不整形 | 30×26×38 | | |
| P5 | 円形 | 24×20×39 | | |
| P6 | 楕円形 | 27×20×27 | | |
| P7 | 不明 | 34×26以上×25 | 淡灰色砂混じり粘質土 | |
| P8 | 円形 | 36×30×17 | 灰青色砂混じり粘土 | |
| P9 | 不整形 | 64×32×30 | | |
| P10 | 不整形 | 28×20×9 | | |
| P11 | 楕円形 | 62×41×38 | 灰青色砂混じり粘質土 | 礎板 |
| P12 | 円形 | 39×34×21 | 灰青色砂混じり粘質土 | 礎石 |
| P13 | 楕円形 | 47×37×16 | 褐灰色砂混じり粘質土(炭) | |
| P14 | 円形 | 46×41×6 | 褐灰色砂混じり粘質土(炭) | |
| P15 | 不明 | 52×33以上×10 | | |
| P16 | 不明 | 50×28以上×5 | 淡灰色シルト | 礎板 |
| P17 | 不整形 | 66×54×10 | | |
| P18 | 円形 | 36×32×21 | | 礎石 |
| P19 | 円形 | 33×29×15 | | 礎板 |
| P20 | 不整形 | 42×35×15 | | 杭 |
| P21 | 不整形 | 37×28×26 | | |
| P22 | 円形 | 15×14×12 | | |
| P23 | 円形 | 12×11×5 | | |
| P24 | 円形 | 46×38×6 | 暗褐色焼土(炭) | |
| P25 | 円形 | 32×29×10 | 褐灰色砂混じり粘質土(炭) | |
| P26 | 円形 | 29×24×15 | 褐灰色砂混じり粘質土(炭) | |
| P27 | 不整形 | 53×42×35 | | |
| P28 | 楕円形 | 46×35×29 | | |
| P29 | 円形 | 54×50×6 | | |

表3　SX201ピット法量表

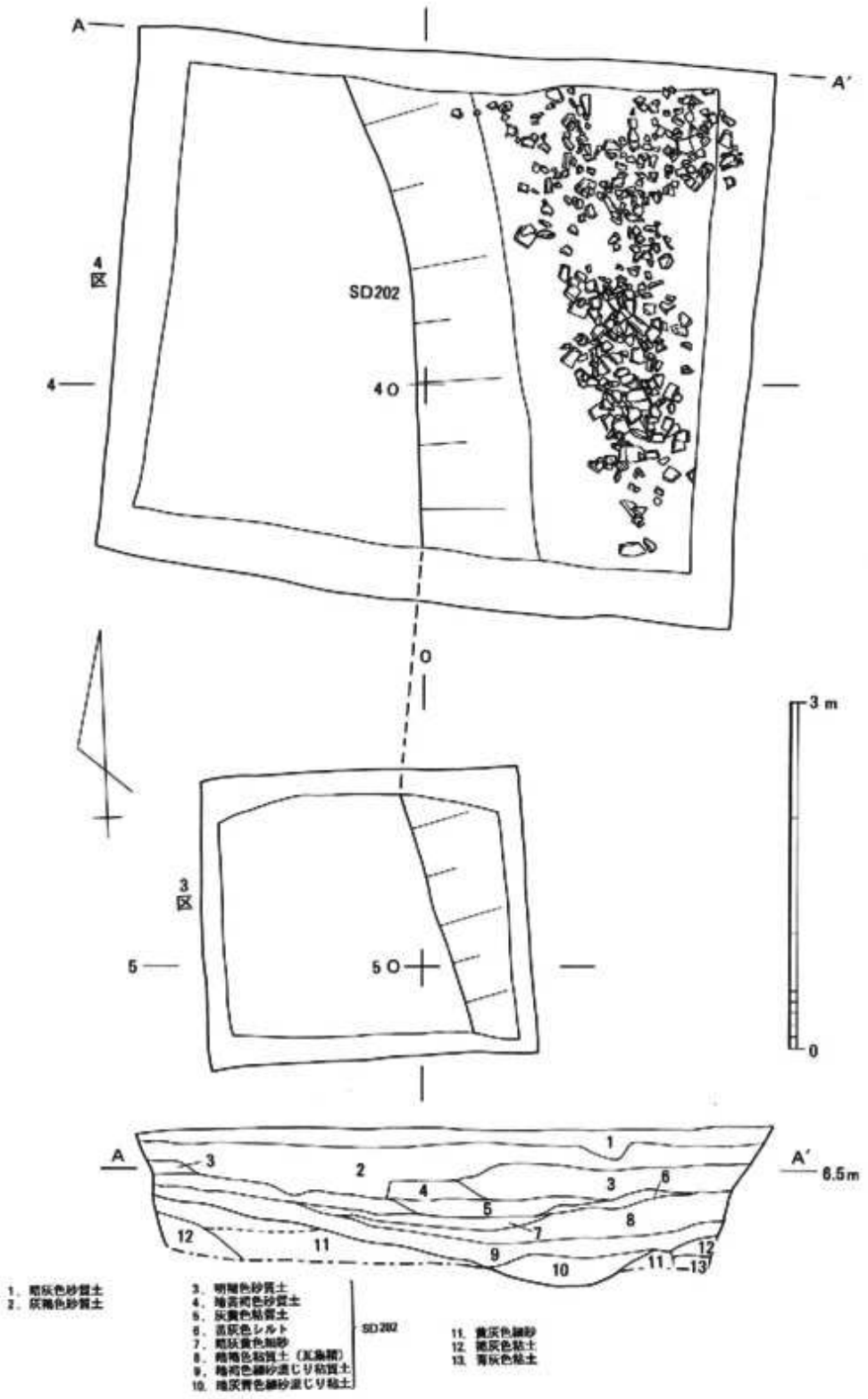
〈3・4区〉

溝1条(SD202)を検出した。

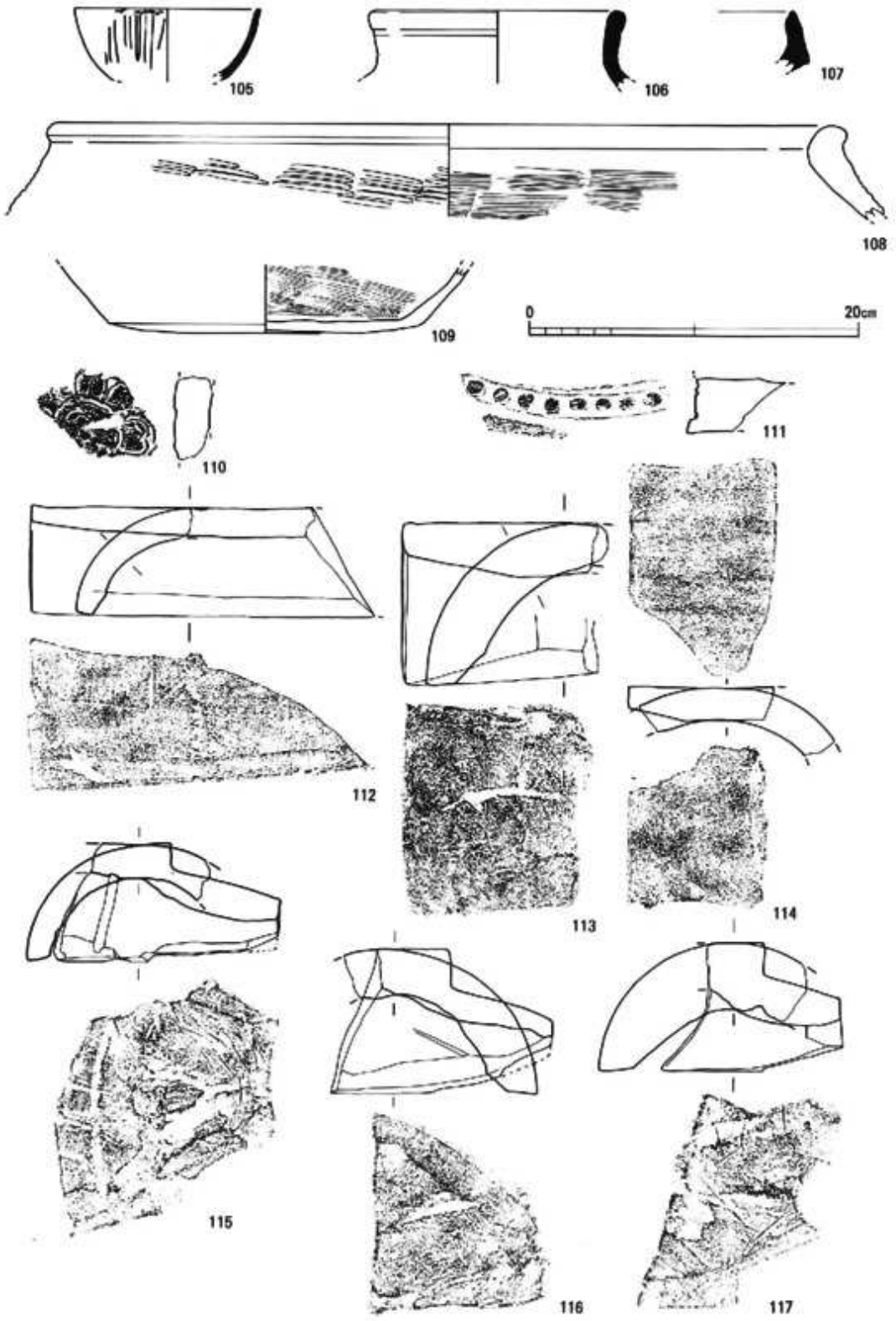
SD202

南北方向の溝と考えられ、長さ約8.5mにわたって検出した。幅は不明で、深さ約1.0mを測り、黄灰色細砂をベースとしている。溝の東肩から中央部にかけて、底から40cm～80cmにあたる暗褐色粘質土中に多量の瓦片が含まれており、瓦集積を形成している。瓦は全て破片で、多くは二次焼成を受けて赤変している。また焼土・焼壁も含まれている。

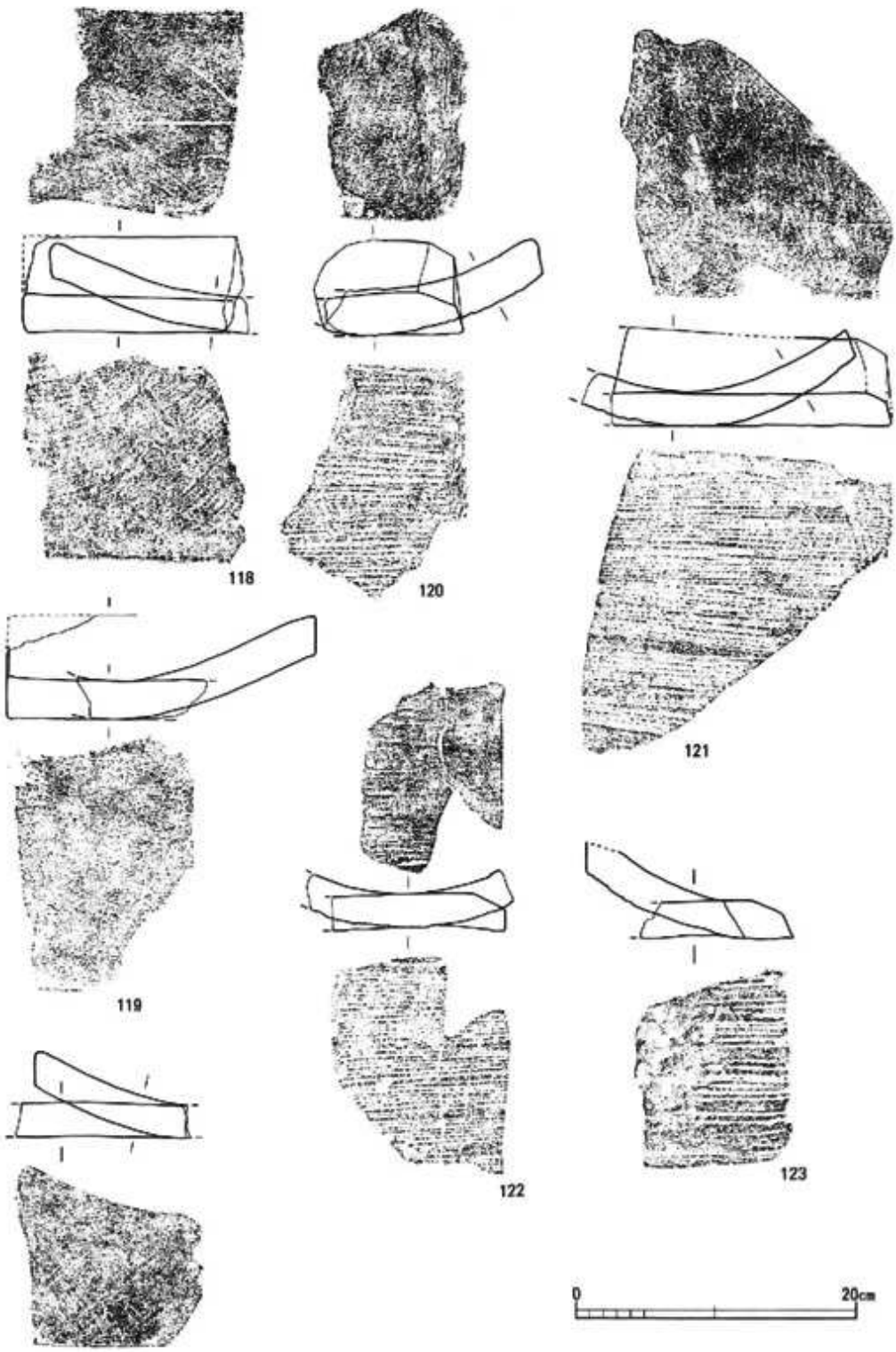
この瓦集積の性格については、出土状況から、火災を受けた建物の廃材を東側より当溝に投棄したものと考えられる。




第19図　3・4区　平・断面図（S＝1／60）




第20図　4区　SD202出土遺物①（S＝1／4）

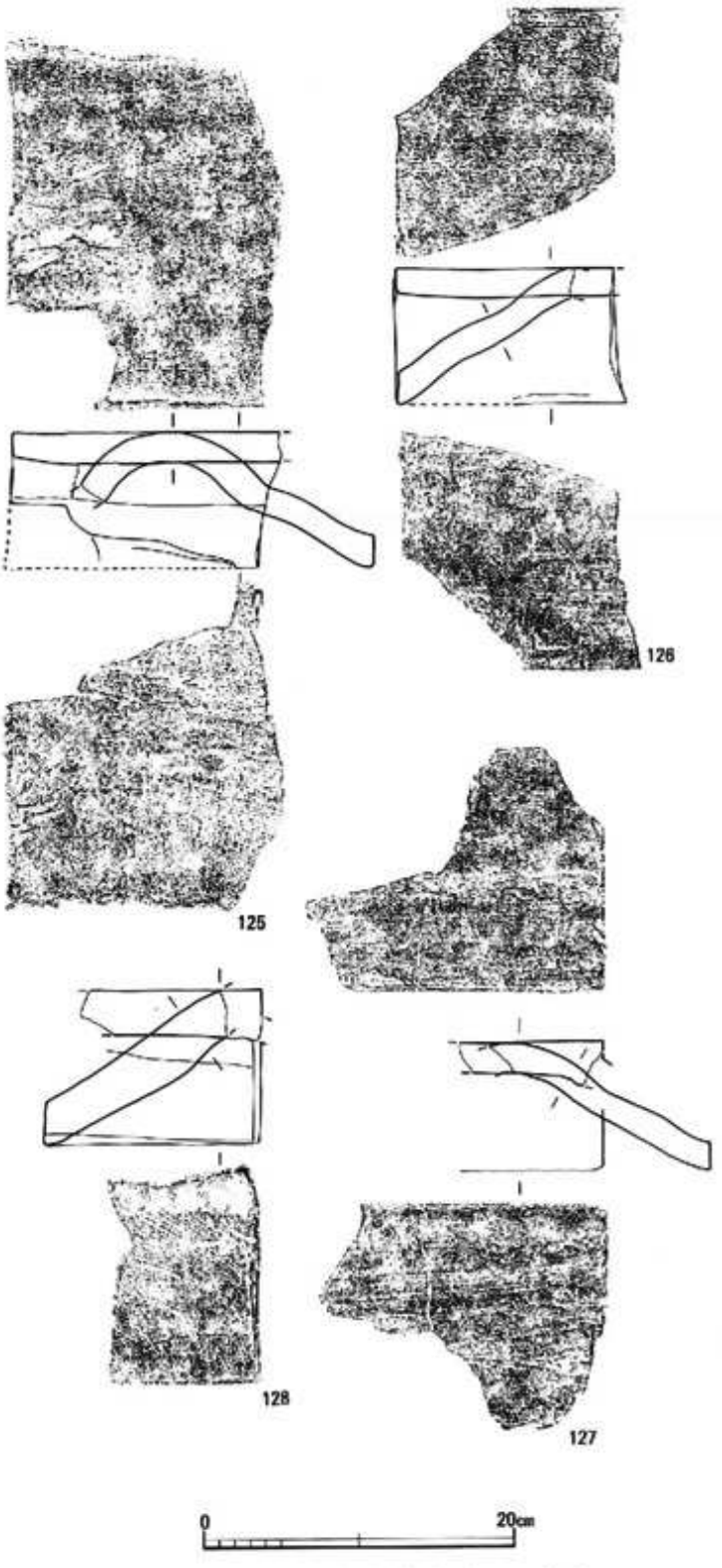



第21図　4区　ＳＤ202出土遺物②（Ｓ＝1／5）

他に中国製青磁椀（105）・備前焼（106・107）・瓦器（108・109）が出土しており、これらの時期は15世紀後半から16世紀前半と考えられる。

出土した瓦片の総数は993点を数え、内訳は平瓦791点（79.7%）・丸瓦196点（19.7%）・雁振り瓦４点（0.4%）・軒丸瓦１点（0.1%）・軒平瓦１点（0.1%）である。このうち656点（66.0%）が二次焼成を受けているようである。

軒丸瓦（110）は複弁あるいは単弁八葉蓮華文で、法量的にみて外区部分が欠落しており、内区部分のみであると考えられる。花弁は独立し、子葉を区画する輪郭は認められない。一部に子葉が凸線で分割される部分も認められるが、笵割れに起因する凸線かもしれない。蓮子は１＋４と考えられる。当遺跡内での出土例はない。（111）は連珠文軒平瓦で顎部のみの出土である。既往の調査で通例にみられるものである。




第22図　４区　ＳＤ202出土遺物③（Ｓ＝１／５）

平瓦の調整は、凸面に平行縄目タタキ・離れ砂、凹面に糸切り痕と思われるハケ状痕あるいは布目というものである。(118・124) は凸面に格子タタキを施している。

雁振り瓦は、薄目で中央部が段を成して隆起するもの (125～127) と、厚目で側部から直線的に頂部に至るもの (128) がある。焼成は前者が良好、後者が不良である。既往の調査では後者の形態が出土している。

# 第3章　出土遺物観察表

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm)<br>(復元値) | 口径<br>器高 | 色調 外<br>内 | 胎土 | 焼成 | 技法・形態等の特徴 | 残存<br>備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 磨滅<br>皿 | SE101 | 高台径 | (13.7)<br>3.5<br>(4.0) | 茶灰色 | 密 | 良好 | 回転ヘラケズリ。粘土目。高台部脆。 | 極小<br>反転 |
| 2 | 瓦器<br>鉢 | 1区<br>第2・3<br>層 | | (20.8) | 淡灰色 | 密 | 良好 | 内外面暗文。 | 極小<br>反転 |
| 3 | 瓦器<br>羽釜 | 1区<br>第2・3<br>層 | | (18.0) | 灰色 | 密 | 良好 | 外面回転ナデ。内面ハケ。 | 1／8<br>反転 |
| 4 | 常滑<br>甕 | SD101 | | | 灰色 | 密（1.5㎜以下の砂粒を含む） | 良好 | ヨコナデ。 | 極小 |
| 5 | 土師器<br>皿 | SD101 | | 8.6<br>1.2 | 淡灰茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 1／2 |
| 6 | 瓦器<br>椀 | SD101 | 高台径 | (14.8)<br>3.3<br>4.0 | 淡灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部外面ユビオサエ、内面ナデ。内面渦巻き状暗文。 | 1／3<br>反転 |
| 7 | 土師器<br>羽釜 | 1区<br>第2・3<br>層 | 鍔径 | (30.2)<br>(43.2) | 灰色 | 密（1.5㎜以下の砂粒を含む） | 良好 | ナデ。 | 極小<br>反転 |
| 8<br>7 | 瓦器<br>椀 | SE201<br>井戸枠内 | | 11.2<br>2.85 | 暗灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部外面ユビオサエ、内面ナデ。底部外面ナデ。 | ほぼ完形 |
| 9 | 瓦器<br>椀 | SE201<br>撹乱 | 高台径 | (13.15)<br>3.05<br>(4.8) | 暗灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底体部ナデ。内面平行→渦巻き状暗文。 | 1／2<br>一部反転 |
| 10 | 瓦器<br>椀 | SE201<br>撹乱 | 高台径 | (13.9)<br>3.5<br>(5.1) | 暗灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底体部外面ユビオサエ、内面ナデ。内面平行→渦巻き状暗文。 | 1／4<br>反転 |
| 11<br>7 | 土師器<br>皿 | SK202 | | (8.35)<br>1.5 | 淡茶灰色 | 密（0.5㎜～1㎜の砂粒を含む） | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 完形 |
| 12 | 土師器<br>皿 | SK202 | | (12.9)<br>2.3 | 淡茶灰色 | 密（0.5㎜以下の砂粒を含む） | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部外面ユビオサエ。底部ナデ。 | 1／4<br>反転 |
| 13<br>7 | 土師器<br>皿 | SK202 | | 13.5<br>2.3 | 淡茶灰色 | 密（0.5㎜～1㎜の砂粒を含む） | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部外面ユビオサエ。底部ナデ。 | ほぼ完形 |
| 14 | 白磁<br>四耳壺 | SP201 | 高台径<br>高台高 | (6.3)<br>0.8 | 乳灰緑色 | 密 | 良好 | 高台部露胎。 | 極小<br>反転 |

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm)<br>(復元値) | 口径<br>器高 | 色調 外<br>内 | 胎土 | 焼成 | 技法・形態等の特徴 | 残存<br>備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 土師器<br>皿 | SD201 | | (8.4)<br>1.5 | 淡灰茶色 | 密（0.5㎜～1㎜の砂粒を含む） | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 1／3<br>反転 |
| 16<br>7 | 土師器<br>皿 | SD201 | | 11.45<br>2.2 | 茶灰色 | | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | ほぼ完形 |
| 17 | 土師器<br>皿 | SD201 | | (7.2) | 乳灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 1／4<br>反転 |
| 18 | 瓦器<br>椀 | SD201 | 高台径 | (14.9)<br>3.9<br>(5.0) | 黒灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。胴体部外面ナデ。高台部ヨコナデ。内面暗文。 | 1／6<br>反転 |
| 19 | 瓦器<br>椀 | SD201 | | (12.45)<br>3.2<br>3.2 | 黒灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底体部ナデ。内面渦巻き状暗文。 | 3／5<br>一部反転 |
| 20 | 瓦器<br>椀 | SD201 | | (11.6) | 淡灰色 | 密（0.5㎜以下の砂粒を含む） | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底体部ナデ。内面渦巻き状暗文。 | 1／4<br>反転 |
| 21 | 瓦器<br>羽釜 | SD201 | | (18.5) | 黒灰色 | 密 | 良好 | 口縁部～胴回転ナデ。体部ナデ。 | 1／6<br>反転 |
| 22<br>9 | 東播系須恵器<br>壺 | SD201 | | (19.4) | 黒灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部外面平行タタキ、内面ナデ。<br>体部最大径（30.0） | 1／2<br>反転 |
| 23 | 東播系須恵器<br>鉢 | SD201 | | (29.4) | 灰青色 | 密 | 良好 | 回転ナデ。 | 極小<br>反転 |
| 24 | 瓦器<br>火鉢 | SD201 | 底径 | (42.7)<br>39.2 | 黒紫色 | 密（0.5㎜～2㎜の砂粒を含む） | 良好 | 内外面ヘラミガキ。底部外面磨れ砂。 | 1／10<br>反転 |
| 25 | 平瓦 | SD201 | 長辺<br>高さ<br>厚さ | 30.7<br>7.0<br>2.4 | 黒灰色 | 密 | 良好 | 凹面－縦方向板状工具痕。狭端部ヨコナデ。離れ砂。凸面－斜方向工具痕。離れ砂。側面－ナデ。 | 1／2 |
| 26 | 丸瓦 | SD201 | 高さ<br>厚さ | 6.6<br>1.8 | 淡灰色 | やや粗 | 良好 | 凹面－布目、縄目。凸面－平行タタキをナデ消す。側面－ナデ。 | 極小 |
| 27<br>7 | 瓦器<br>皿 | SX201 | | 8.2<br>1.6 | 暗灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。内面ジグザグ＋渦巻き状暗文。 | 完形 |
| 28<br>7 | 瓦器<br>皿 | SX201 | | 8.4<br>1.6 | 明灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。内面平行＋渦巻き状暗文。 | ほぼ完形 |
| 29<br>7 | 瓦器<br>皿 | SX201 | | 8.75<br>1.9 | 暗灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。内面渦巻き状暗文。 | 7／8 |
| 30<br>8 | 瓦器<br>皿 | SX201 | | 8.4<br>1.7 | 淡灰黒色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。内面渦巻き状暗文。 | 完形 |
| 31<br>8 | 瓦器<br>皿 | SX201 | | 8.75<br>1.6 | 暗灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。内面渦巻き状暗文。 | ほぼ完形 |
| 32 | 瓦器<br>皿 | SX201 | | 7.9<br>1.5 | 淡灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | ほぼ完形 |
| 33 | 瓦器<br>皿 | SX201 | | 8.3<br>1.5 | 淡灰黒色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 9／10 |
| 34<br>7 | 瓦器<br>皿 | SX201 | | 8.2<br>1.6 | 淡黒灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 完形 |
| 35 | 瓦器<br>椀 | SX201 | 高台径 | (16.1)<br>4.2<br>5.8 | 暗灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部外面ユビオサエ、内面ナデ。内面平行＋渦巻き状暗文。<br>高台高 0.3 | 1／2<br>一部反転 |
| 36 | 瓦器<br>椀 | SX201 | 高台径 | (13.5)<br>4.6<br>4.3 | 暗灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部外面ユビオサエ、内面ナデ。内面平行＋渦巻き状暗文。<br>高台高 0.3 | 1／2<br>一部反転 |
| 37<br>8 | 瓦器<br>椀 | SX201 | 高台径 | 15.1<br>4.4<br>5.4 | 暗灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部外面ユビオサエ、内面ナデ。内面平行＋渦巻き状暗文。<br>高台高 0.3 | ほぼ完形 |

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm)<br>(復元値) | 口径<br>器高 | 色調 外<br>内 | 胎土 | 焼成 | 技法・形態等の特徴 | 残存<br>備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 38 | 瓦器<br>椀 | S X201 | 高台径 | (15.8)<br>4.1<br>5.6 | 暗灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部外面ユビオサエ、内面ナデ。内面平行＋渦巻き状暗文。<br>高台高 0.3 | 1／2<br>一部反転 |
| 39 | 瓦器<br>椀 | S X201 | 高台径 | (15.5)<br>4.6<br>(4.3) | 淡灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面平行＋渦巻き状暗文。<br>高台高 0.3 | 1／4<br>反転 |
| 40<br>8 | 瓦器<br>椀 | S X201 | 高台径 | 14.9<br>4.2<br>6.0 | 暗灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部外面ユビオサエ、内面ナデ。内面平行＋渦巻き状暗文。<br>高台高 0.3 | 完形 |
| 41 | 瓦器<br>椀 | S X201 | 高台径 | (15.6)<br>4.7<br>5.5 | 明灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部外面ユビオサエ、内面ナデ。内面平行＋渦巻き状暗文。<br>高台高 0.3 | 1／3<br>一部反転 |
| 42 | 瓦器<br>椀 | S X201 | 高台径 | (14.7)<br>4.2<br>(4.8) | 淡黒灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面平行＋渦巻き状暗文。<br>高台高 0.3 | 1／2<br>反転 |
| 43 | 瓦器<br>椀 | S X201 | 高台径 | (15.8)<br>4.5<br>(3.9) | 淡灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面平行＋渦巻き状暗文。<br>高台高 0.3 | 1／4<br>反転 |
| 44<br>8 | 瓦器<br>椀 | S X201 | 高台径 | (15.6)<br>4.3<br>(4.8) | 黒灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面螺旋状＋渦巻き状暗文。<br>高台高 0.35 | 1／4<br>反転 |
| 45<br>8 | 瓦器<br>椀 | S X201 | 高台径 | (12.6)<br>3.4<br>(2.0) | 淡灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面螺旋状＋渦巻き状暗文。<br>高台高 0.2 | 1／4<br>反転 |
| 46 | 土師器<br>皿 | S X201 | | 8.6<br>1.8 | 淡灰茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | ほぼ完形 |
| 47 | 土師器<br>皿 | S X201 | | 8.25<br>1.6 | 乳茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 3／4 |
| 48<br>9 | 土師器<br>皿 | S X201 | | 8.8<br>1.4 | 淡茶灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | ほぼ完形 |
| 49 | 土師器<br>皿 | S X201 | | (7.8)<br>1.6 | 白茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 2／3<br>反転 |
| 50<br>9 | 土師器<br>皿 | S X201 | | 8.3<br>2.0 | 淡灰茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 9／10 |
| 51<br>9 | 土師器<br>皿 | S X201 | | 8.4<br>1.4 | 淡茶灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | ほぼ完形 |
| 52 | 土師器<br>皿 | S X201 | | (8.6)<br>1.5 | 乳茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 1／2<br>反転 |
| 53 | 土師器<br>皿 | S X201 | | (8.4)<br>1.5 | 乳茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 2／3<br>反転 |
| 54<br>9 | 土師器<br>皿 | S X201 | | 8.3<br>1.5 | 淡茶灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 完形 |
| 55 | 土師器<br>皿 | S X201 | | 8.6<br>1.6 | 淡茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 1／2<br>反転 |
| 56 | 土師器<br>皿 | S X201 | | 8.2<br>1.6 | 乳茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 1／2<br>反転 |
| 57 | 土師器<br>皿 | S X201 | | 9.0<br>1.5 | 淡茶灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 1／2<br>反転 |
| 58 | 土師器<br>皿 | S X201 | | 7.7<br>1.4 | 乳茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 完形 |
| 59 | 土師器<br>皿 | S X201 | | (8.6)<br>1.45 | 淡茶灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 1／2<br>反転 |
| 60 | 土師器<br>皿 | S X201 | | (8.8)<br>1.6 | 淡茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 1／3<br>反転 |

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm)<br>(復元値) | 口径<br>器高 | 色調 外<br>内 | 胎土 | 焼成 | 技法・形態等の特徴 | 残存<br>備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 61 | 土師器<br>皿 | SX201 | | (8.0)<br>1.1 | 乳茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 1／2<br>反転 |
| 62 | 土師器<br>皿 | SX201 | | 8.3<br>1.4 | 淡茶灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 2／3 |
| 63 | 土師器<br>皿 | SX201 | | 8.3<br>1.3 | 乳茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 4／5 |
| 64 | 土師器<br>皿 | SX201 | | 8.6<br>1.6 | 淡茶灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 9／10 |
| 65 | 土師器<br>皿 | SX201 | | 8.4<br>1.4 | 乳茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 4／5 |
| 66 | 土師器<br>皿 | SX201 | | 8.6<br>1.7 | 淡茶灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 1／2 |
| 67 | 土師器<br>皿 | SX201 | | 8.4<br>1.6 | 淡茶灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | ほぼ完形 |
| 68 | 土師器<br>皿 | SX201 | | 8.2<br>1.5 | 淡茶灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | ほぼ完形 |
| 69<br>9 | 土師器<br>皿 | SX201 | | 7.6<br>1.1 | 暗灰褐色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | ほぼ完形 |
| 70<br>9 | 土師器<br>皿 | SX201 | | 9.1<br>0.9 | 白茶色 | 密 | 良好 | ナデ。 | 1／4<br>反転 |
| 71 | 土師器<br>皿 | SX201 | | (11.4)<br>1.4 | 灰茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 1／4<br>反転 |
| 72<br>9 | 土師器<br>皿 | SX201 | | (13.0)<br>2.1 | 乳茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 3／4<br>反転 |
| 73 | 土師器<br>皿 | SX201 | | (13.0)<br>2.4 | 乳茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 1／2<br>反転 |
| 74 | 土師器<br>皿 | SX201 | | (13.0)<br>2.6 | 乳茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 1／2<br>反転 |
| 75<br>9 | 土師器<br>皿 | SX201 | | (13.3)<br>2.5 | 乳茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 2／3<br>反転 |
| 76<br>9 | 土師器<br>皿 | SX201 | | 12.8<br>3.25 | 乳茶色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 | 1／2 |
| 77<br>9 | 瓦器<br>鍋 | SX201 | | (32.6) | 黒灰色<br>淡灰赤色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部外面ユビオサエ、内面ナデ。 | 極小<br>反転 |
| 78 | 瓦器<br>羽釜 | SX201 | 鍔径 | (22.0)<br>(25.8) | 黒灰色 | 密 | 良好 | 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ナデ。内面ヨコハケ。 | 極小<br>反転 |
| 79<br>9 | 土師器<br>羽釜 | SX201 | 鍔径 | 28.05<br>40.4h | 黄茶色 | やや粗 | 良好 | 鍔～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ナデ。 | 4／5<br>一部反転 |
| 80 | 土師器<br>羽釜 | SX201 | 鍔径 | (38.8)<br>(51.4) | 淡茶灰色 | 密 | 良好 | ナデ。 | 極小<br>反転 |
| 81 | 白磁<br>椀 | SX201 | | (15.8) | 乳灰黄色 | 密 | 良好 | 回転ナデ。 | 極小<br>反転 |
| 82<br>9 | 白磁<br>椀 | SX201 | | (17.0) | 乳灰緑色 | 密 | 良好 | 回転ナデ。 | 極小<br>反転 |
| 83<br>10 | 白磁<br>四耳壺 | SX201 | 高台径<br>高台高 | (8.3)<br>1.1 | 乳灰緑色 | 密 | 良好 | 回転ヘラケズリ、回転ナデ。高台露胎。 | 1／5<br>反転 |

| 遺物番号<br>図版番号 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm)<br>(復元値) | 口径<br>器高 | 色調 外<br>内 | 胎土 | 焼成 | 技法・形態等の特徴 | 残存<br>備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 84 | 白磁<br>四耳壺 | S X201 | 頸部径 | (8.2) | 乳灰緑色 | 密 | 良好 | 回転ヘラケズリ、回転ナデ。体部内面露胎。 | 極小<br>反転 |
| 85<br>10 | 青磁<br>皿 | S X201 | | (9.5)<br>1.8 | 淡緑灰色 | 密 | 良好 | 内面片切彫りと櫛描きによる花文。<br>回転ヘラケズリ、回転ナデ。底部露胎。 | 1／4<br>反転 |
| 86 | 青磁<br>椀 | S X201 | | 16.7 | 淡緑灰色 | 密 | 良好 | 外面櫛描文。内面片切り彫り。<br>回転ヘラケズリ、回転ナデ。 | 極小 |
| 87<br>10 | 青磁<br>椀 | S X201 | 高台径<br>高台高 | 4.8<br>0.7 | 淡緑灰色 | 密 | 良好 | 外面櫛描文。内面片切り彫りと、櫛によるジグザグ文。<br>回転ヘラケズリ、回転ナデ。高台～体部露胎。 | 1／2<br>一部反転 |
| 88<br>10 | 常滑<br>壺 | S X201 | 底径 | (17.8)<br>35.7<br>(13.35) | 暗灰色 | 密 | 良好 | 口縁部ヨコナデ。底体部ナデ。体部下位スタンプ文。口縁部～肩部、底部内面に自然釉。 | 2／3<br>反転 |
| 89 | 東播系須恵器<br>鉢 | S X201 | | (26.2) | 灰色 | 密 | 良好 | 外面回転ナデ。内面ナデ。 | 極小<br>反転 |
| 90 | 東播系須恵器<br>鉢 | S X201 | | (28.1) | 淡灰色 | 密 | 良好 | 回転ナデ。 | 極小<br>反転 |
| 91<br>11 | 硯 | S X201 | 長辺<br>短辺<br>厚さ | 11.0<br>8.6<br>1.0 | | | | 硯－長辺5.2、幅1.7、厚さ1.1 | |
| 92 | 磨板 | S X201<br>P 3 | 長辺<br>短辺<br>厚さ | 37.7<br>10.6<br>3.2 | | | | | |
| 93<br>10 | 軒丸瓦 | S X201 | 瓦当径<br>瓦当厚 | 14.0<br>2.5 | 暗灰色 | 粗 | 良好 | 瓦当－裏ナデ、周縁ナデ。 | |
| 94<br>10 | 軒丸瓦 | S X201 | | | 淡灰色 | 密 | 良好 | 凹面－布目。<br>凸面－縦方向ナデ。<br>瓦当裏ナデ。 | |
| 95<br>10 | 軒平瓦 | S X201 | 瓦当厚 | 4.4 | 暗灰色 | 粗 | 良好 | 凹面－布目、工具によるナデ。<br>凸面－工具によるナデ。 | |
| 96 | 軒平瓦 | S X201 | | | 白灰色 | やや粗 | 良好 | 凹面－布目。 | |
| 97 | 丸瓦 | S X201 | 幅<br>高さ<br>厚さ | 15.7<br>8.2<br>2.0 | 灰色 | やや粗 | 良好 | 凹面－布目、玉縁削り。<br>凸面－ナデでタタキ残る。<br>側面－ヘラケズリ。 | |
| 98<br>10 | 丸瓦 | S X201 | 高さ<br>厚さ | 7.0<br>1.6 | 暗灰色 | 粗 | 良好 | 凹面－布目、玉縁削り。<br>凸面－ナデでタタキ残る。<br>側面－ナデ。 | |
| 99 | 丸瓦 | S X201 | 高さ<br>厚さ | 4.8<br>1.6 | 暗灰色 | 粗 | 良好 | 凹面－布目。<br>凸面－ナデでタタキ残る。<br>側面－ナデ。 | |
| 100 | 丸瓦 | S X201 | 厚さ | 2.5 | 暗灰色 | 粗 | 良好 | 凹面－ナデ。<br>凸面－ナデ。<br>側面－ナデ。 | |
| 101<br>11 | 平瓦 | S X201 | 長辺<br>幅<br>厚さ | 36.6<br>26.1<br>2.9 | 淡灰色 | 粗 | 良好 | 凹面－布目、ハケ状工具痕、端部ナデ。<br>凸面－縄目タタキ、離れ砂。<br>側面－ナデ。 | |
| 102<br>11 | 平瓦 | S X201 | 長辺<br>幅<br>厚さ | 36.7<br>25.3<br>3.0 | 暗灰色 | 粗 | 良好 | 凹面－縦方向ハケ状工具痕、端部ヘラケズリ。<br>凸面－縄目タタキ、離れ砂。<br>側面－ナデ。　　※大和型瓦器破片含む。 | |
| 103 | 平瓦 | S X201 | 厚さ | 2.4 | 暗灰色 | 粗 | 良好 | 凹面－布目、端部ナデ。<br>凸面－縄目タタキ。<br>側面－ナデ。 | |
| 104 | 平瓦 | S X201 | 厚さ | 2.5 | 暗灰色 | 粗 | 良好 | 凹面－ハケ状工具痕、ナデ。<br>凸面－縄目タタキ、横方向ハケ状工具痕。<br>側面－ヘラケズリ。 | |
| 105<br>12 | 青磁<br>椀 | S D202 | | (11.4) | 淡緑灰色 | 密 | 良好 | 外面細線蓮弁文。 | 極小<br>反転 |
| 106 | 備前<br>壺 | S D202 | | (15.8) | 暗茶色 | 密 | 良好 | ナデ。 | 極小<br>反転 |

| 遺物番号・図版番号 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm)(復元値) | 口径・器高 | 色調 外 | 色調 内 | 胎土 | 焼成 | 技法・形態等の特徴 | 残存・備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 107 | 備前擂鉢 | SD202 | | (42.6) | 茶褐色 | | 密（1㎜以下の砂粒含む） | 良好 | 同転ナデ。 | 極小 |
| 108 12 | 瓦器 鍋 | SD202 | | (47.0) | 淡灰色 | | やや粗（0.5～2㎜の砂粒含む） | 良好 | 口縁部ヨコナデ。体部外面タタキ、内面ハケ。 | 極小 反転 |
| 109 | 瓦器 皿 | SD202 | 底径 | (19.0) | 淡灰褐色 | 灰褐色 | 密（3㎜以下の砂粒含む） | 良好 | 体部外面ナデ。 | 1／4 反転 |
| 110 12 | 軒丸瓦 | SD202 | 厚さ | 2.1 | 灰茶色 | | 密 | やや不良 | 丸瓦裏ナデ。 | |
| 111 12 | 軒平瓦 | SD202 | 厚さ | 3.3 | 暗灰色 | | 密 | 良好 | 凸面－縦方向工具によるナデ。顎下面ナデ。 | |
| 112 | 丸瓦 | SD202 | 高さ 厚さ | 6.7 1.7 | 黒灰色 | | 密 | 良好 | 凹面－布目、端部工具によるナデ。凸面－ナデ。側面－ナデ。 | |
| 113 | 丸瓦 | SD202 | 高さ 厚さ | 9.4 3.3 | 乳褐色 | | 密 | 良好 | 凹面－布目、端部工具によるナデ。凸面－ナデで縄目タタキ残る。側面－ナデ。 | |
| 114 | 丸瓦 | SD202 | 厚さ | 2.2 | 灰茶色 | | やや粗 | 良好 | 凹面－布目、端部ナデ。凸面－ナデで縦方向のハケ状工具痕残る。側面－ナデ。 | |
| 115 12 | 丸瓦 | SD202 | 高さ 厚さ | 7.2 2.0 | 淡灰色 | | やや粗 | 良好 | 凹面－布目、横方向縄目。凸面－ナデ。側面－ヘラケズリ。 | |
| 116 | 丸瓦 | SD202 | 高さ 厚さ | 8.8 3.6 | 灰色 | | 密 | 良好 | 凹面－布目、端部ナデ。凸面－ナデ。側面－ナデ。 | |
| 117 | 丸瓦 | SD202 | 高さ 厚さ | 7.9 4.1 | 茶褐色 | | やや粗 | 不良 | 凹面－布目、縄目、端部ナデ。凸面－ナデ。側面－ナデ。 | |
| 118 | 平瓦 | SD202 | 高さ 厚さ | 7.0 2.5 | 淡灰色 | | 密 | 不良 | 凹面－ハケ状工具痕、離れ砂。凸面－格子タタキ、工具痕、離れ砂。側面－ナデ。 | |
| 119 | 平瓦 | SD202 | 高さ 厚さ | 7.5 2.8 | 茶色 | | やや粗 | 良好 | 凹面－工具による縦方向ナデ、離れ砂。凸面－離れ砂。側面－離れ砂。 | |
| 120 | 平瓦 | SD202 | 高さ 厚さ | 7.0 2.9 | 淡灰茶色 | | やや粗 | 良好 | 凹面－布目、端部ヘラケズリ。凸面－縄目タタキ。側面－ヘラケズリ。 | |
| 121 12 | 平瓦 | SD202 | 高さ 厚さ | 7.0 2.5 | 茶灰赤色 | | やや粗 | 良好 | 凹面－布目、横方向工具痕。凸面－縄目タタキ。側面－ヘラケズリ。 | |
| 122 | 平瓦 | SD202 | 厚さ | 2.4 | 黄茶色 | | 密 | 良好 | 凹面－布目、離れ砂、端部ヘラケズリ。凸面－縄目タタキ、離れ砂。側面－ヘラケズリ。 | |
| 123 | 平瓦 | SD202 | 厚さ | 2.6 | 乳茶色 | | 密 | 不良 | 凹面－離れ砂、端部ヘラケズリ。凸面－縄目タタキ、指頭痕。側面－ヘラケズリ、ナデ。 | |
| 124 12 | 平瓦 | SD202 | 高さ 厚さ | 6.3 2.5 | 茶色 | | 密 | 良好 | 凹面－縦方向ナデ。凸面－格子タタキ、離れ砂。側面－ナデ。 | |
| 125 12 | 瓦質瓦 | SD202 | 高さ 厚さ | 8.8 2.0 | 淡乳灰色 | | やや粗 | 良好 | 凹面－布目、縦方向ハケ状工具痕、離れ砂、端部ナデ。凸面－縄目タタキ後ナデ、離れ砂。側面－ナデ。 | |
| 126 | 瓦質瓦 | SD202 | 高さ 厚さ | 8.8 1.9 | 乳灰茶色 | | やや粗 | 良好 | 凹面－布目、縦方向の工具によるナデ、端部ナデ。凸面－縄目タタキ後ナデ。側面－ナデ。 | |
| 127 | 瓦質瓦 | SD202 | 高さ 厚さ | 8.4 1.9 | 乳茶色 | | 密 | 良好 | 凹面－縦方向の工具によるナデ、端部ナデ。凸面－縄目タタキ後ナデ。側面－ナデ。 | |
| 128 12 | 瓦質瓦 | SD202 | 高さ 厚さ | 9.9 3.0 | 淡灰色 | | やや粗 | やや不良 | 凹面－布目、ハケ状工具によるナデ、端部ナデ。凸面－ナデ。側面－ナデ。 | |
| 第4図 | 一石五輪塔 | 1区 不明 | 幅 幅 | 38.7 12.8 | | | | | | |

# 第4章　まとめ

今回の調査では鎌倉時代末頃から近世の遺構・遺物を検出した。

鎌倉時代末頃では、特殊な遺構として注目されるＳＸ201を検出した。遺構の性格については不明な点が多いが、水溜め状施設の後炊事場等として利用されたと捉えている。同様の遺構としては八尾市福万寺遺跡に類例がある。出土遺物には破片ではあるが中国製白磁四耳壺や同安窯系青磁椀等の輸入陶磁器が含まれており、また千眼寺創建当時のものと考えられる平安時代後期の瓦も出土している。寺院を中心とした当時の集落の繁栄が推察できよう。なおこの時期の遺構は当地の西部、昭和55年度調査でも検出されている。

室町時代前半では井戸・溝が検出された。井戸ＳＥ201は出土遺物から13世紀末頃に築造され、15世紀初頭以降に埋没したと考えられる。

室町時代後半では、建物等の遺構は検出されなかったが、寺院関連遺構として３・４区において周辺部の既往の調査と同様に瓦集積が認められ、多量の瓦の出土をみた。火災を受けた建物の廃材が溝に廃棄されたという状況で、整地に伴うものと考えられる。寺院廃絶の時期を知るうえで重要な遺構である。共伴する土器や陶磁器は15世紀後半から16世紀初頭に比定できるものであり、火災から整地までの時期差があったとしても、およそこの時期まで寺院は存続していたと考えられる。なおこの溝は寺域の西限となる可能性がある。

註１　八尾市教育委員会「６．宮町遺跡（90　615）の調査」『八尾市内遺跡平成３年度発掘調査報告書』1992．３　八尾市文化財調査報告25

註２　財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター「東海の中世窯－生産技術の交流と展開－」1993

註３　広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編「草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅱ」1994

参考文献

○大阪府教育委員会・㈱大阪文化財センター「日置荘遺跡（その２）」　1988．３

○八尾市教育委員会「宮町遺跡発掘調査概要Ⅰ－穴太神社境内廃千眼寺の調査－」1982．３

○㈱八尾市文化財調査研究会「宮町遺跡発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報1980・1981年度』1983．８　㈱八尾市文化財調査研究会報告２

○㈱八尾市文化財調査研究会「宮町遺跡発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要昭和56・57年度』1983　㈱八尾市文化財調査研究会報告３

○㈱八尾市文化財調査研究会「福万寺遺跡　上之島町北３丁目22－１の調査－」　1990．６　㈱八尾市文化財調査研究会報告24

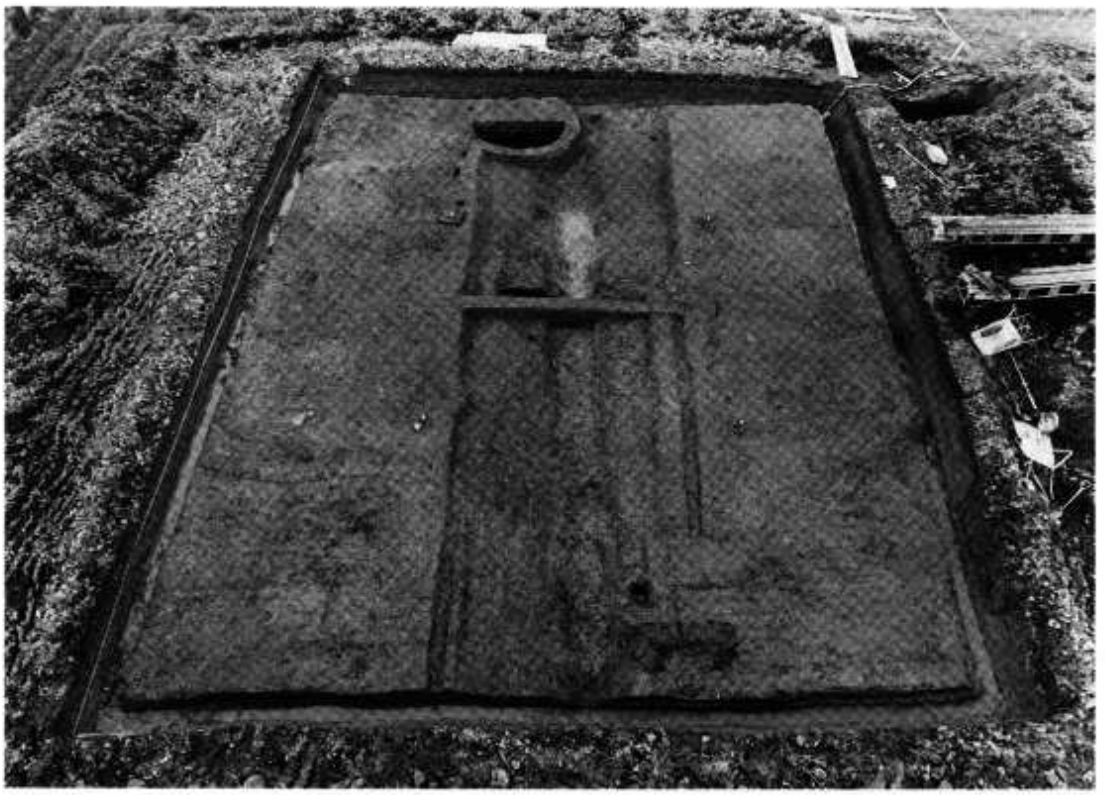
○横田賢次郎・森田勉「太宰府出土の輸入中国陶磁器について－形式分類と編年を中心として－」『九州歴史資料館研究論集４』1978

○藤井寺市教育委員会「藤井寺市及びその周辺の古代寺院（上）」1987

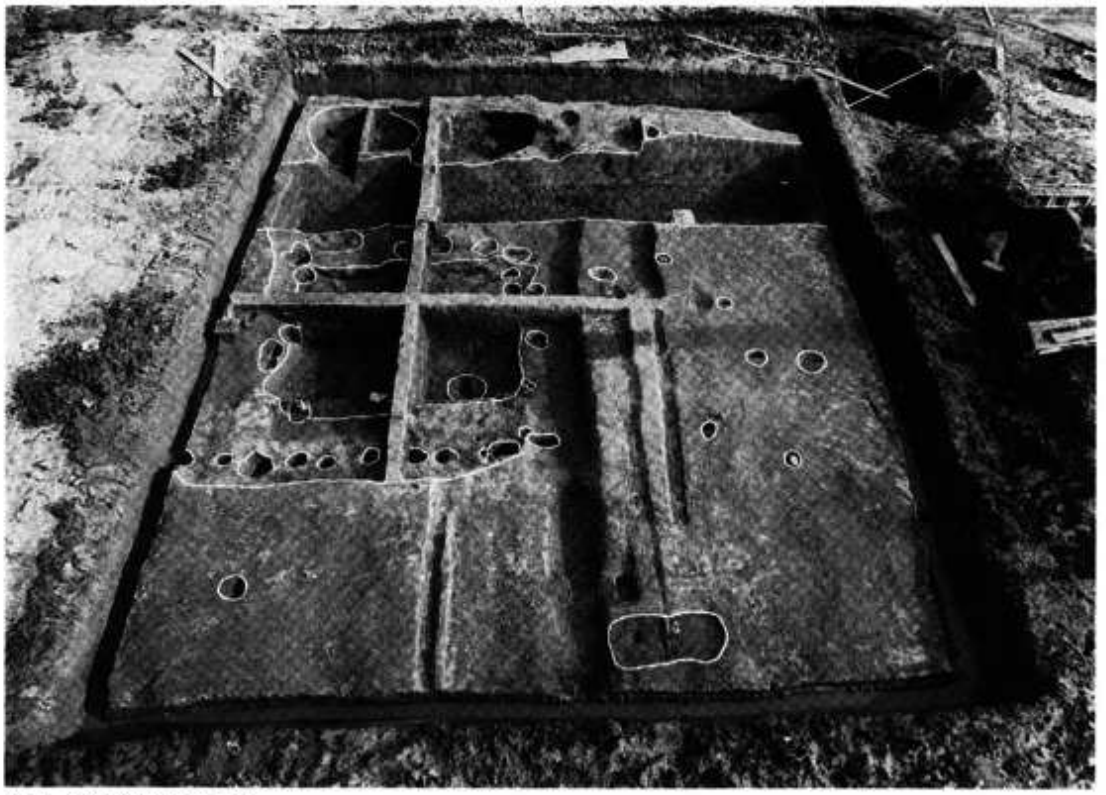
# 図　　版

調査地周辺航空写真（上が北）

図版2



1区　第1次面（北から）



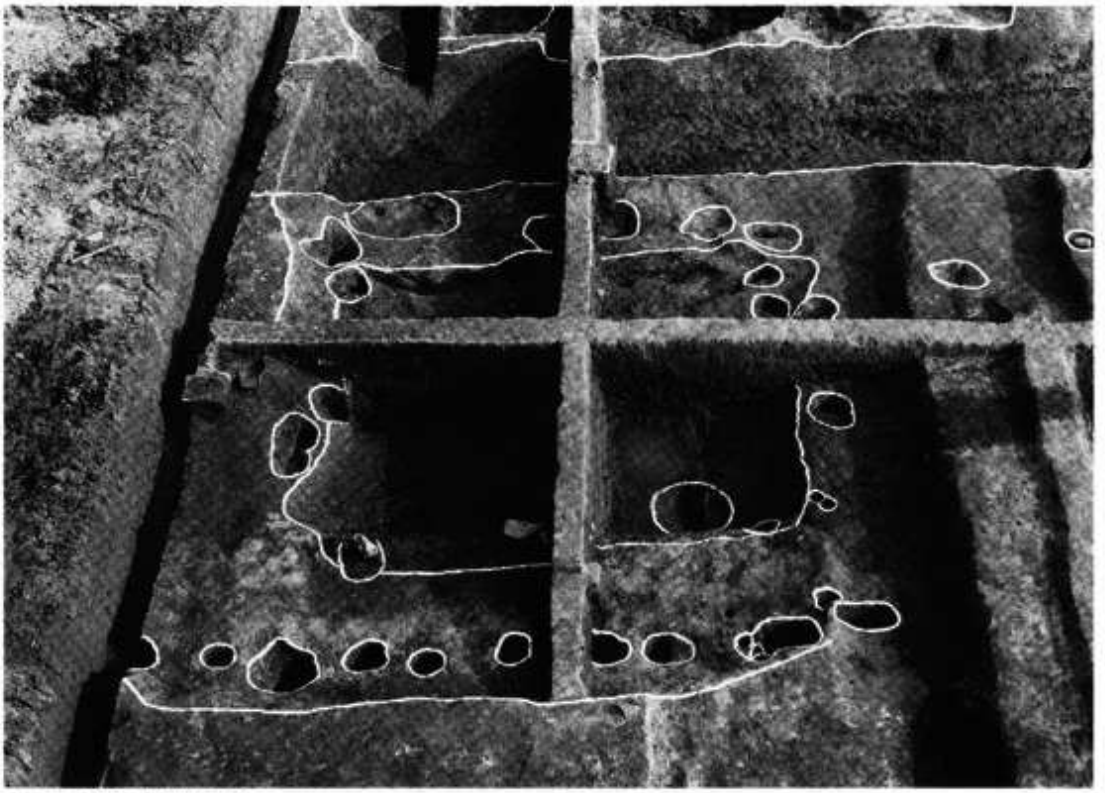
1区　第2次面（北から）

1区　SE201（東から）

1区　SE201井戸枠（東から）

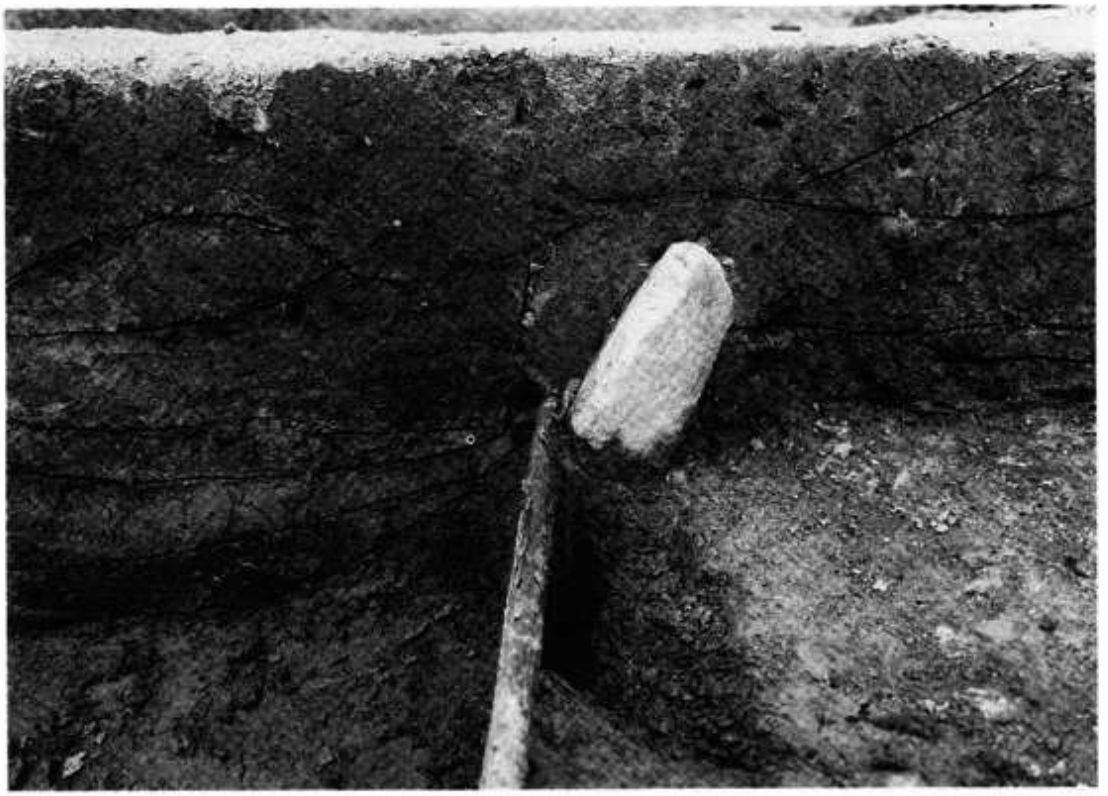
図版4

1区　ＳＥ201断ち割り（東から）



1区　ＳＸ201（北から）

1区　SX201北側板（南から）

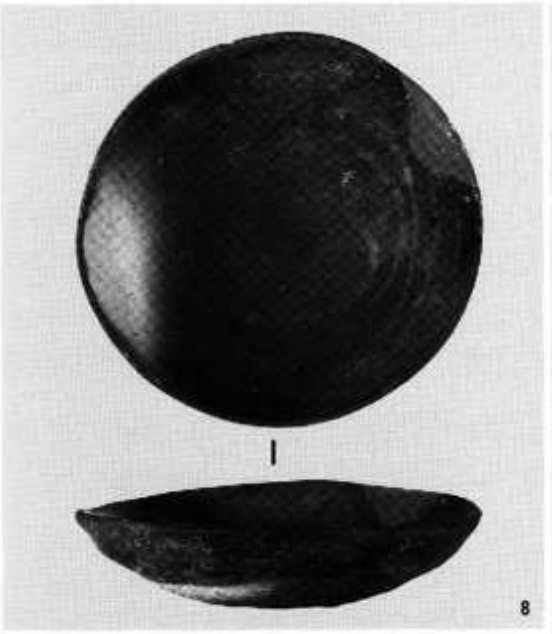


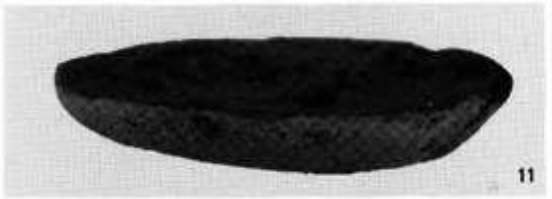
1区　SX201北側板断面（東から）

図版6

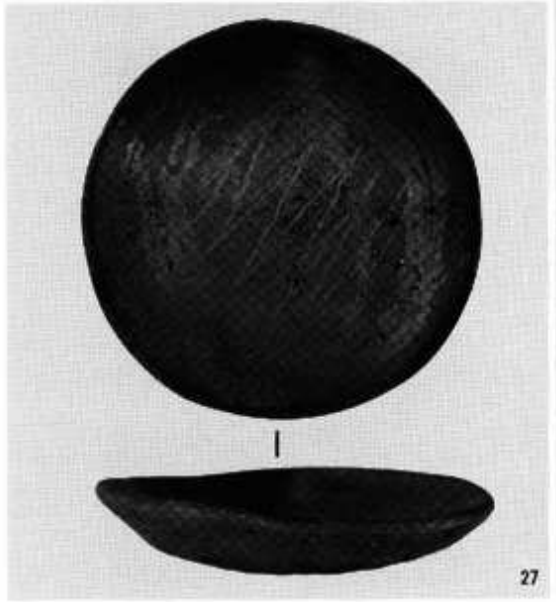
4区　SD202（西から）

4区　SD202（南から）

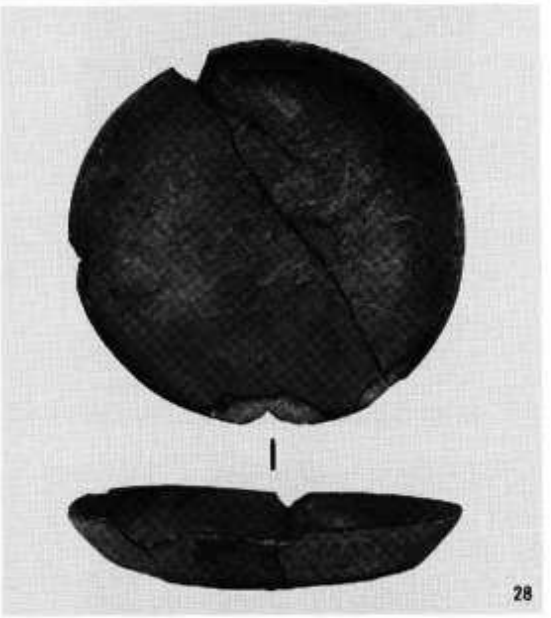

8


11

13


27

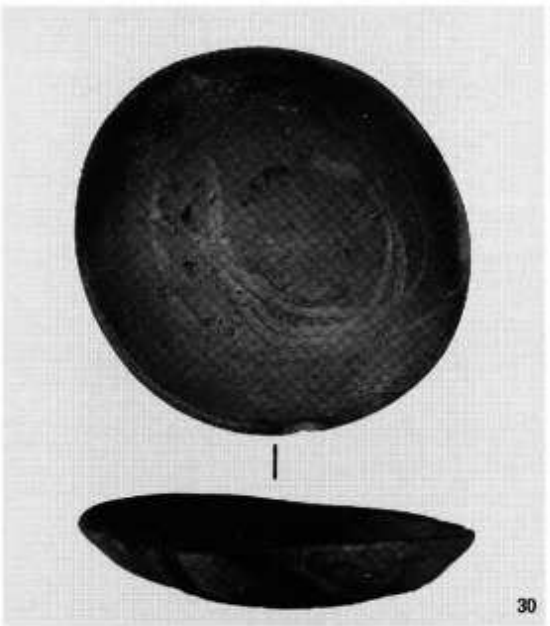
16

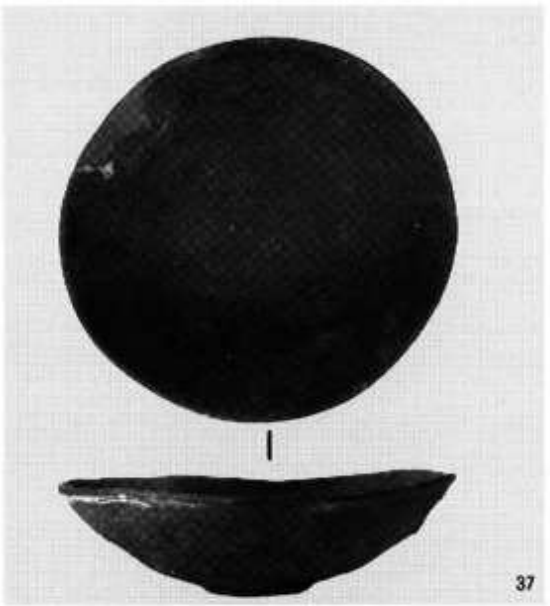

28

29

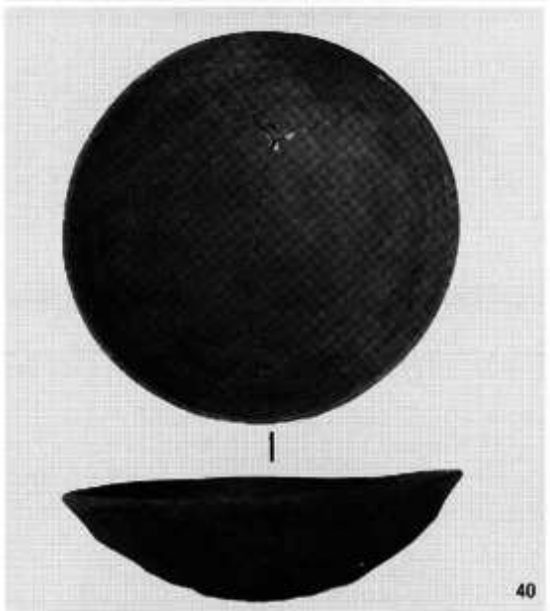
34

図版8


30


37

31


40

44

45

48

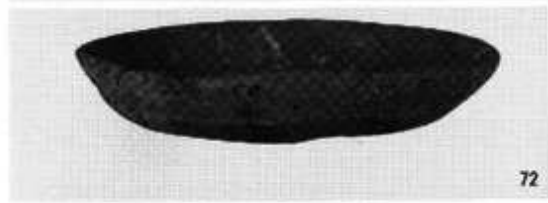
50

51

54

69

70


72

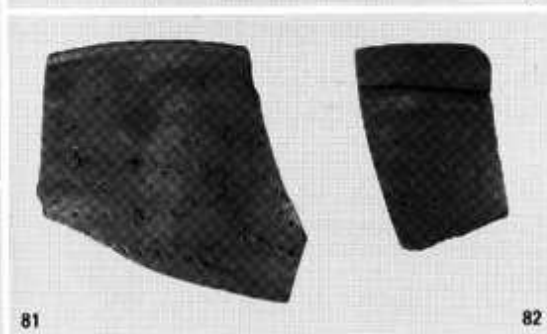
75

76

22

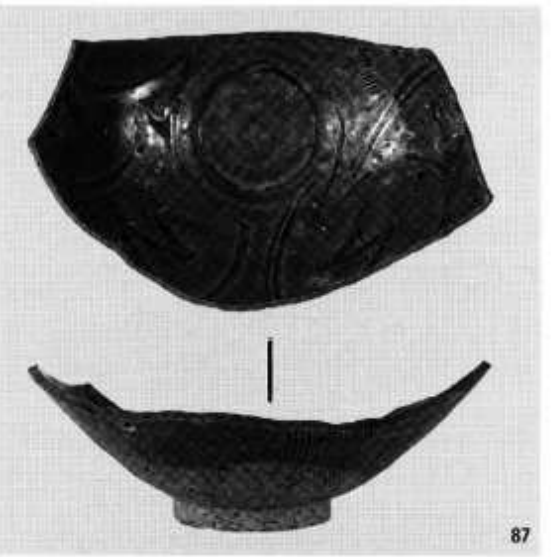
77

79


81
82

図版10

83


87

85

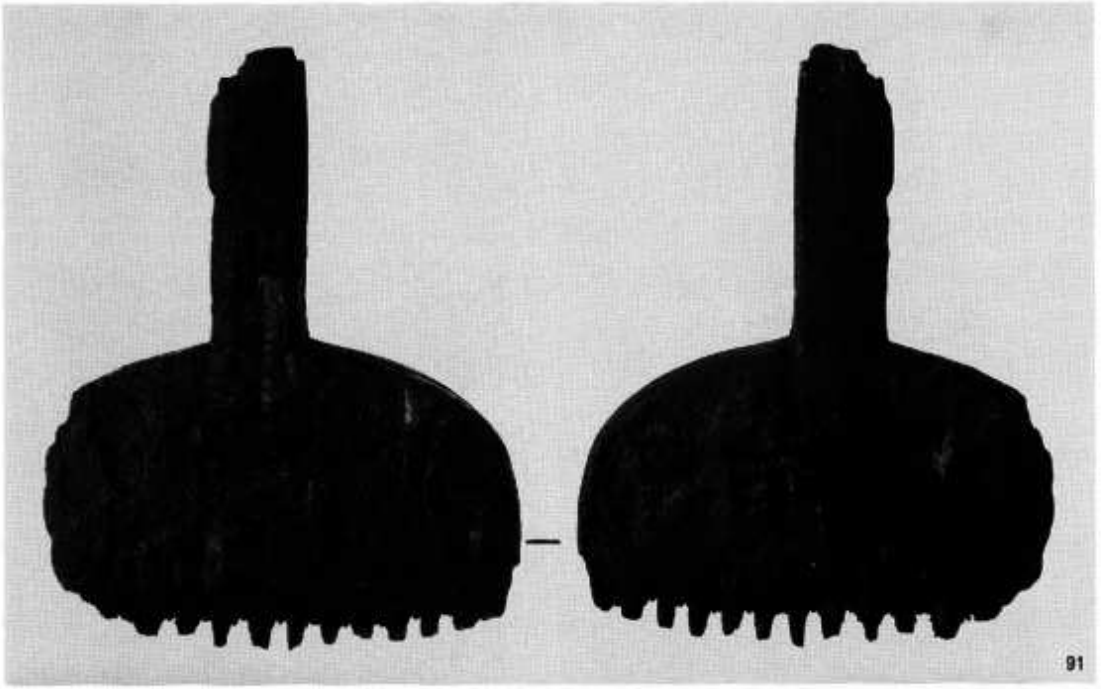
94

88

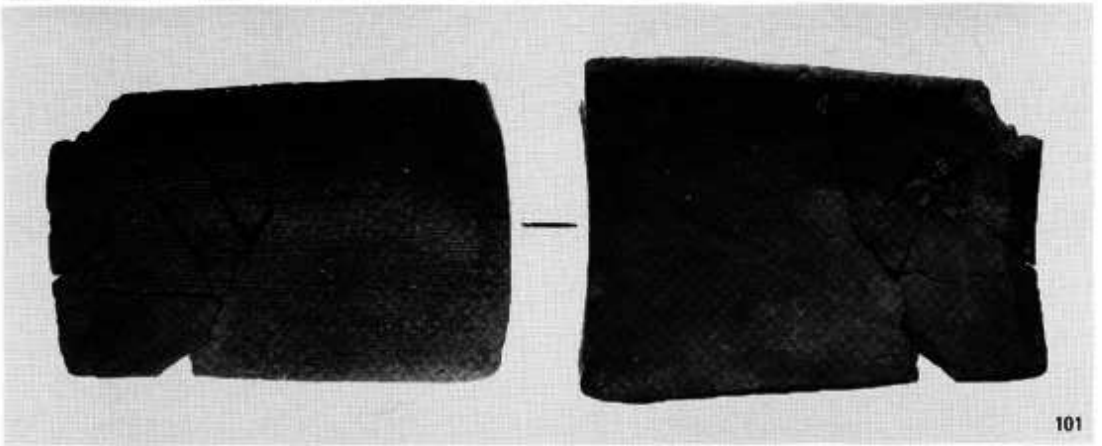
93

98

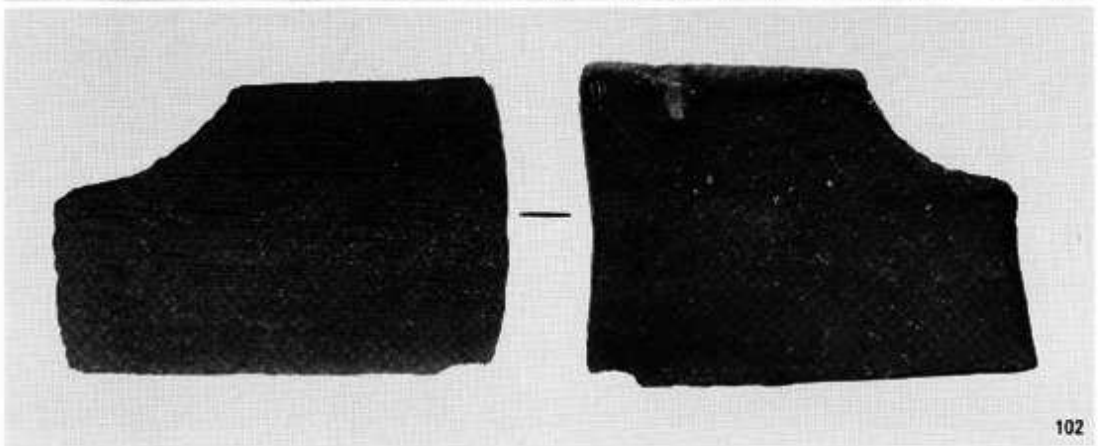
95



91



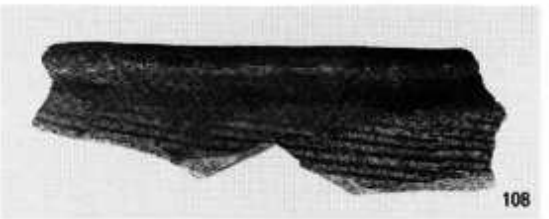
101



102

図版12

105


108

111

110

115

121

124

128

125

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | ざいだんほうじん　やおしぶんかざいちょうさけんきゅうかいほうこく |
| 書名 | 財団法人　八尾市文化財調査研究会報告45 |
| 副書名 | Ⅰ　東郷遺跡（第25次調査）　Ⅱ　宮町遺跡（第1次調査） |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 財八尾市文化財調査研究会報告 |
| シリーズ番号 | 45 |
| 編集者名 | 西村公助・坪田真一 |
| 編集機関 | 財団法人　八尾市文化財調査研究会 |
| 所在地 | 〒581　八尾市青山町4丁目4番18号　TEL　0729－94－4700 |
| 発行年月日 | 西暦1995年3月 |

| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | (㎡)<br>調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| とうごう<br>東郷遺跡<br>（第25次調査） | おおさかふやおしきたほんまち<br>大阪府八尾市北本町<br>2丁目240,241,242 | 27212 | | 34度<br>37分<br>40秒 | 135度<br>36分<br>19秒 | 昭和62年<br>7月20日～<br>9月17日 | 900 | 遊戯場等建設 |
| みやまち<br>宮町遺跡<br>（第1次調査） | おおさかふやおしみやまち<br>大阪府八尾市宮町3丁目94－1 | 27212 | | 34度<br>37分<br>52秒 | 135度<br>35分<br>59秒 | 平成3年<br>6月6日～<br>6月17日 | 200 | 店舗建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 東郷遺跡　第25次 | 集落遺構　水田遺構 | 平安時代末 | 井戸 水田 | 瓦器 | |
| | 集落遺構 | 古墳時代前期 | 井戸 溝 水田 | 土師器 | |
| 宮町遺跡　第1次 | 集落遺構 | 鎌倉時代～室町時代 | 井戸 ピット 不明遺構 | 瓦器<br>土師器<br>陶磁器 | 不明遺構は炊事場？ |
| | 寺院関連遺構 | 室町時代 | 溝（瓦集積） | 瓦 | 瓦は焼失建物の廃材 |

財団法人八尾市文化財調査研究会報告45

I 東郷遺跡（第25次調査）
II 宮町遺跡（第1次調査）

発　行　平成7年3月

編　集　財団法人　八尾市文化財調査研究会
〒581 大阪府八尾市青山町4丁目4番18号
TEL・FAX 0729-94-4700

印　刷　明新印刷株式会社
表　紙　レザック66　〈260kg〉
本　文　L書籍　〈70kg〉
図　版　マットアート〈135kg〉